
令和4年度
韮崎市男女共同参画に関する市民アンケート調査結果
(概要版)

目 次

1. 調査概要	1
2. 回答者の属性	1
3. 全般的な男女共同参画意識	5
4. 家庭生活全般における男女共同参画意識	9
5. 地域生活全般における男女共同参画意識	37
6. 職場全般における男女共同参画意識	41
7. 社会全般における男女共同参画意識	65

令和4年9月
韮 崎 市

1. 調査概要

1. 調査の目的

韮崎市男女共同参画推進プラン「男と女、ともに煌く夢プラン」の計画期間満了に伴い、プランに掲げた目標の達成状況の確認や、新たなプラン策定に係る基礎資料とする。

2. 調査実施概要

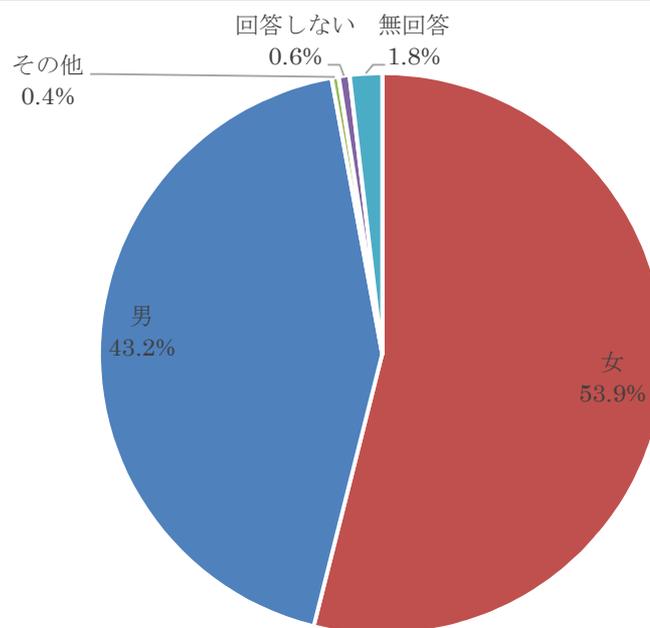
- <調査地域> 韮崎市全域
- <調査対象> 市内在住の18歳以上の男女
- <標本数> 1,000人
- <抽出方法> 無作為抽出
- <調査方法> 郵送にて配布し、郵便及びインターネットにて回収
- <調査期間> 令和4年6月10日～7月1日
- <調査機関> 韮崎市
- <有効回収数> 488人（郵送回答：385人、インターネット回答：103人）
- <回収率> 48.8%

3. 概要版を読むにあたって

- ・グラフ中の数値は、その質問項目に該当する有効回答の数（nと表示）を100.0%と計算した比率である。また、全体有効回答数については、すべての性別の合計となっている。
- ・集計（グラフ）は、小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合もある。また、複数回答の質問は、何人が選んだかを示しているため質問対象数とは一致しない。
- ・前々回調査は平成13年11月に実施し、前回調査は平成24年2月～3月に実施し、今回が3回目となる。

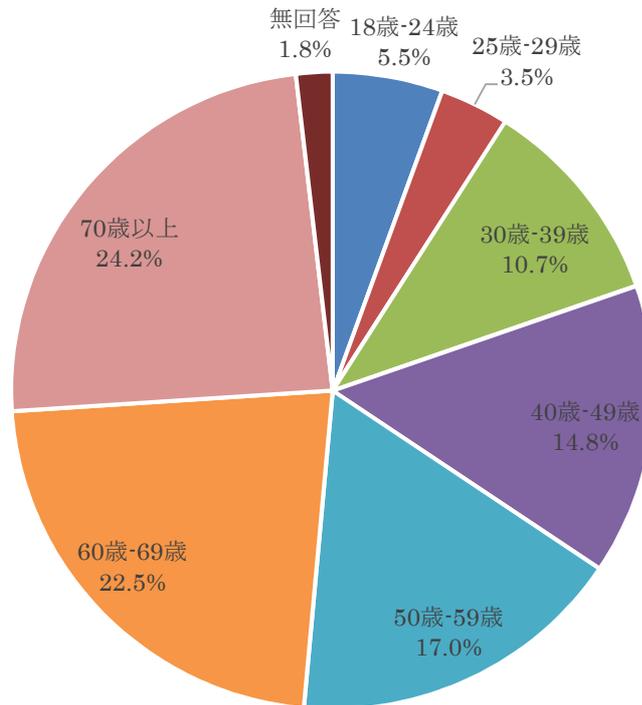
2. 回答者の属性

性別(n=488)

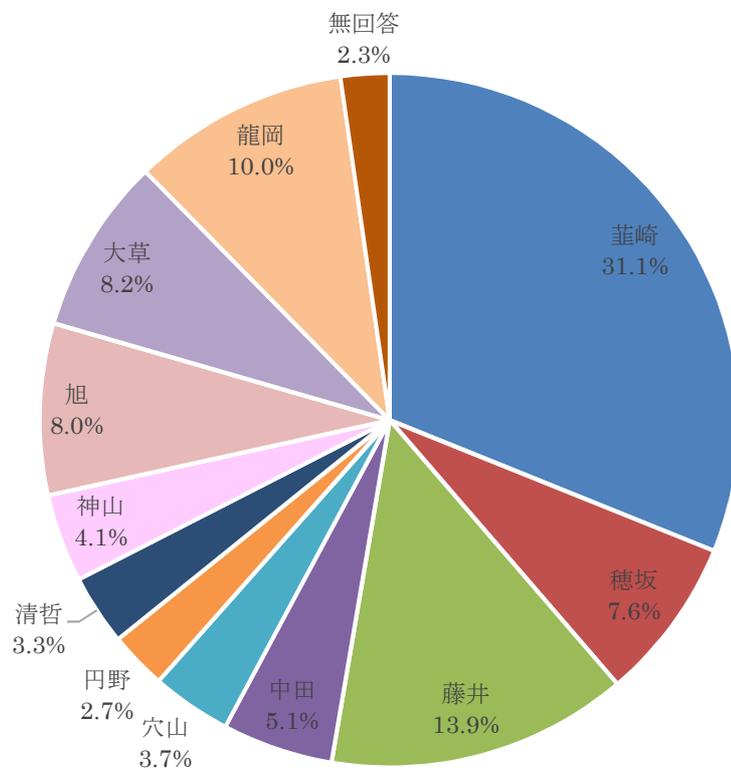


1.0%(18歳～24歳、30代、40代、70歳以上)が生物学上の男女を選択しなかった。
性的マイノリティ者の可能性が考えられる。

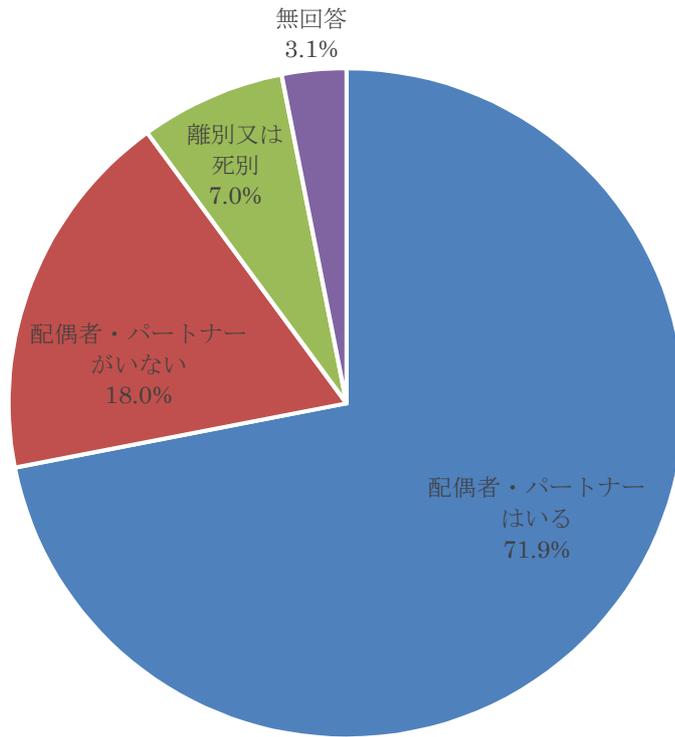
年代(n=488)



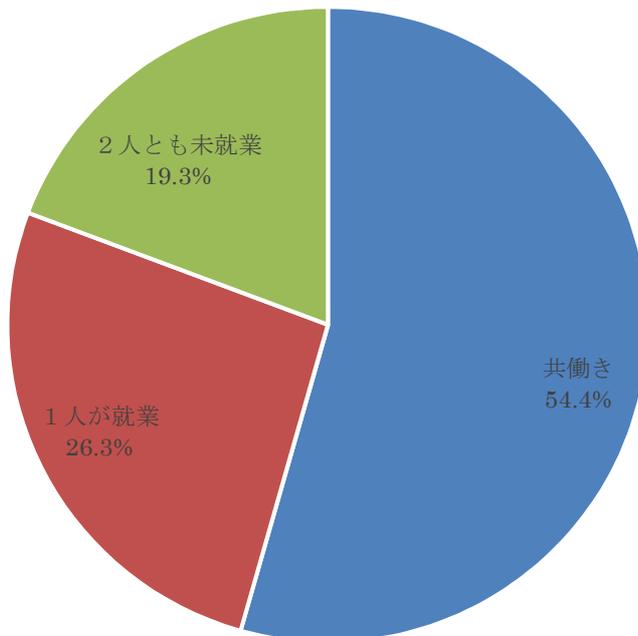
居住地区(n=488)



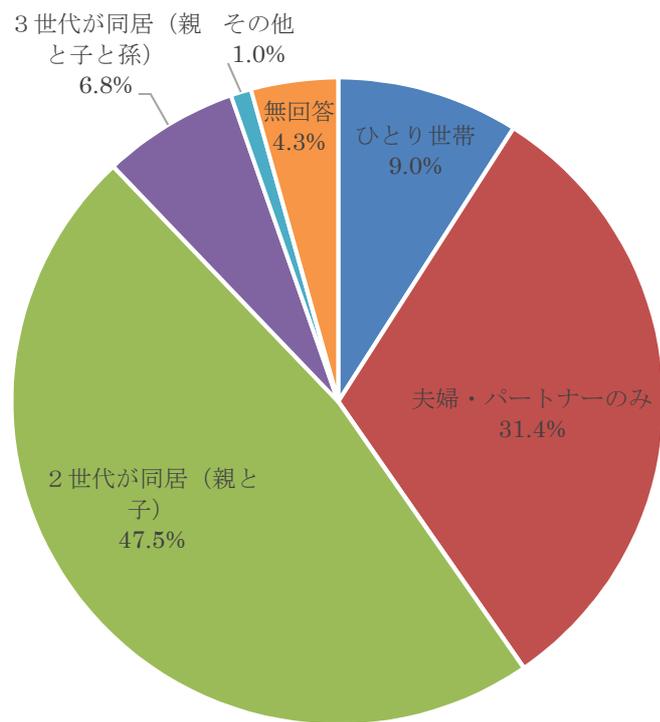
配偶者・パートナー(n=488)



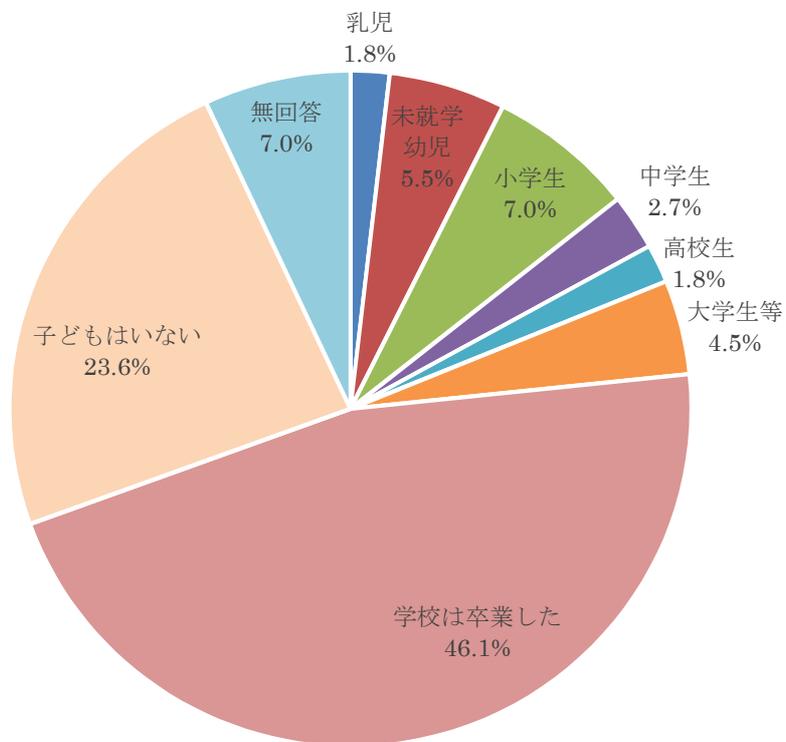
就業体系(n=488)



世帯構成(n=488)



一番下の子どもの所属(n=488)



3. 全般的な男女共同参画意識

それぞれの場での男女共同参画の推進状況

質問の対象：全員（488人）

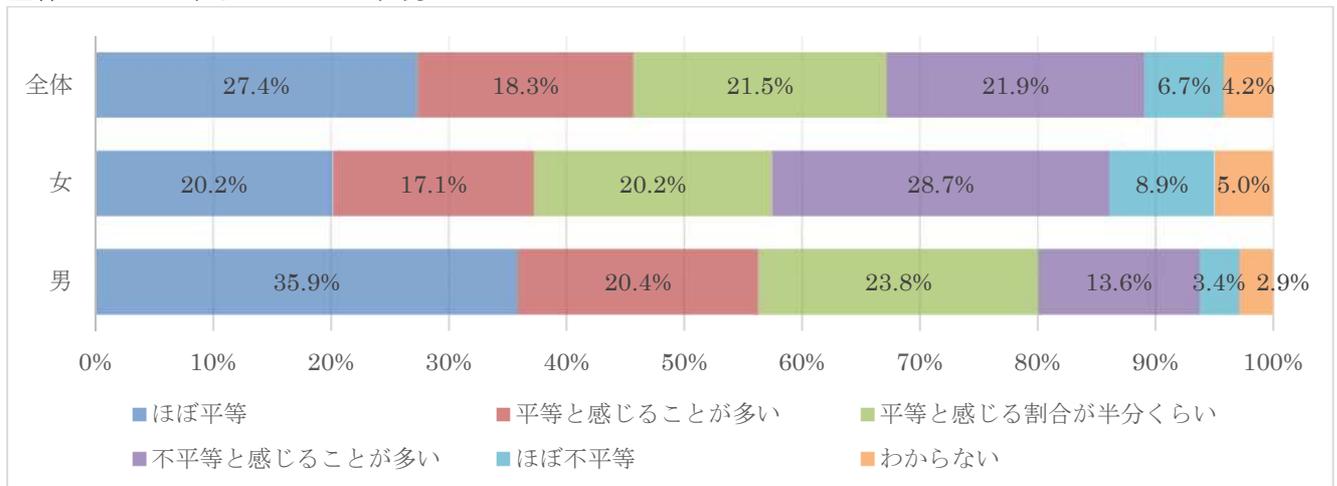
【家庭生活の場】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）45.7%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）28.6%と平等が17.1ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉37.3%、〈不平等〉37.6%で、平等と不平等がほぼ同じである。

男性は、〈平等〉56.3%、〈不平等〉が17.0%で、平等が39.3ポイント高かった。

全体：n=475、女：n=258、男：n=206



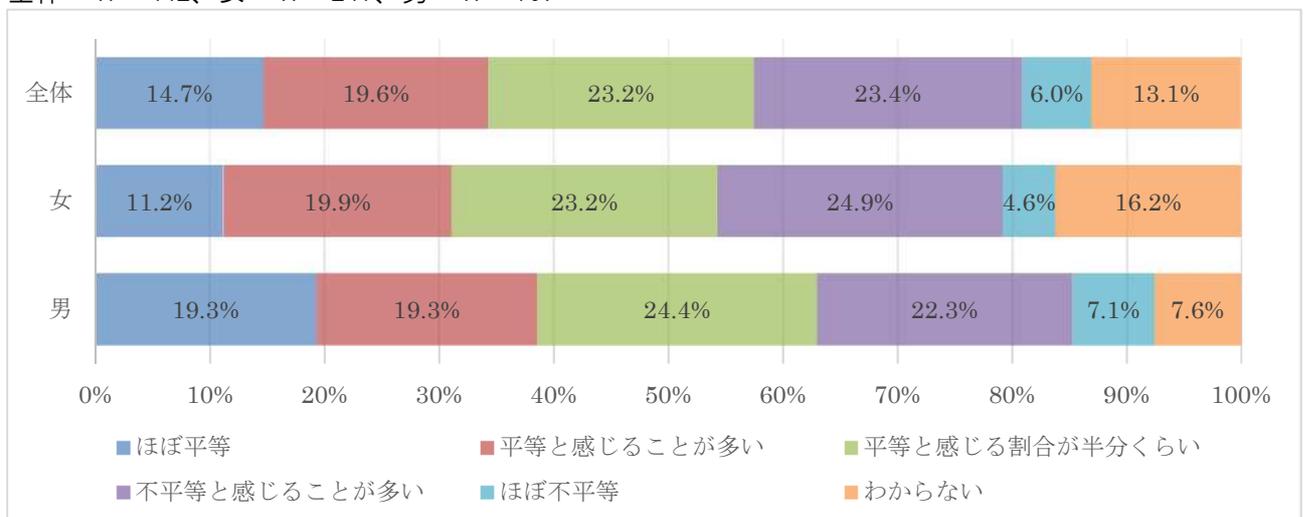
【職場】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）34.3%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）29.4%と平等が4.9ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉31.1%、〈不平等〉29.5%で、平等が1.6ポイント高かった。

男性は、〈平等〉38.6%、〈不平等〉が29.4%で、平等が9.2ポイント高かった。

全体：n=442、女：n=241、男：n=197

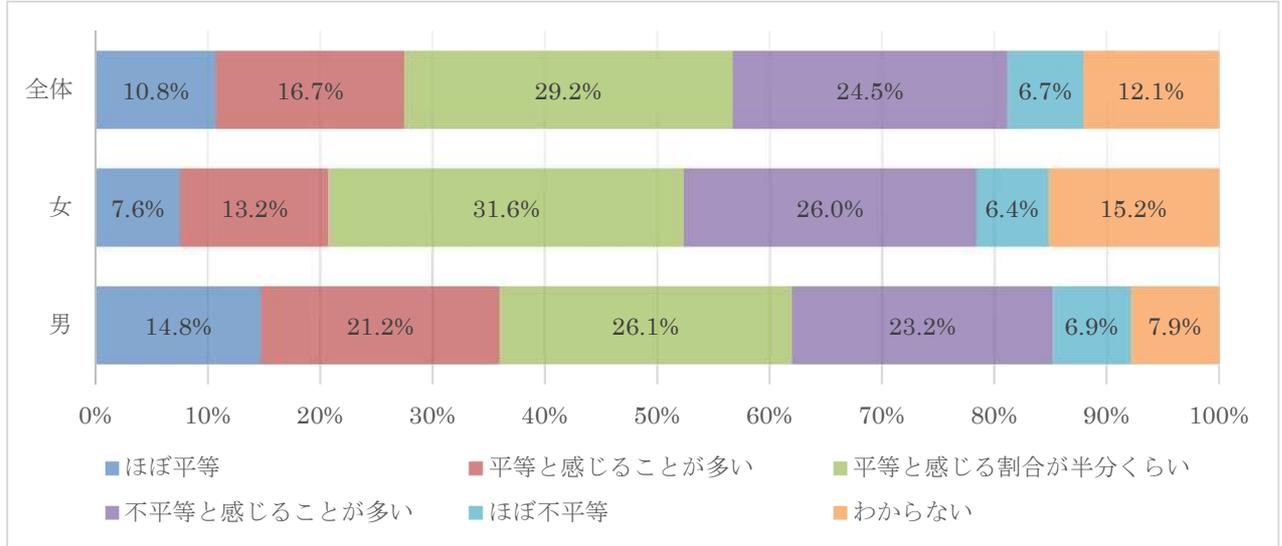


【地域活動の場】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）27.5%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）31.2%と不平等が3.7ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉20.8%、〈不平等〉が32.4%で、不平等が11.6ポイント高かった。
男性は、〈平等〉36.0%、〈不平等〉が30.1%で、平等が5.9ポイント高かった。

全体：n=462、女：n=250、男：n=203

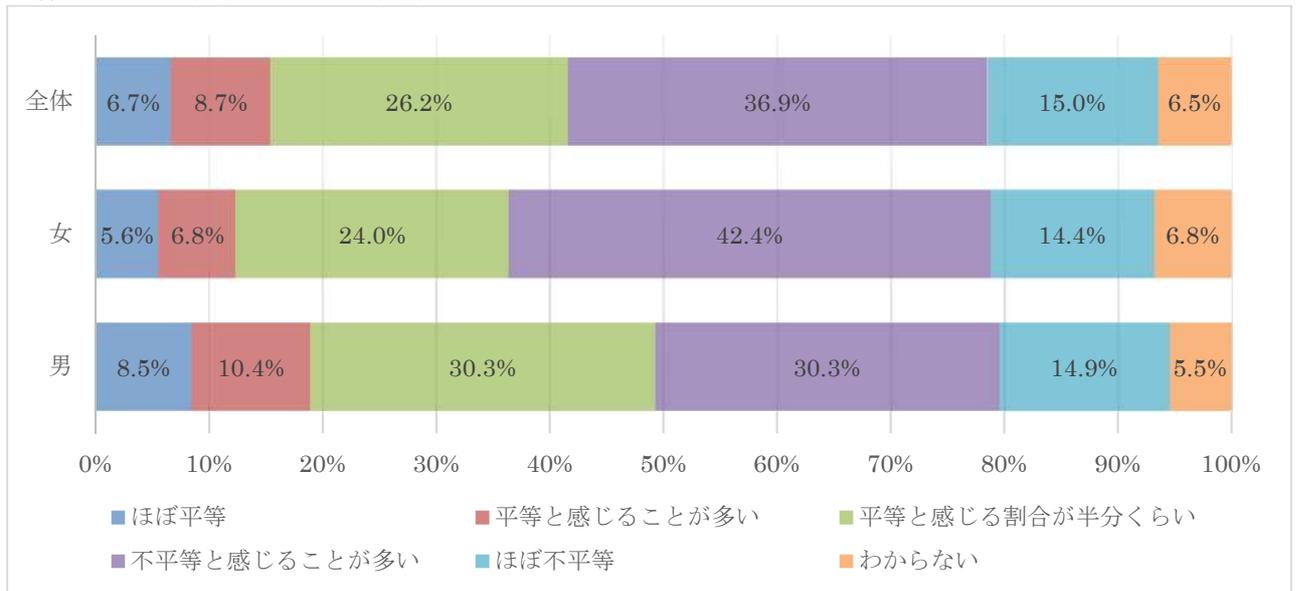


【社会通念・慣習・しきたりでの場】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）15.4%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）51.9%と不平等が36.5ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉12.4%、〈不平等〉56.8%で、不平等が44.4ポイント高かった。
男性は、〈平等〉18.9%、〈不平等〉45.2%で、不平等が26.3ポイント高かった。

全体：n=461、女：n=250、男：n=201



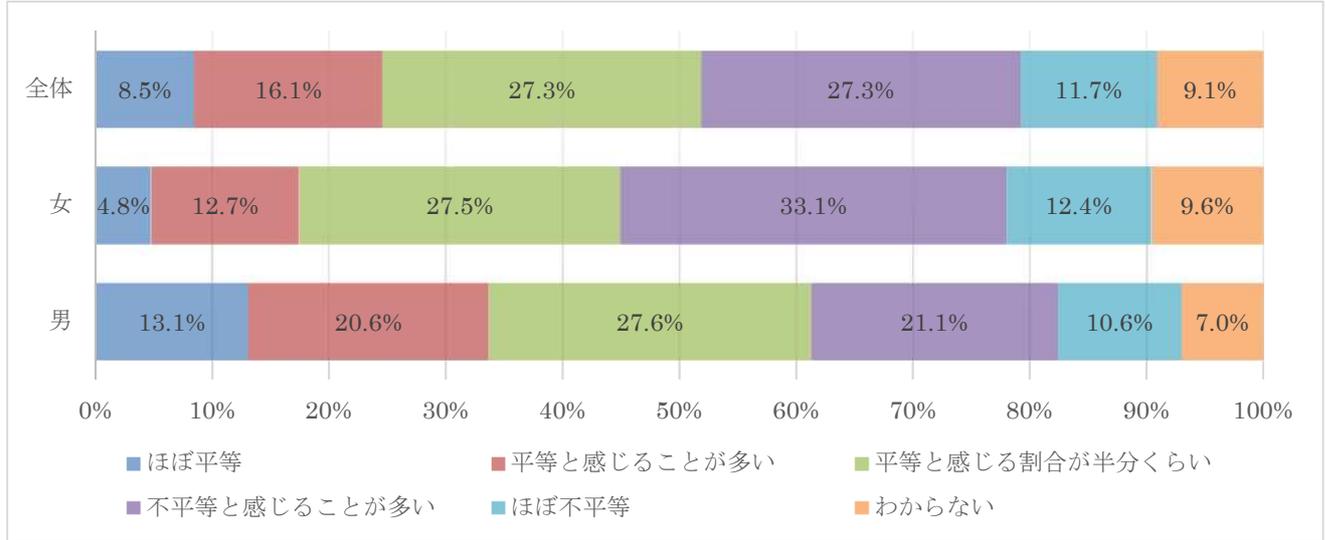
【法律や制度】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）24.6%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）39.0%と不平等が14.4ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉17.5%、〈不平等〉45.5%で、不平等が28.0ポイント高かった。

男性は、〈平等〉33.7%、〈不平等〉31.7%で、平等が2ポイント高かった。

全体：n=461、女：n=251、男：n=199



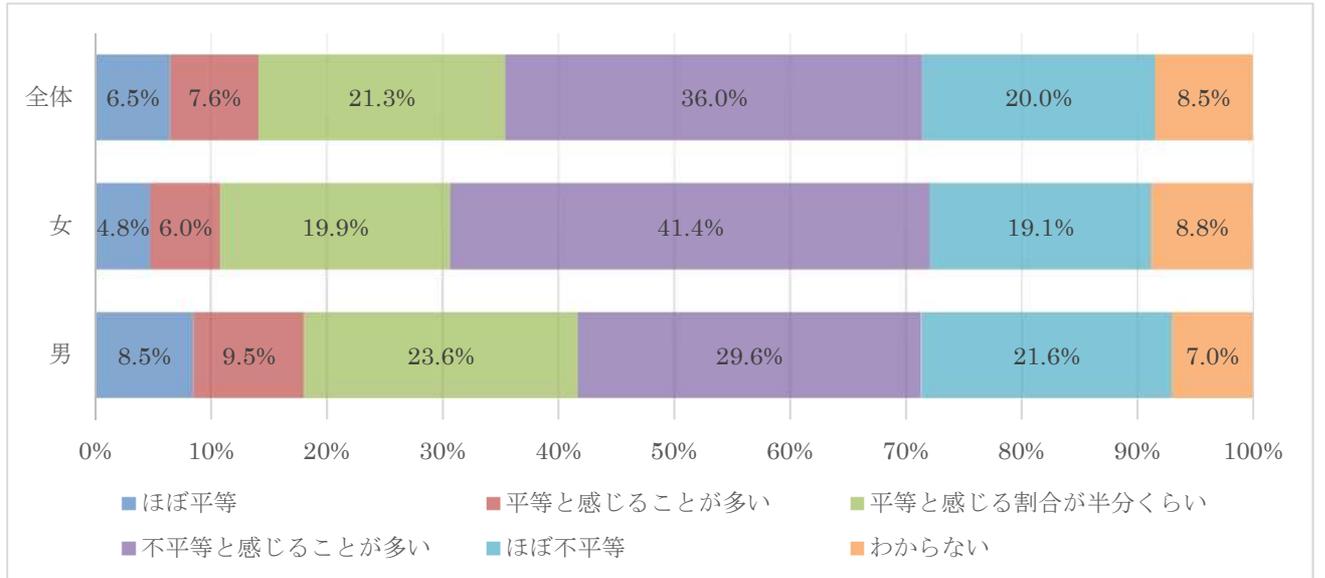
【政治の場】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）14.1%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）56.0%と不平等が41.9ポイント大幅に上回った。

性別では、女性は、〈平等〉10.8%、〈不平等〉60.5%で、不平等が49.7ポイント高かった。

男性は、〈平等〉18.0%、〈不平等〉51.2%で、不平等が33.2ポイント高かった。

全体：n=461、女：n=251、男：n=199



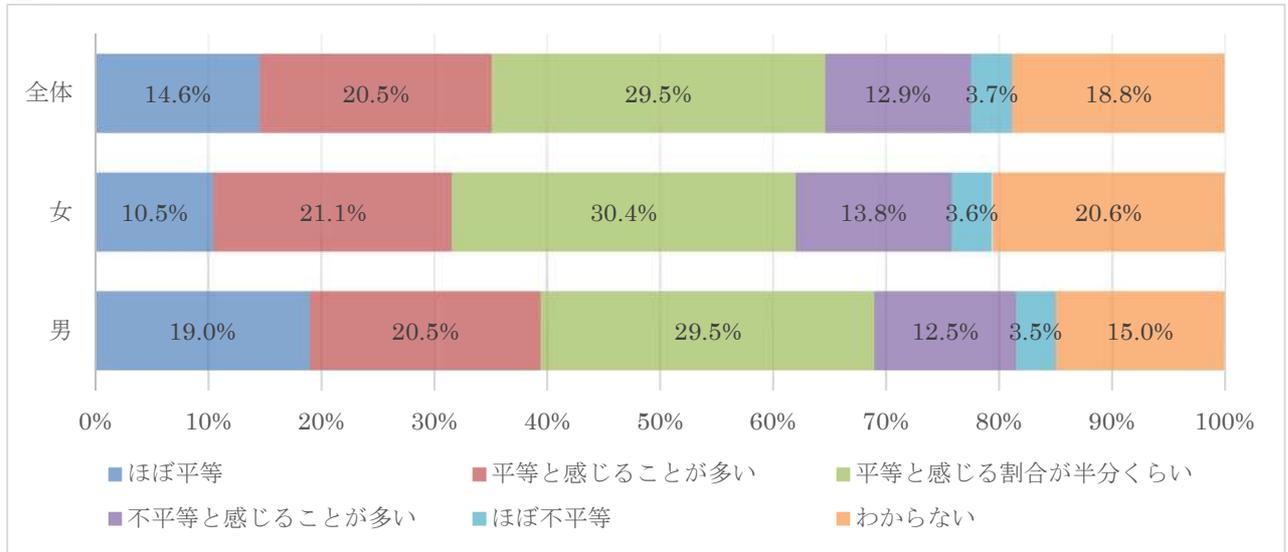
【学校教育の場】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）35.1%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）16.6%と平等が18.5ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉31.6%、〈不平等〉17.4%で、平等が14.2ポイント高かった。

男性は、〈平等〉39.5%、〈不平等〉16.0%で、平等が23.5ポイント高かった。

全体：n=458、女：n=247、男：n=200



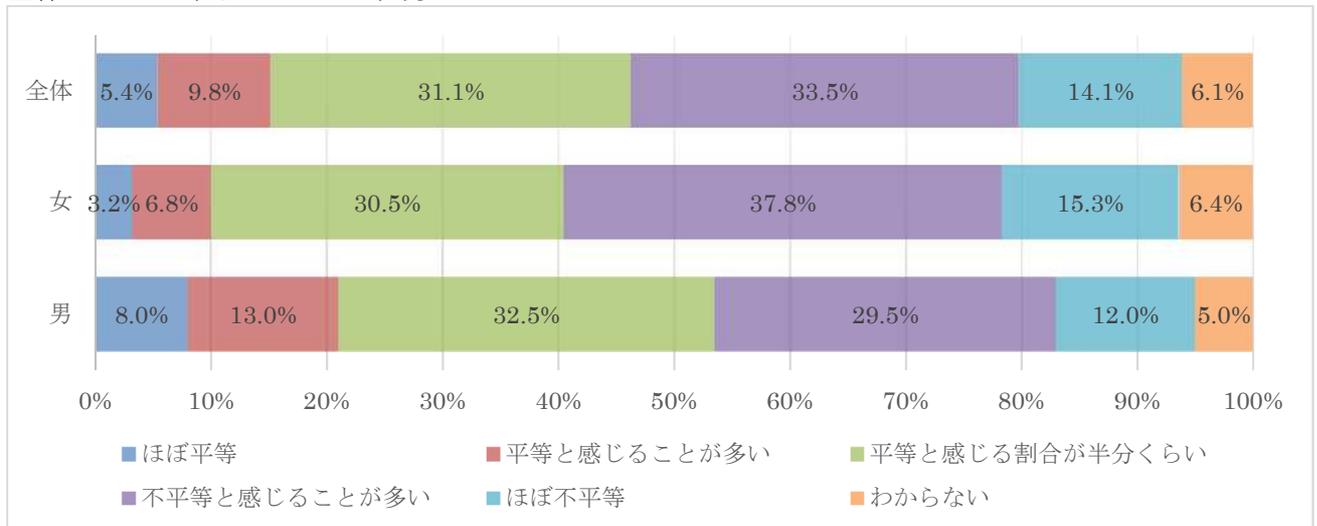
【社会全体】

全体では、〈平等〉（「ほぼ平等」と「平等と感じることが多い」の合計）15.2%に対し、〈不平等〉（「不平等と感じることが多い」と「ほぼ不平等」の合計）47.6%と不平等が32.4ポイント上回った。

性別では、女性は、〈平等〉10.0%、〈不平等〉53.1%で、不平等が43.1ポイントと大きな差が見られた。

男性は、〈平等〉21.0%、〈不平等〉41.5%で、不平等が20.5ポイント高かった。

全体：n=460、女：n=249、男：n=200

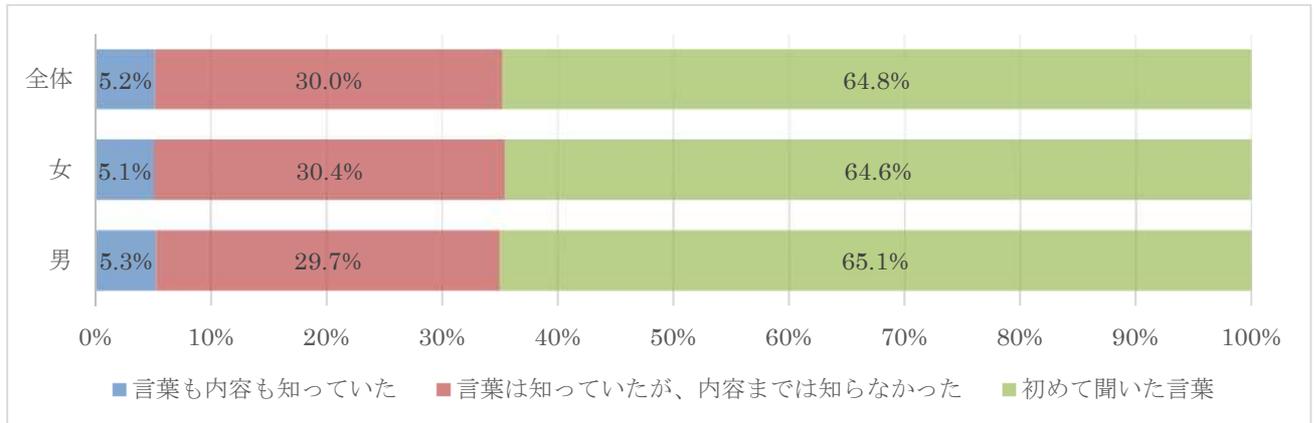


第2次韮崎市男女共同参画推進計画「男(ひと)と女(ひと)、ともに煌(きらめ)く夢(ゆめ)プラン」の認知度について

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈知っている〉（「言葉も内容も知っていた」と「言葉は知っていたが、内容までは知らなかった」の合計）35.2%に対し、〈知らない〉（「初めて聞いた言葉」の合計）が64.8%と知らないが29.6ポイント上回った。
性別では、女性は〈知っている〉35.5%、〈知らない〉64.6%で、知らないが29.1ポイント高かった。
男性は〈知っている〉35.0%、〈知らない〉65.1%で、知らないが30.1ポイント高かった。

全体：n=477、女：n=257、男：n=209



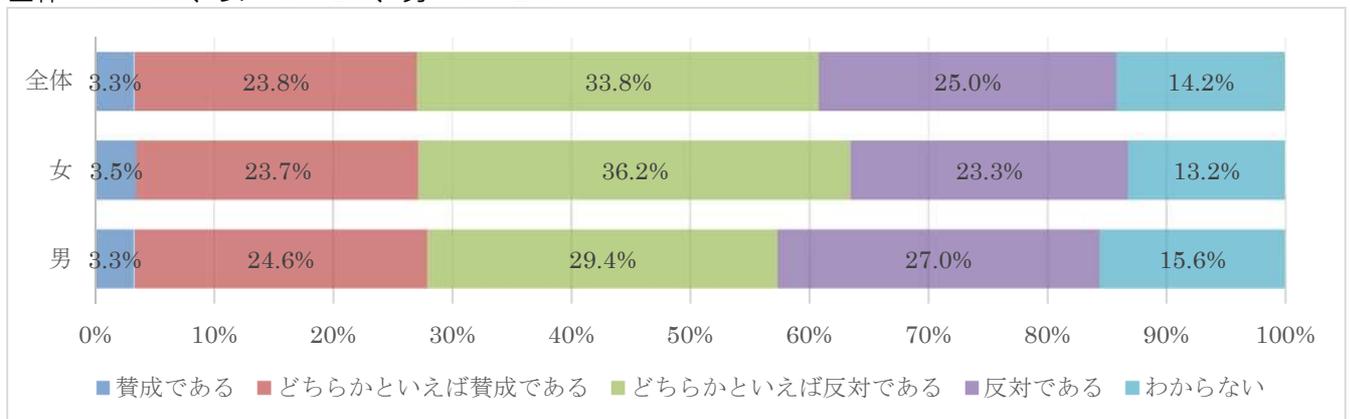
4. 家庭生活全般における男女共同参画意識

夫は外で働き、妻は家庭を守るという考えについて

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈賛成〉（「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計）27.1%に対し、〈反対〉（「どちらかといえば反対である」と「反対である」の合計）58.8%と反対が31.7ポイント上回った。
性別では、女性は〈賛成〉27.2%、〈反対〉59.5%で、反対が32.3ポイント高かった。
男性は〈賛成〉27.9%、〈反対〉56.4%で、反対が28.5ポイント高かった。

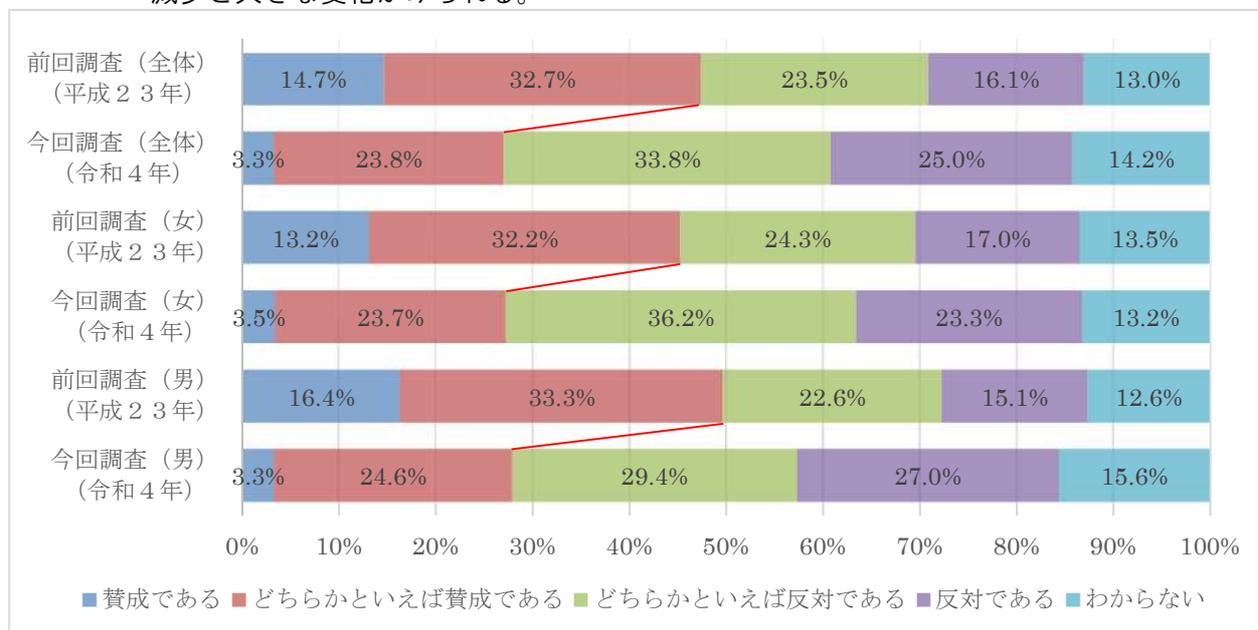
全体：n=480、女：n=257、男：n=211



○前回調査との比較

全体では、前回調査より〈賛成〉が20.3ポイント低くなった。

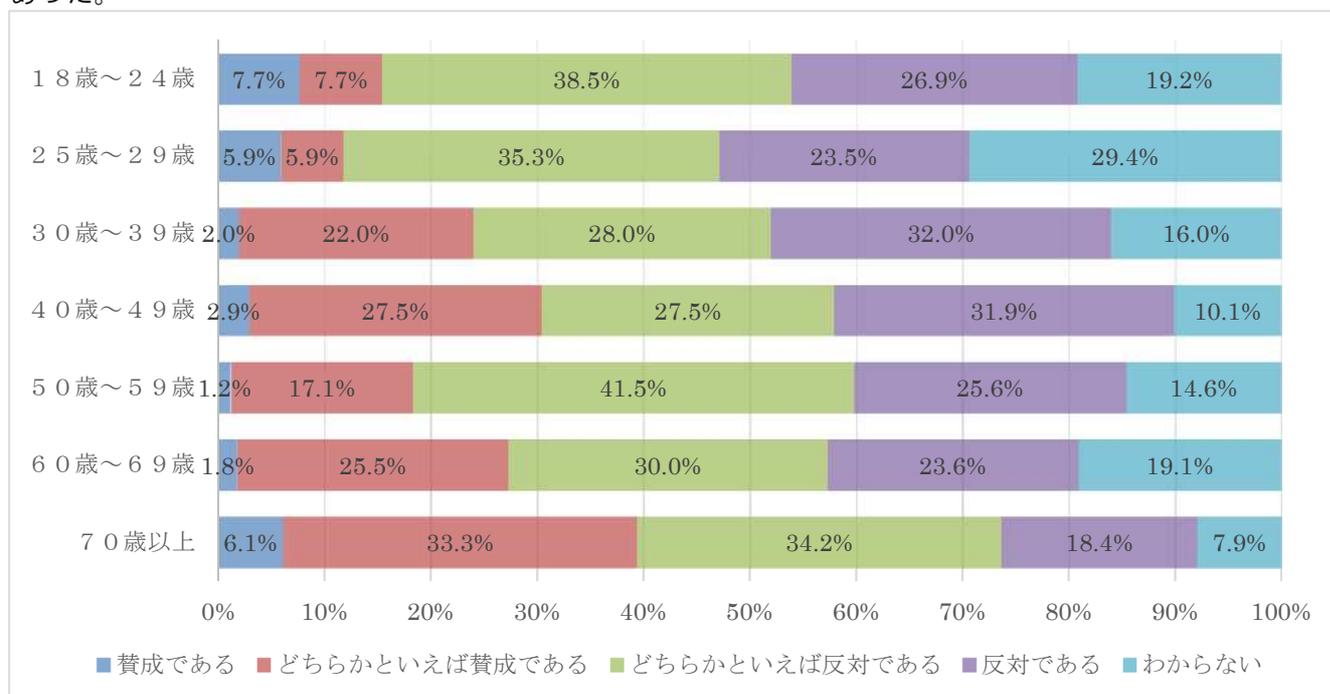
性別では、男女ともに〈賛成〉が減少し、女性では18.0ポイント減少、男性では21.8ポイント減少と大きな変化がみられる。



○年代別比較

どの年代においても〈反対〉が〈賛成〉を上回っているが、比較的年齢が上がるにつれて、〈賛成〉の割合が増加している。

25歳～29歳〈賛成〉11.8%と最も低く、70歳以上〈賛成〉39.4%と27.6ポイントと大きな差があった。



男性が家事・育児を行うことについて

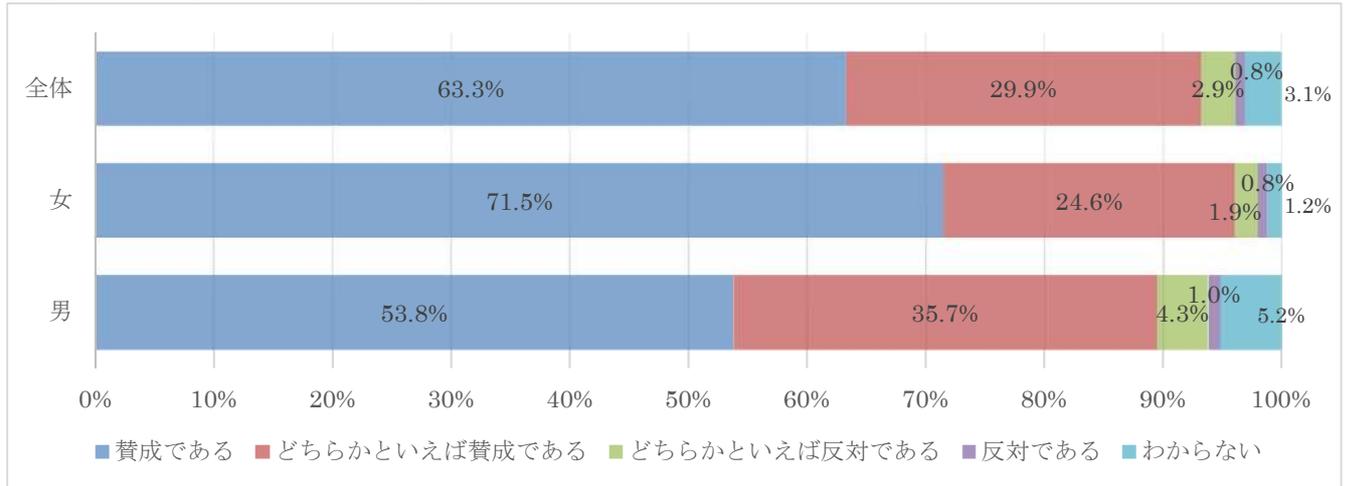
(質問の対象：全員 488 人)

【家事】

全体では、〈賛成〉(「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計) 93.2%に対し、〈反対〉(「どちらかといえば反対である」と「反対である」の合計) 3.7%と賛成が 89.5 ポイントと圧倒的に高かった。

性別では、〈賛成〉は、女性が 96.1%、男性が 89.5%と、男性に比べ女性の方が賛成は 6.6 ポイント高かった。

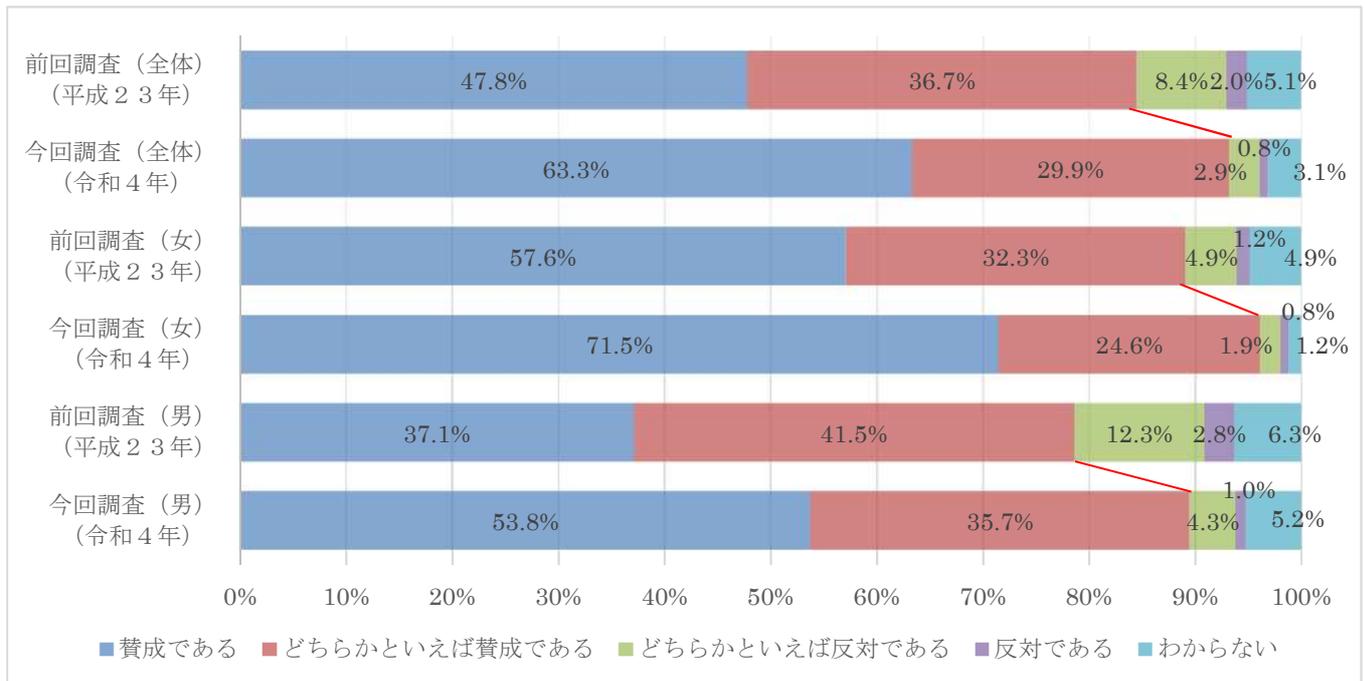
全体：n=482、女：n=260、男：n=210



○前回調査との比較

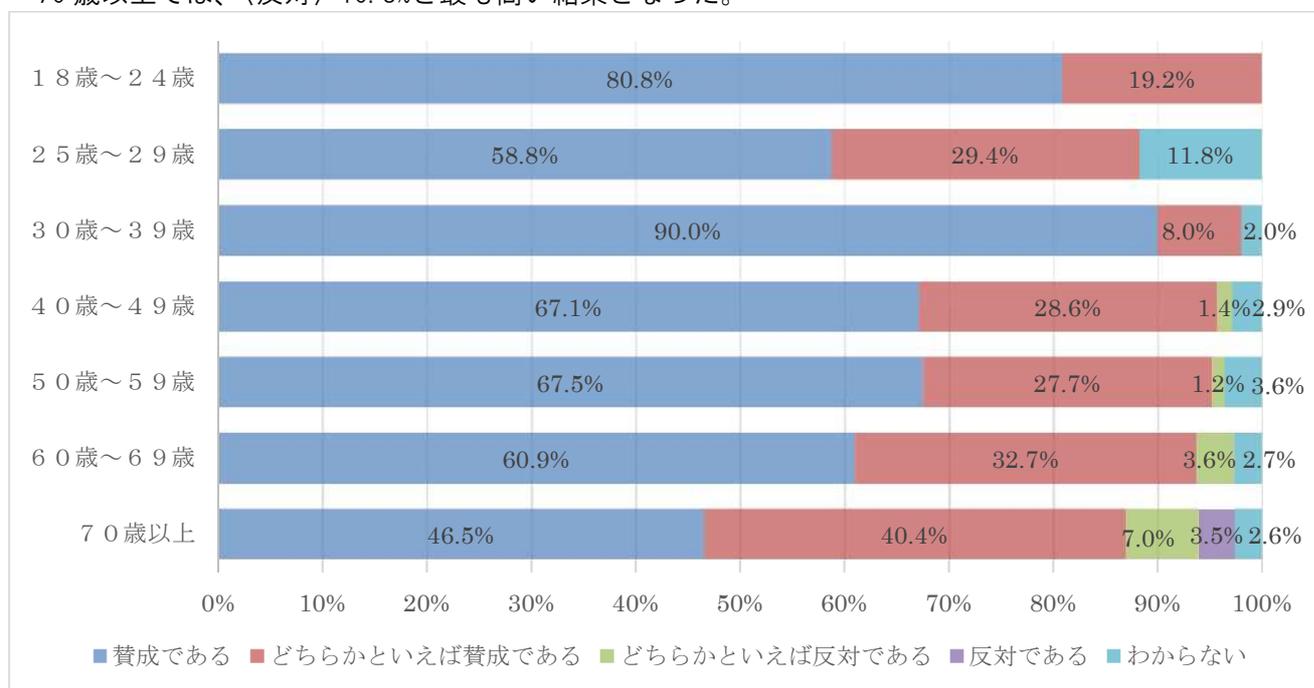
全体では、前回調査より〈賛成〉が 8.7 ポイント高くなった。

性別では、男女ともに〈賛成〉が高くなっており、女性では 6.2 ポイント、男性では 10.9 ポイントと増加となった。



○年代別比較

どの年代においても〈賛成〉が〈反対〉を上回っている。
70歳以上では、〈反対〉10.5%と最も高い結果となった。

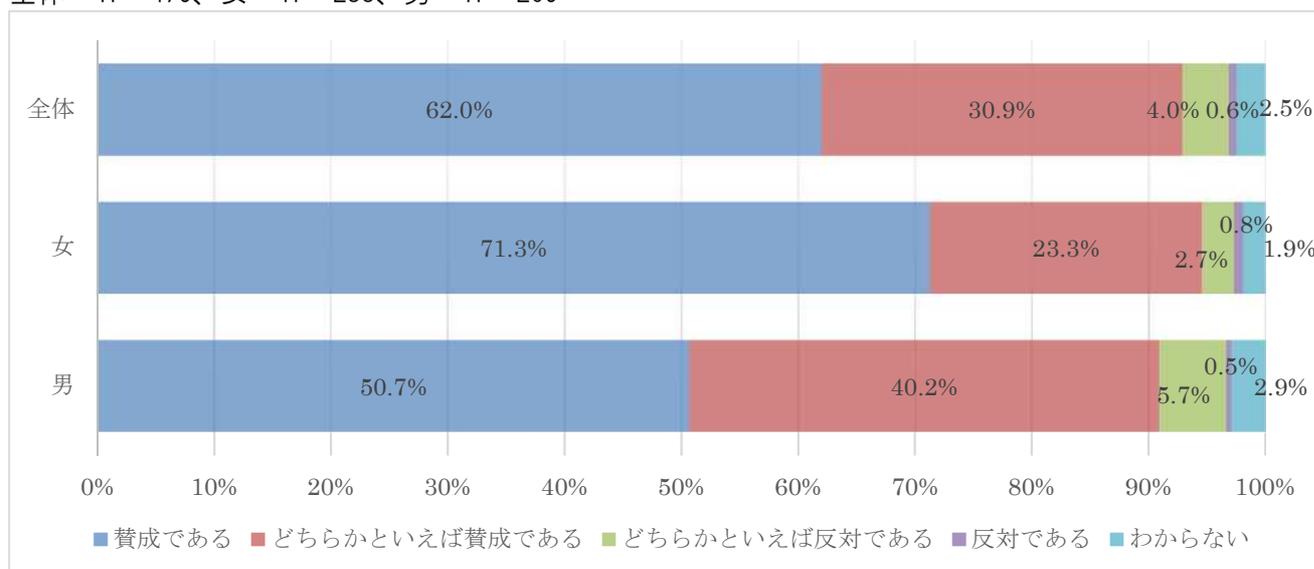


【育児】

全体では、〈賛成〉（「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計）92.9%に対し、〈反対〉（「反対である」と「どちらかといえば反対である」の合計）4.6%と賛成が88.3ポイントと圧倒的に高かった。

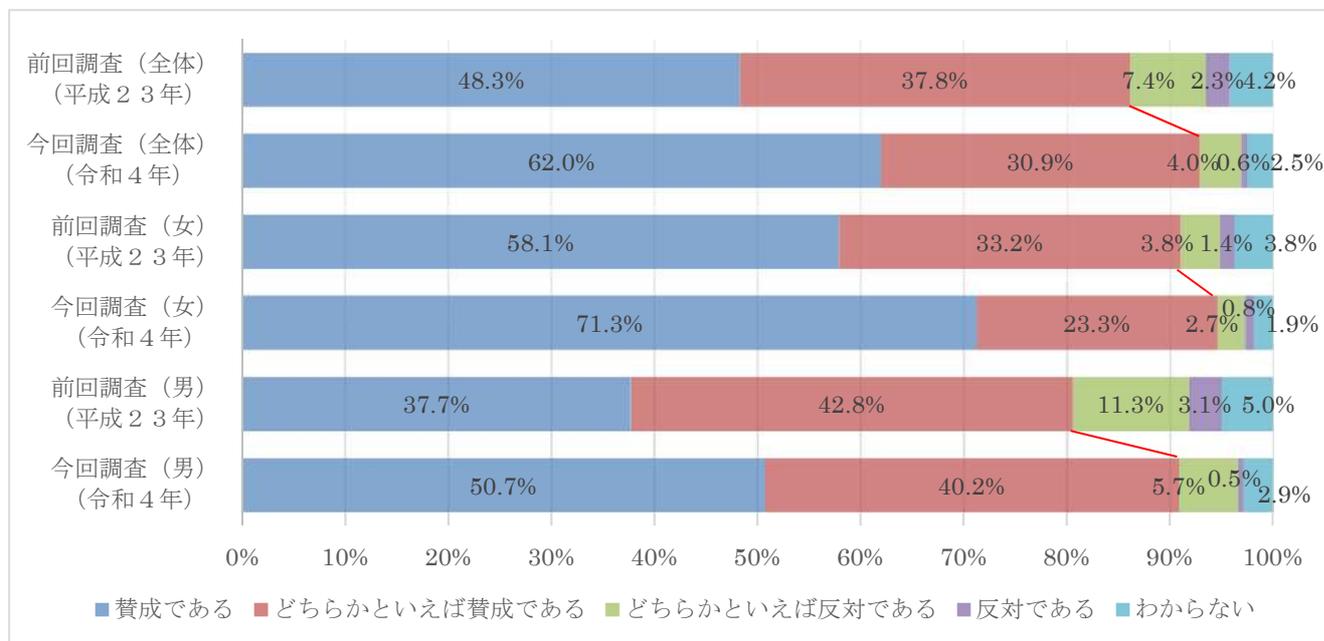
性別では、〈賛成〉は女性が94.6%、男性90.9%と、男性に比べ女性の方が賛成は3.7ポイント高かった。

全体：n=479、女：n=258、男：n=209



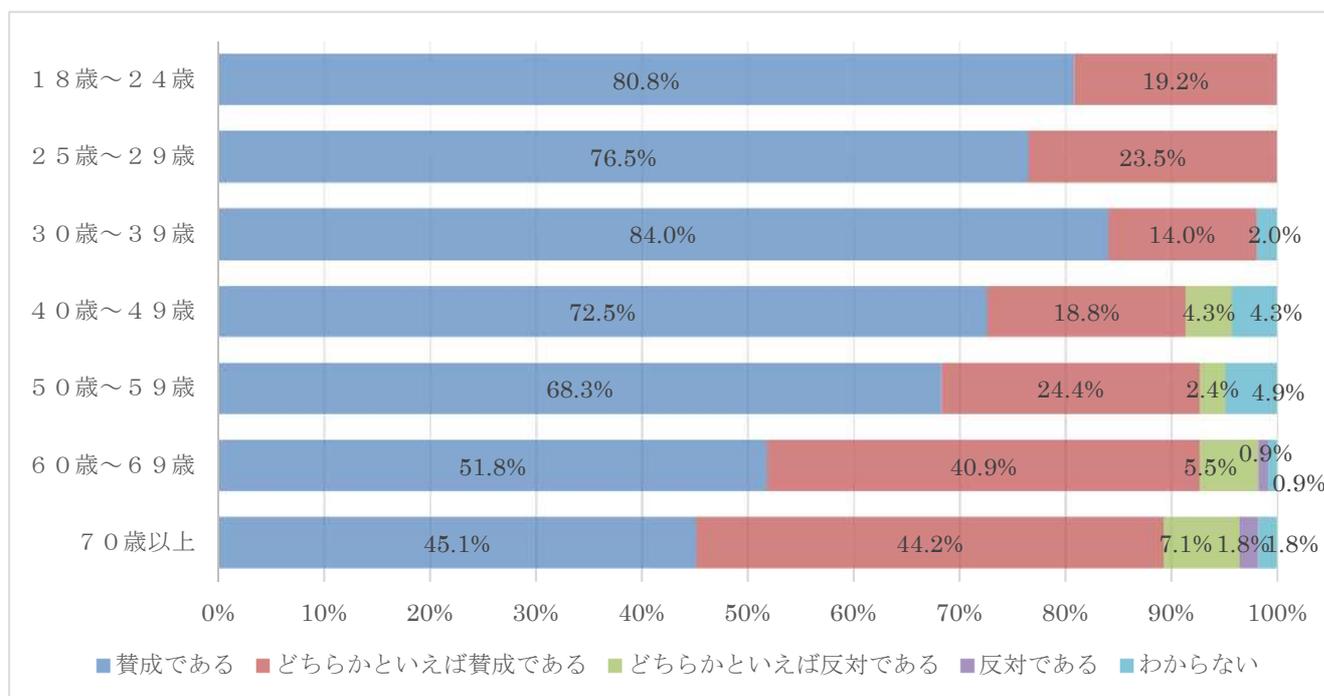
○前回調査との比較

全体では、前回調査より〈賛成〉が6.8ポイント高くなった。
性別では、男女ともに〈賛成〉が高くなっており、女性では3.3ポイント、男性では10.4ポイント増加した。



○年代別比較

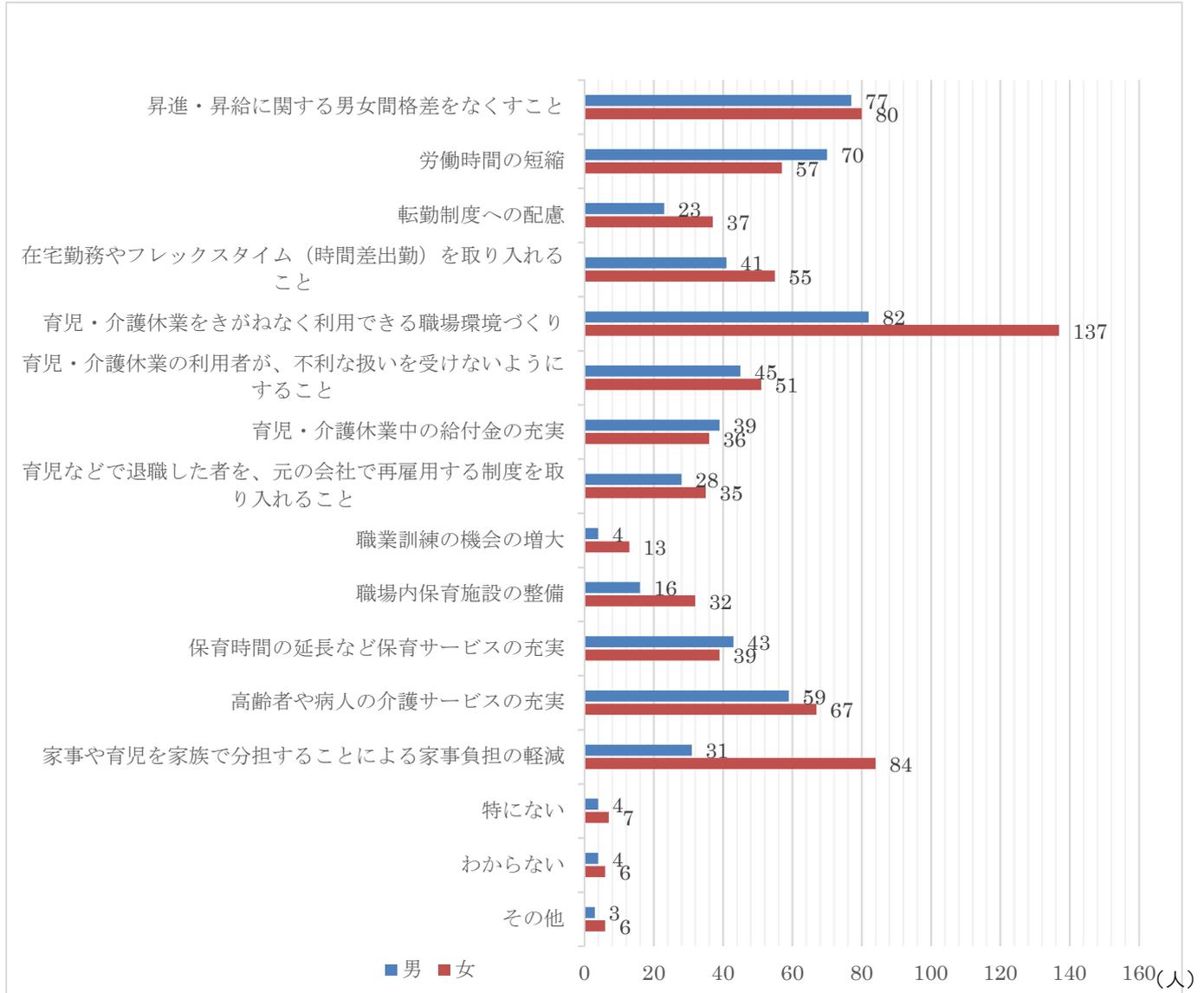
どの年代においても〈賛成〉が〈反対〉を上回っている。
70歳以上では、〈反対〉8.9%と最も高い結果となった。



家庭生活と仕事の両立について必要なことは。

質問の対象：全員（488人）

「職業訓練の機会の増大」及び「家事や育児を家族で分担することによる家事負担の軽減」について、男女間において、約3倍近くの差があった。



○性別比較（トップ3）

男性

1. 「育児・介護休業をきがねなく利用できる職場環境づくり」82人
2. 「昇進・昇給に関する男女間格差をなくすこと」77人
3. 「労働時間の短縮」70人

女性

1. 「育児・介護休業をきがねなく利用できる職場環境づくり」137人
2. 「家事や育児を家族で分担することによる家事負担の軽減」84人
3. 「昇進・昇給に関する男女間格差をなくすこと」80人

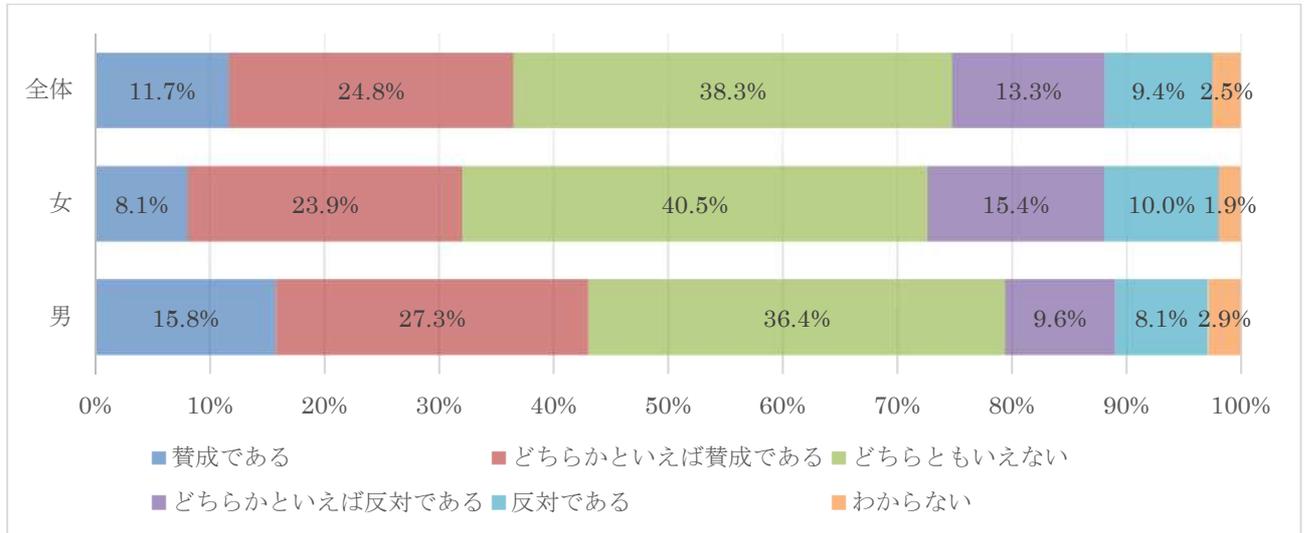
「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方への賛否について

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈賛成〉（「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計）36.5%に対し、〈反対〉（「反対である」と「どちらかといえば反対である」の合計）22.7%と賛成が13.8ポイント高かった。

性別では、〈賛成〉は女性が32.0%、男性43.1%、と男性の方が11.1ポイント高い。

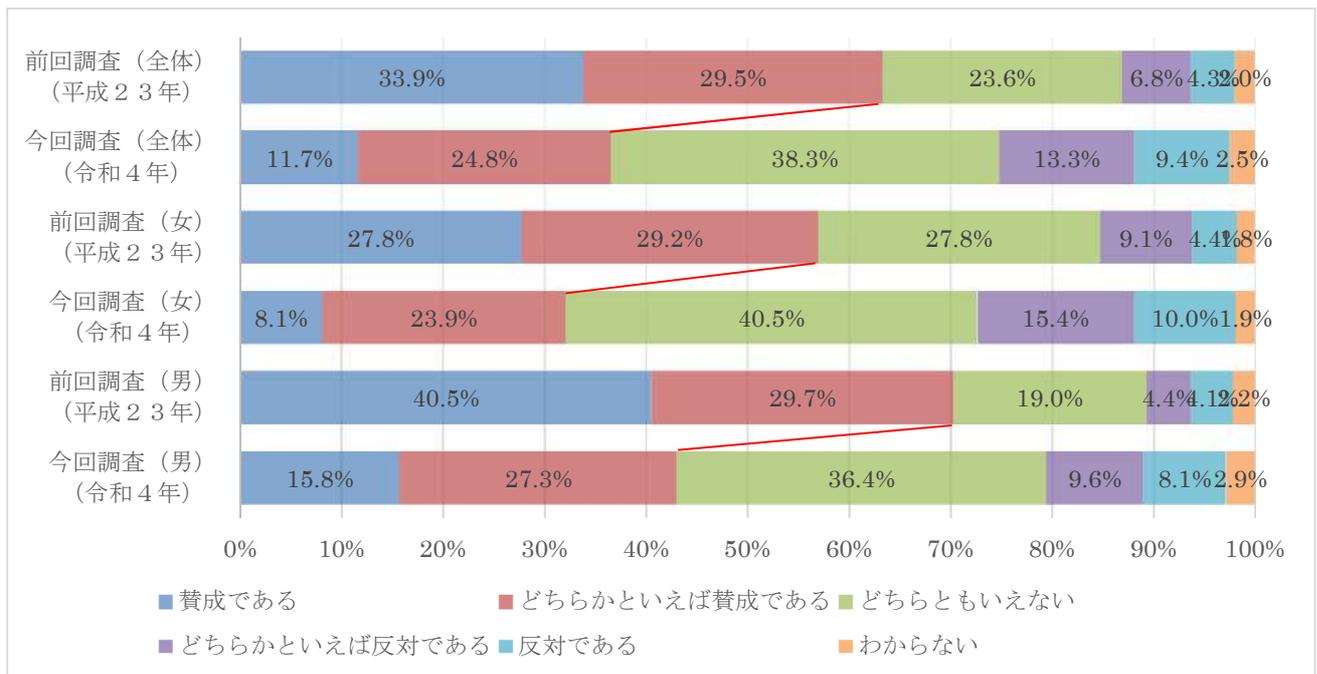
全体：n=480、女：n=259、男：n=209



○前回調査との比較

全体では、前回調査より〈賛成〉が26.9ポイント高くなった。

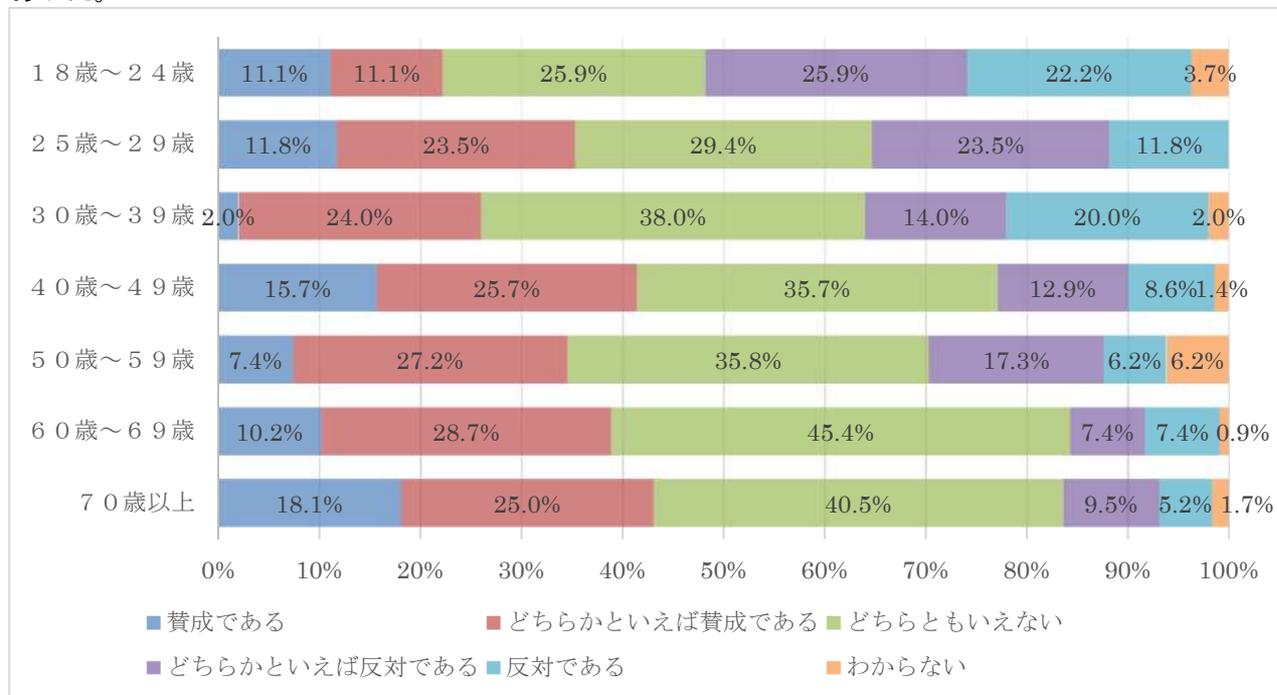
性別では、男女ともに〈賛成〉減少しており、女性では25.0ポイント、男性では27.1ポイント減少した。



○年代別比較

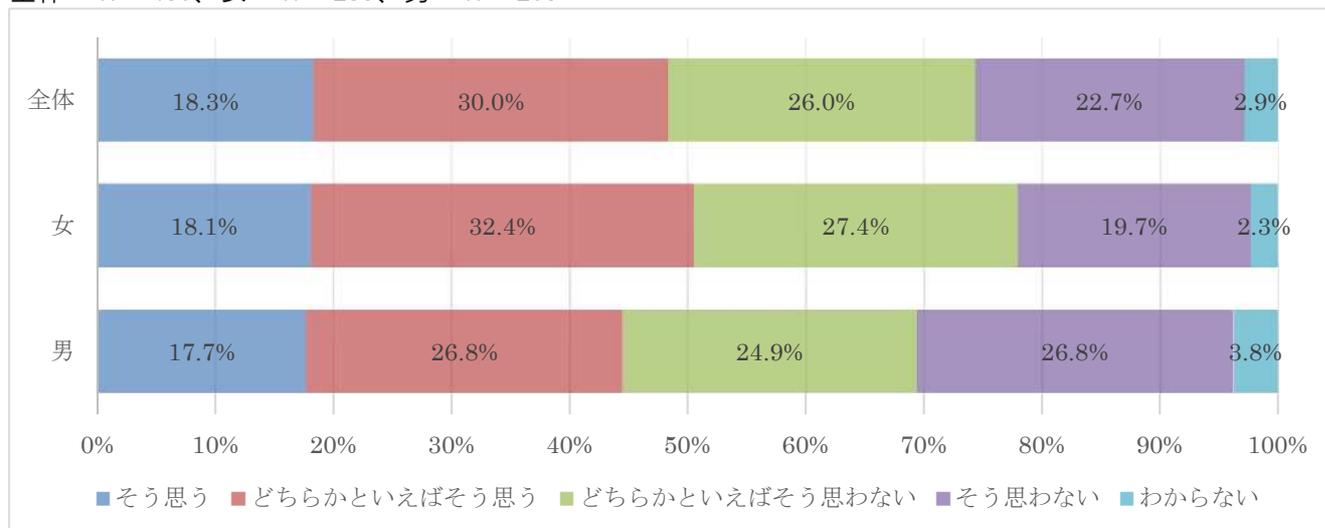
18歳～39歳は、〈反対〉が〈賛成〉を上回っている、もしくは同数となっているが、40歳以上は、〈賛成〉が〈反対〉を上回っている。

18歳～24歳は、「賛成」22.2%と最も低く、最も高い70歳以上と比べて20.9ポイントの差があった。



子育てにおいて父親と母親の役割は同じなのかについて 質問の対象：全員（488人）
 全体では、〈そう思う〉（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）48.3%に対し、〈そう思わない〉（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）48.7%と約半々となり、性別でみてもほぼ同様の結果となった。

全体：n=480、女：n=259、男：n=209

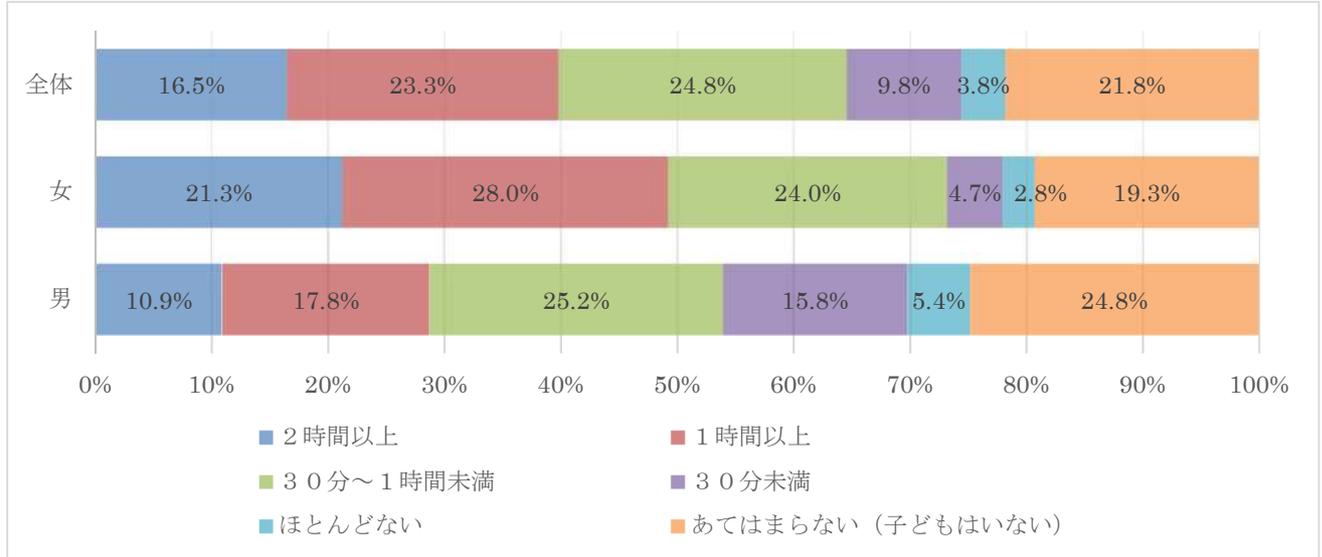


未成年の子どもとの1日の対話時間について

質問の対象者：全員（488人）

1日1時間以上子ども対話している人の割合は、女性の方が男性より20.6ポイント高い。
「2時間以上」では、男女間で約2倍、「30分未満」と「ほとんどない」では、男女間で約3倍の差がある。

全体：n=468、女：n=254、男：n=202



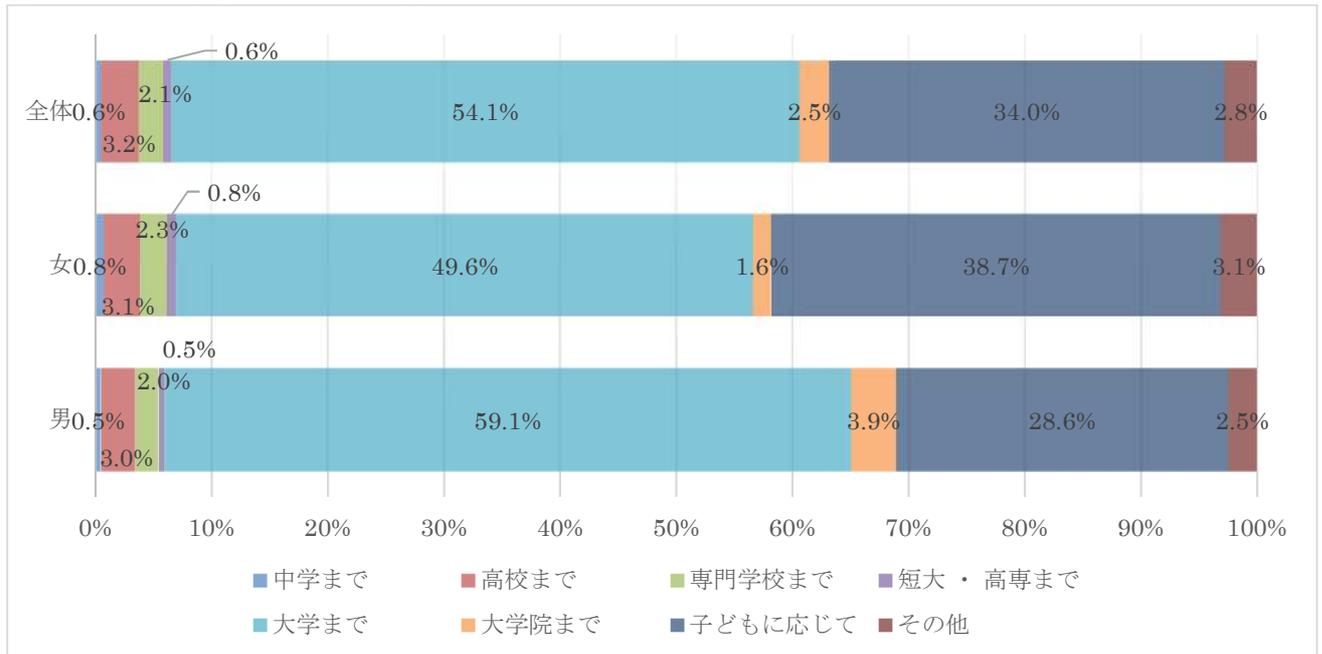
子どもにどの程度の教育を受けさせたいかについて

質問の対象者：全員（488人）

【男の子の場合】

全体では、「大学まで」、「子どもに応じて」の順に多い結果となった。
性別では、女性「大学まで」49.6%、男性59.1%と、男性の方が9.5ポイント高い。

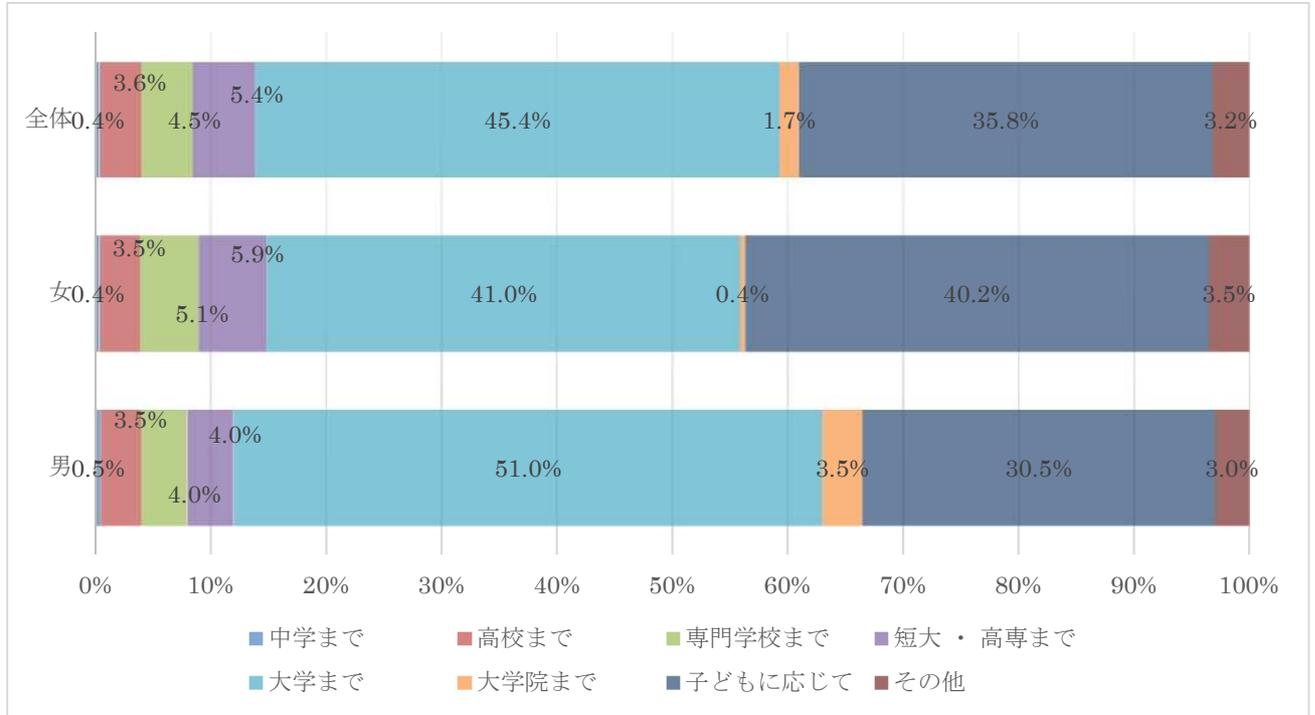
全体：n=471、女：n=256、男：n=203



【女の子の場合】

全体では、男の子と同様に「大学まで」、「子どもに応じて」の順に多い結果となった。
性別では、女性「大学まで」41.0%、男性51.0%と、男性の方が10.0ポイント高い。

全体：n=467、女：n=256、男：n=200



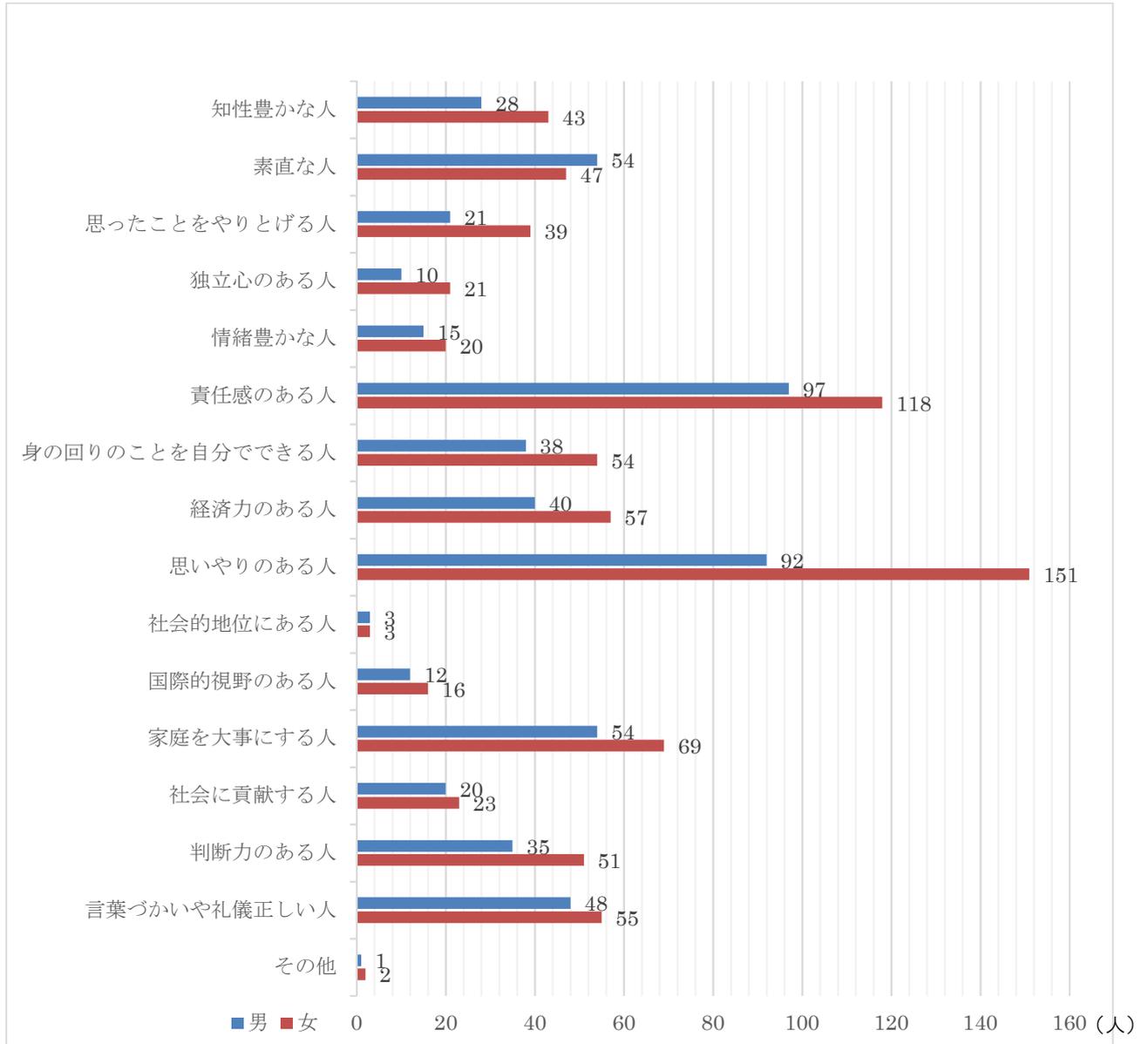
子どもにどのようになってほしいかについて

質問の対象：全員（488人）

【男の子の場合】

「思ったことをやりとげる人」・「思いやりのある人」・「独立心のある人」について、男女間で約2倍の差があった。

男女ともトップ3に大きな違いはなかった。



○性別比較（トップ3）

男性（男の子の場合）

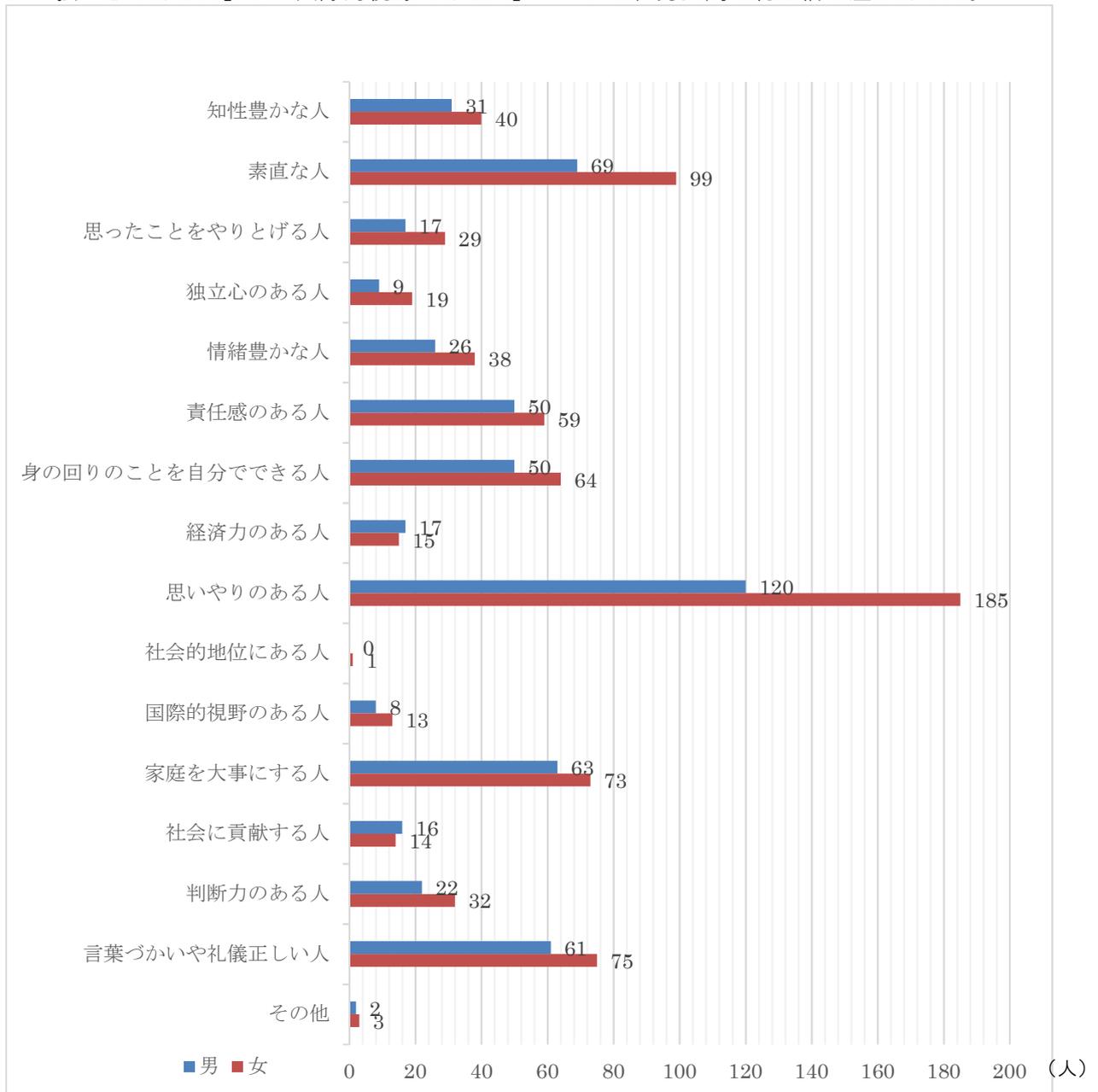
1. 「責任感のある人」 97人
2. 「思いやりのある人」 92人
3. 「素直な人」 54人
3. 「家庭を大事にする人」 54人

女性（男の子の場合）

1. 「思いやりのある人」 151人
2. 「責任感のある人」 118人
3. 「家庭を大事にする人」 69人

【女の子の場合】

「独立心のある人」と「国際的視野のある人」について、男女間で約2倍の差があった。



○性別比較（トップ3）

男性（女の子の場合）

1. 「思いやりのある人」 120人
2. 「素直な人」 69人
3. 「家庭を大事にする人」 63人

女性（女の子の場合）

1. 「思いやりのある人」 185人
2. 「素直な人」 99人
3. 「言葉遣いや礼儀正しい人」 75人

一般的に最近の子どもの「しつけ」について

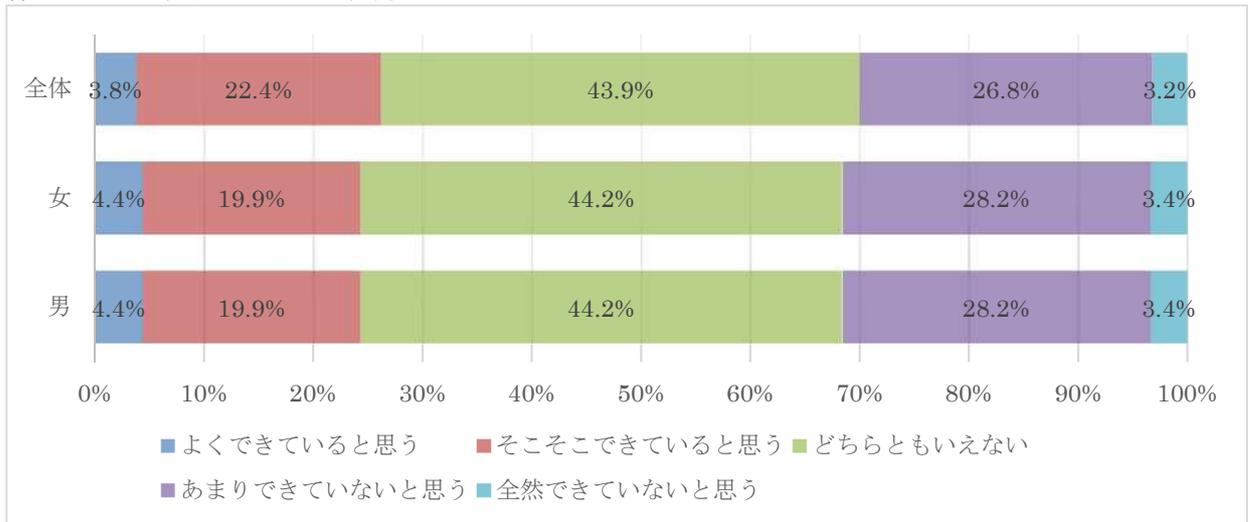
質問の対象：全員（488人）

全体では、〈しつけはできている〉（「よくできていると思う」と「そこそこできていると思う」の合計）26.2%に対し、

〈しつけはできていない〉（「あまりできていないと思う」と「全然できていないと思う」の合計）30.0%と、しつけはできていないが3.8ポイント上回った。

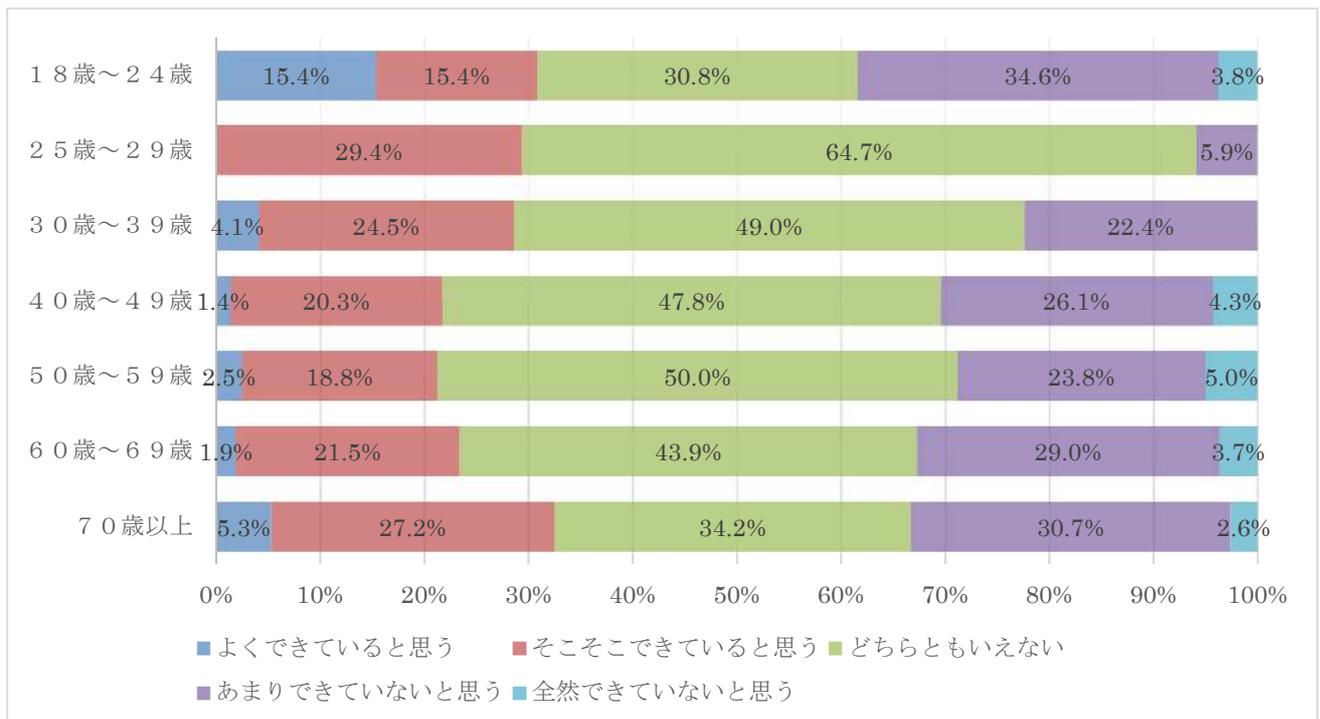
性別では、男女ともほぼ同様の結果となった。

全体：n=474、女：n=256、男：n=206



○年代別比較

〈しつけはできていない〉と最も多く感じているのは、18歳～24歳が38.4%であり、最も少ない25歳～29歳と比べて、32.5ポイントとの差があった。

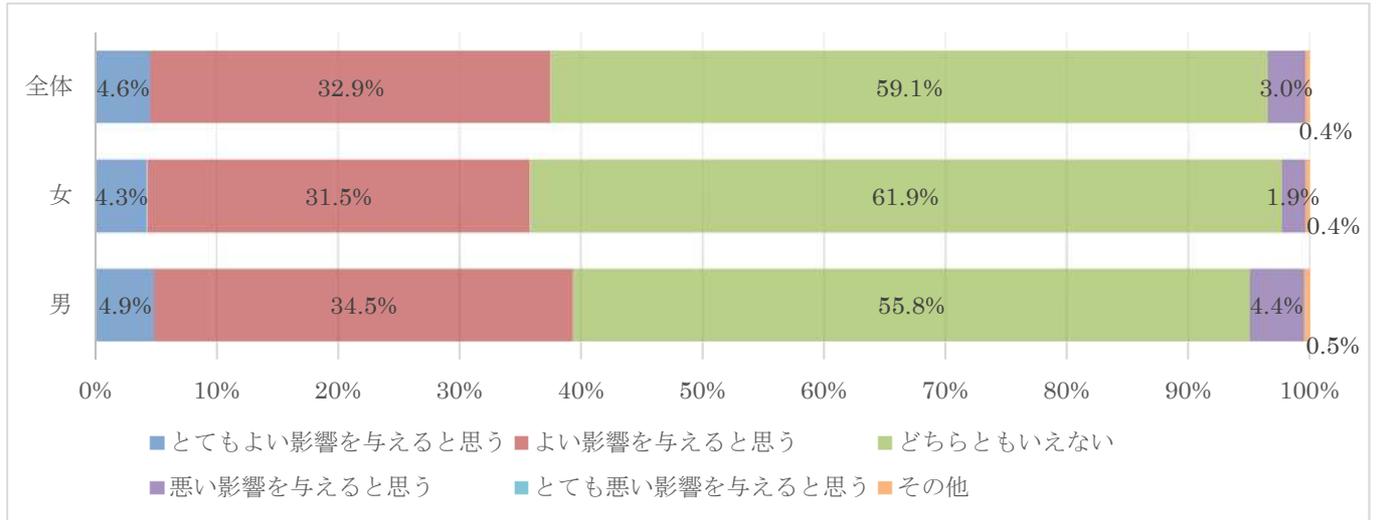


一般的に母親が外で働くことで、子どもに与える影響について 質問の対象：全員（488人）

全体では、〈よい影響を与えると思う〉（「とてもよい影響を与えると思う」と「よい影響を与えると思う」の合計）37.5%に対し、
 〈悪い影響を与えると思う〉（「悪い影響を与えると思う」と「とても悪い影響を与えると思う」の合計）を34.1ポイント上回った。

性別では、男性の〈悪い影響を与えると思う〉は4.9%で、女性より2.6ポイント高かった。

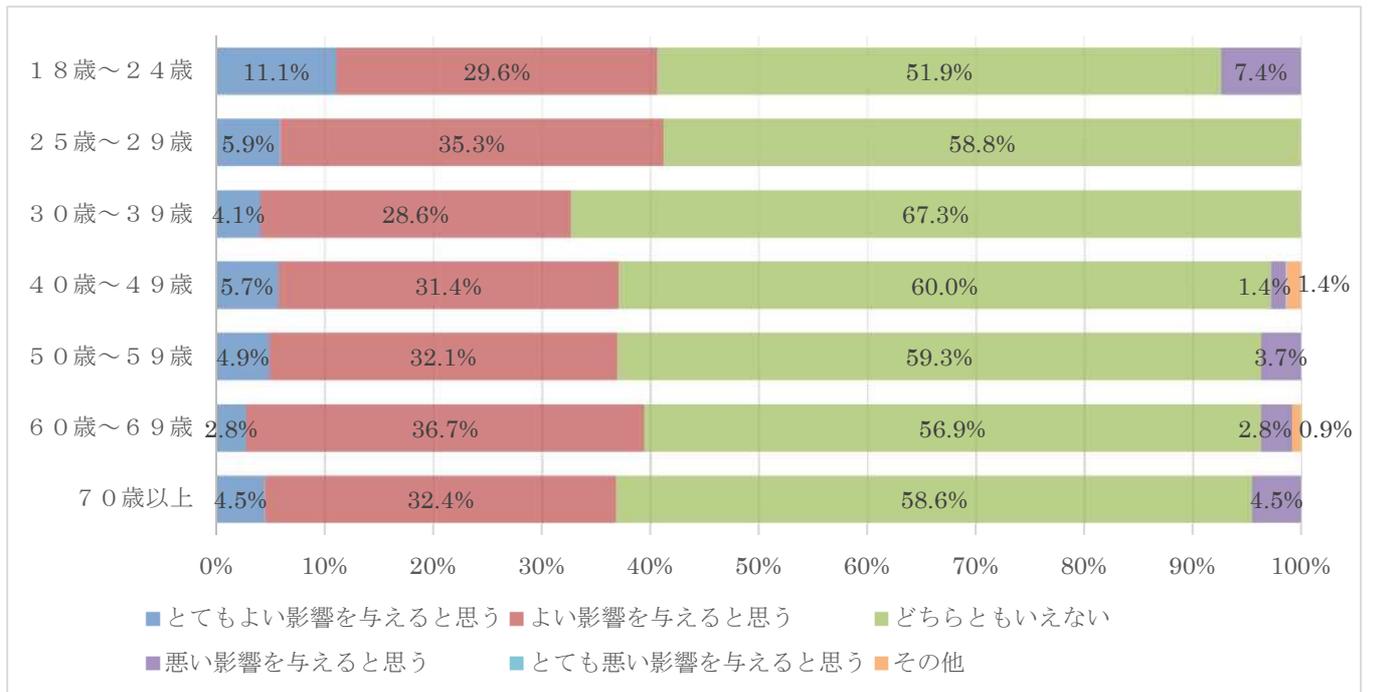
全体：n=474、女：n=257、男：n=206



○年代別比較

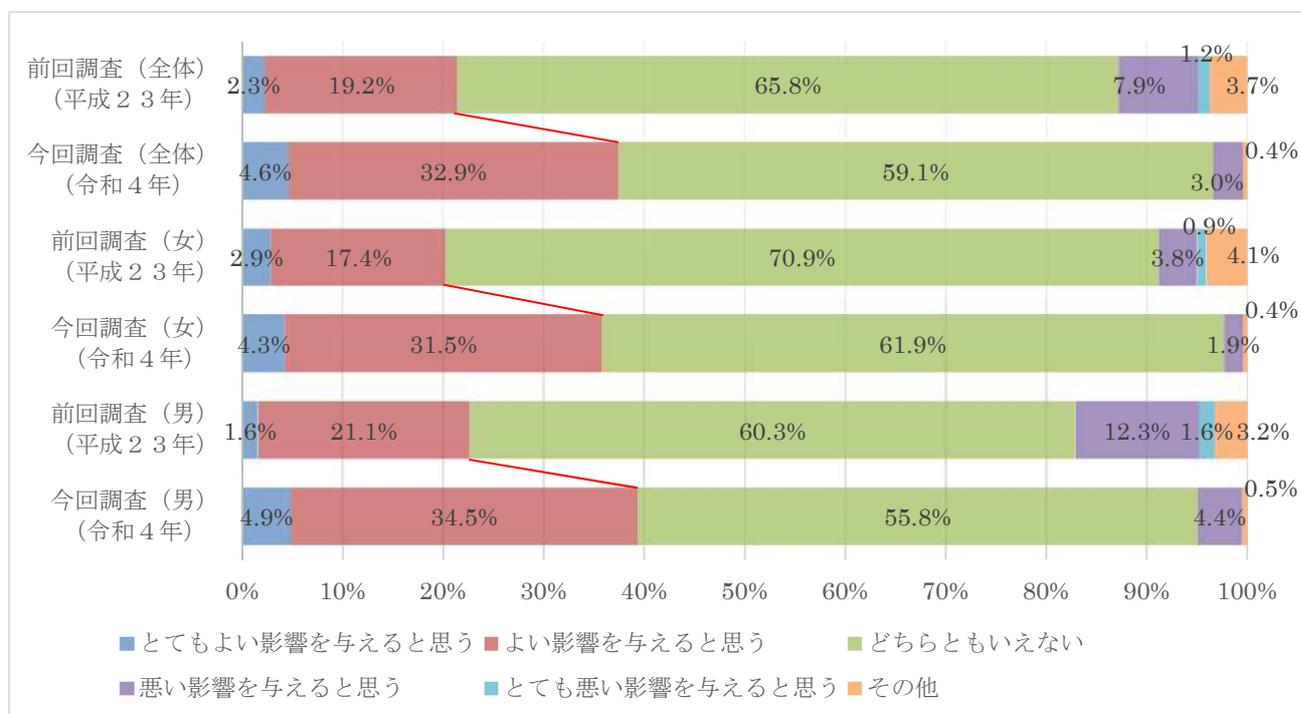
〈よい影響を与えると思う〉と考えているのは、25歳～29歳が41.2%と最も高く、続いて、18歳～24歳が40.7%と高い。

また、〈悪い影響を与えると思う〉が最も高いのは、18歳～24歳の7.4%となった。



○前回調査との比較

全体では、前回調査より〈良い影響を与えると思う〉が16.0ポイント高くなった。
性別では、男女ともに〈良い影響を与えると思う〉が高くなっており、女性では15.5ポイント、男性では16.7ポイントと増加となった。

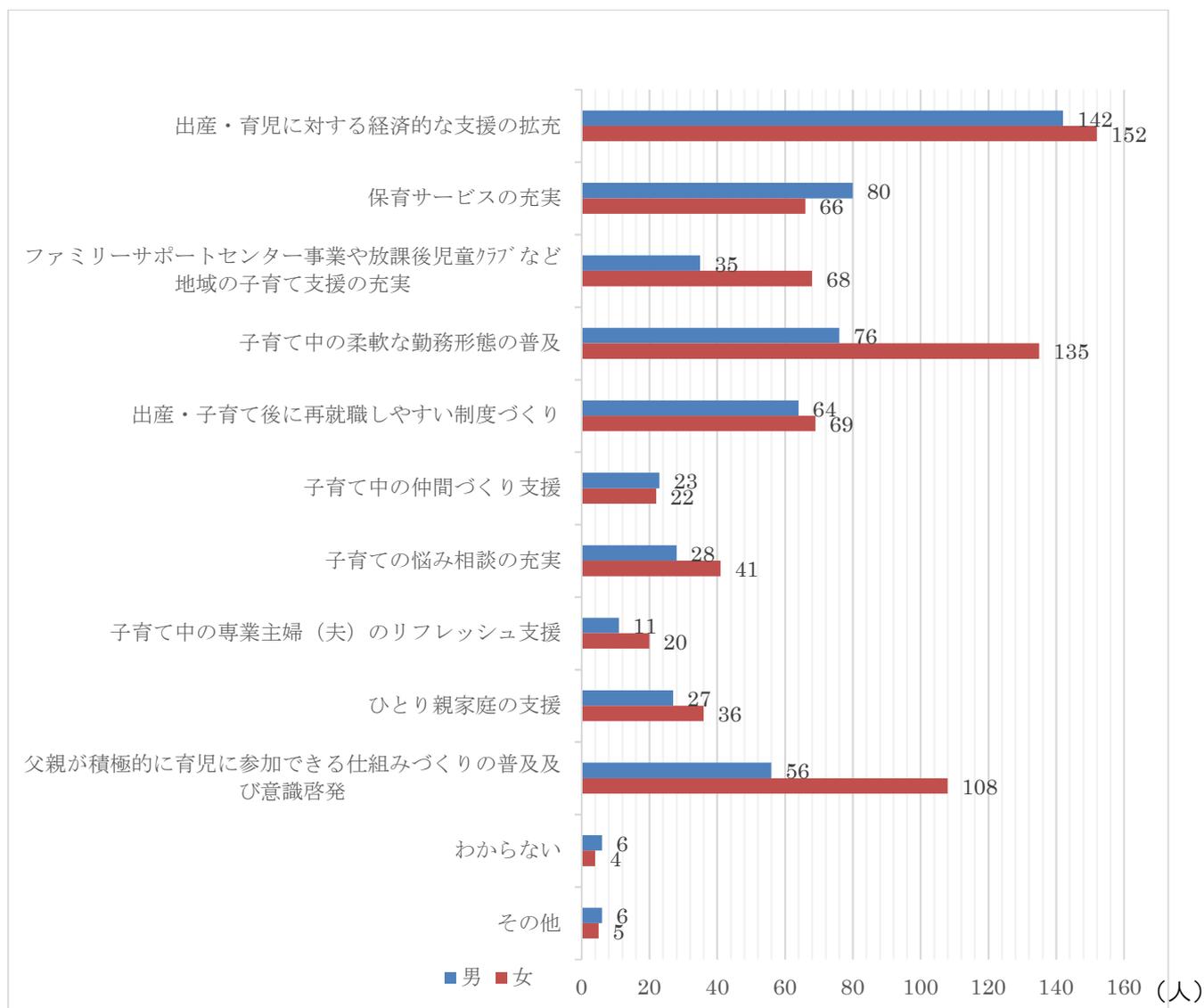


安心して子どもを産み育てるために必要なことについて

質問の対象：全員（488人）

性別にみると、男女ともに「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」と「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」がトップ3に入っている。

「ファミリーサポートセンター事業や放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実」及び「父親が積極的に育児に参加できる仕組みづくりの普及及び意識啓発」については、男女間において約2倍の差があった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」 142人
2. 「保育サービスの充実」 80人
3. 「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」 76人

【女性のトップ3】

1. 「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」 152人
2. 「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」 135人
3. 「父親が積極的に育児に参加できる仕組みづくりの普及及び意識啓発」 108人

配偶者またはパートナーの呼び方について

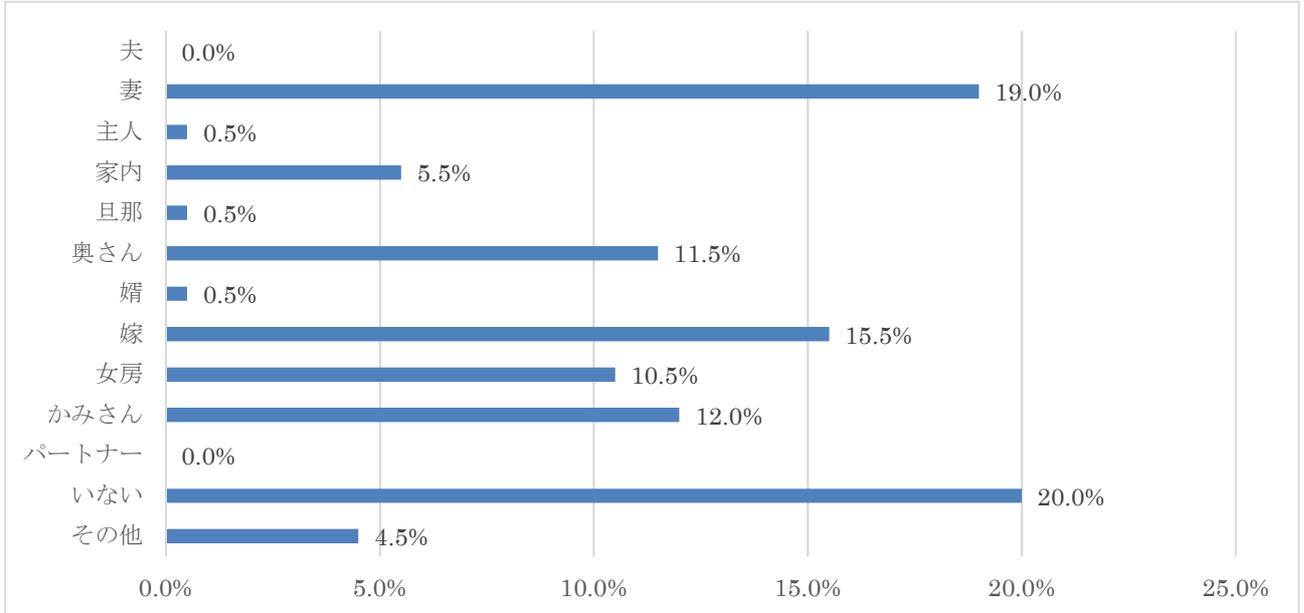
質問の対象：全員（488人）

男性は、配偶者またはパートナーのことを「妻」、「嫁」の順に多い。

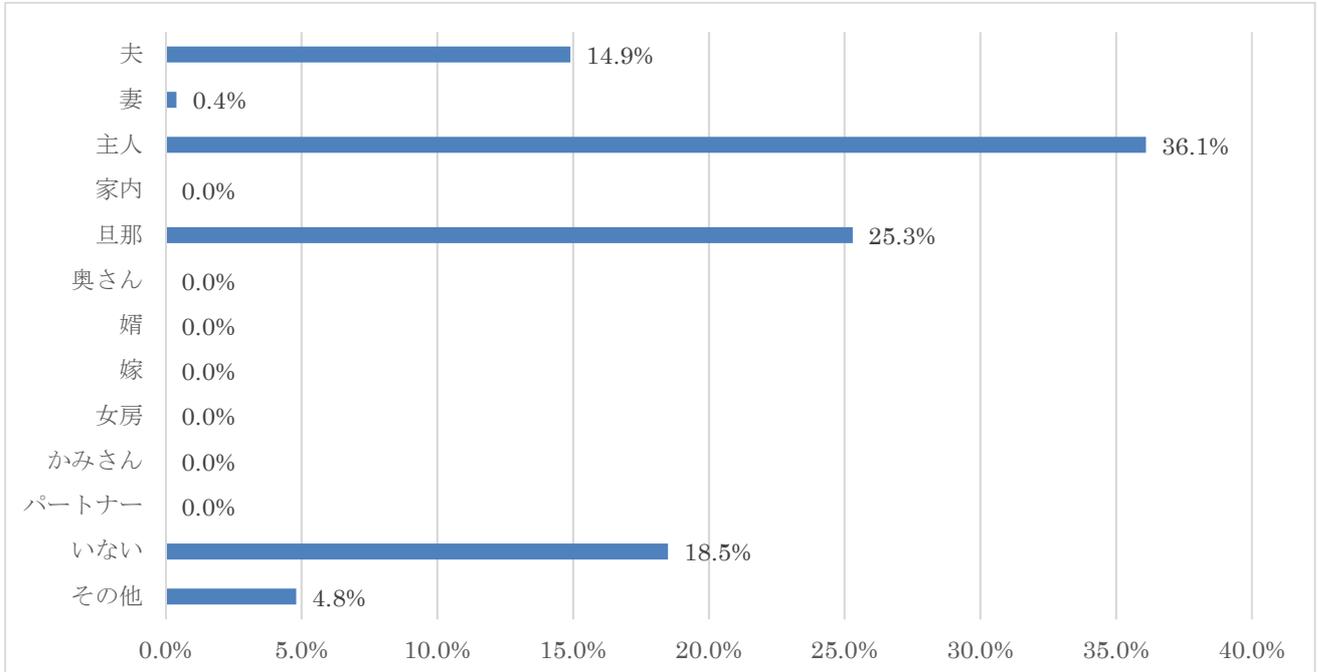
女性は、配偶者またはパートナーのことを「主人」、「旦那」の順に多い。

女：n=249、男：n=200

【男性回答者】



【女性回答者】



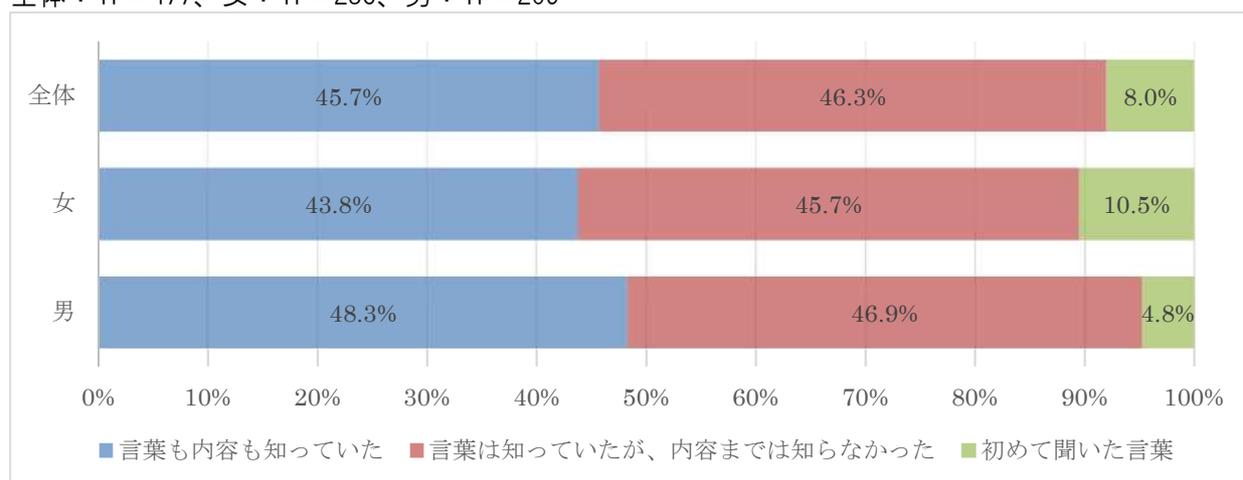
DV防止法（内閣府施行）の認知度について

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈知っている〉（「言葉も内容も知っていた」と「言葉は知っていたが、内容までは知らなかった」の合計）92.0%に対し、〈知らない〉（「初めて聞いた言葉」の合計）8.0%と知っているが84.0ポイント上回った。

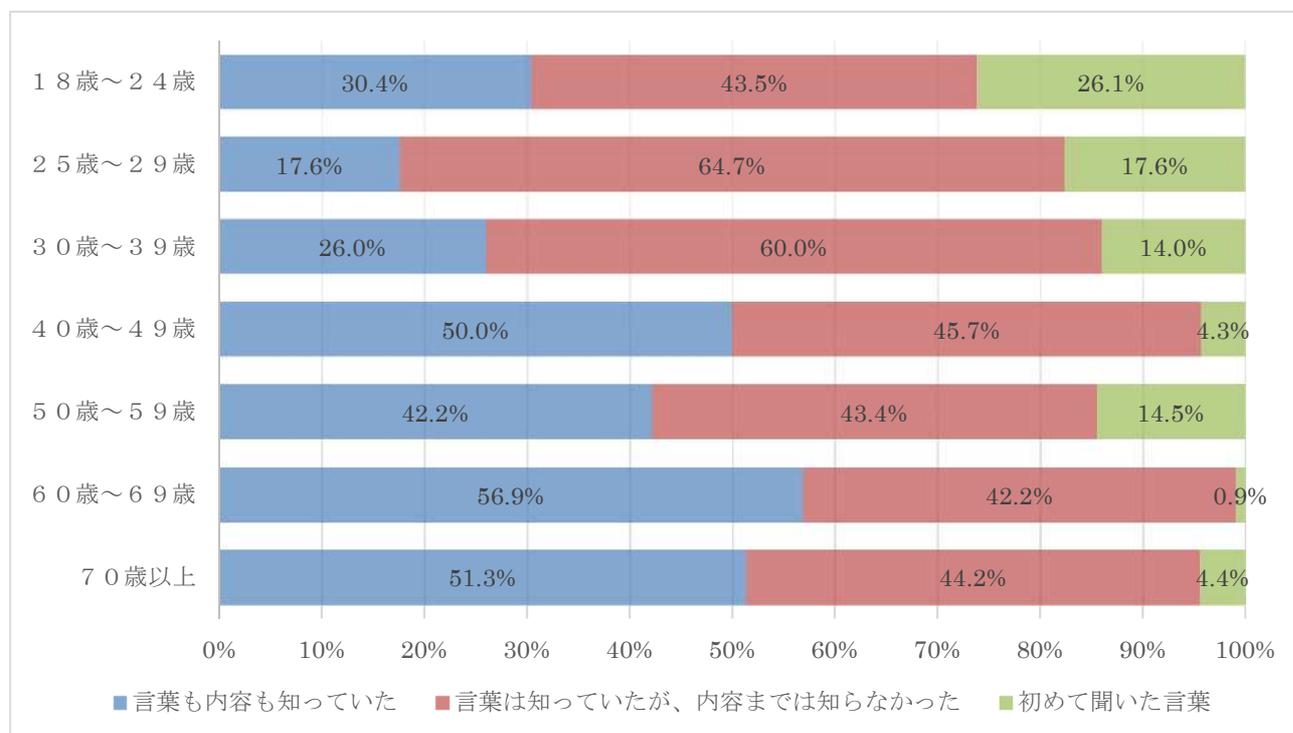
性別では、男性の認知度の方が、5.7ポイント上回った。

全体：n=477、女：n=256、男：n=209



○年代別比較

〈知っている〉の割合が最も高い60代と、最も低い18歳～24歳では、25.2ポイントの差があった。



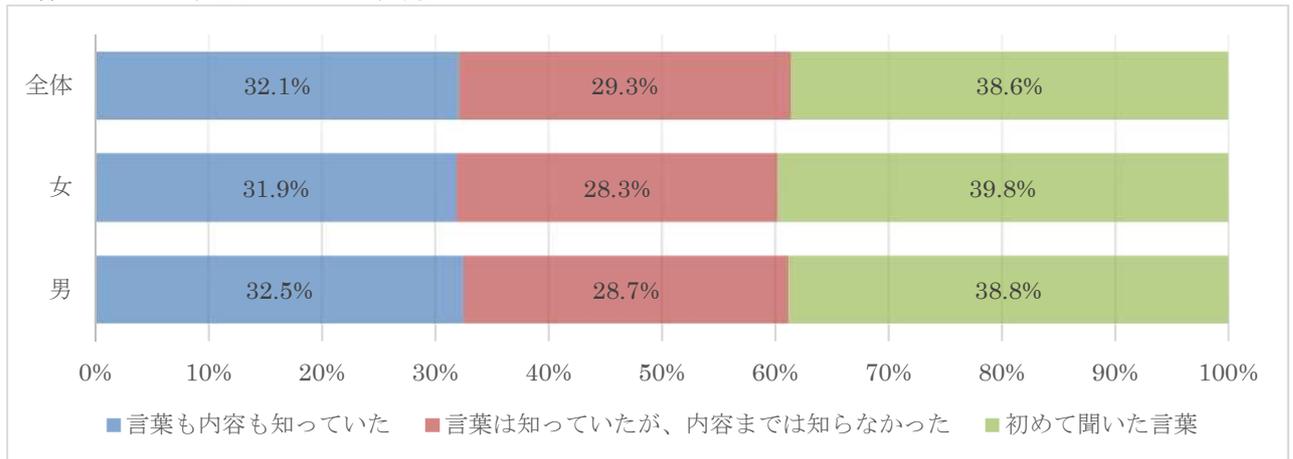
デートDVの認知度について

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈知っている〉（「言葉も内容も知っていた」と「言葉は知っていたが、内容までは知らなかった」の合計）は61.4%に対し、〈知らない〉（「初めて聞いた言葉」の合計）38.6%と知っているが22.8ポイント上回った。

性別では、男女ともにほぼ同様の結果となった。

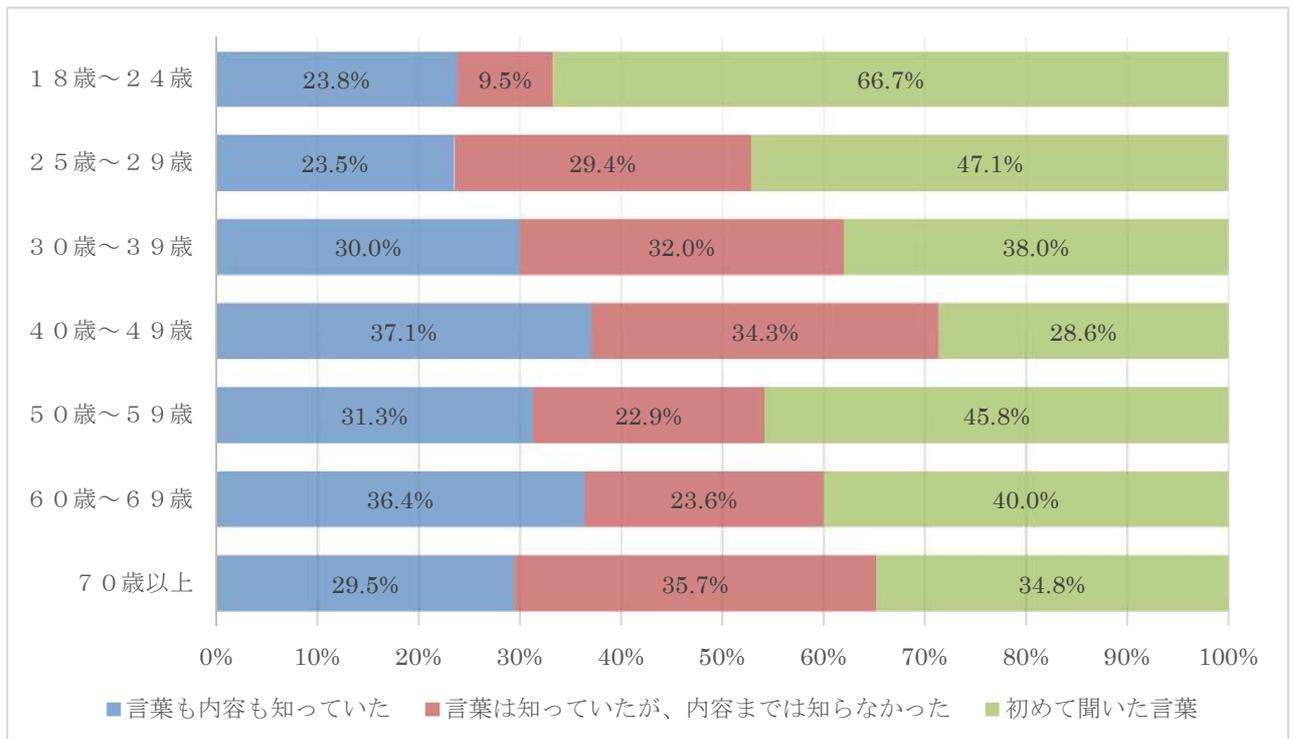
全体：n=474、女：n=254、男：n=209



○年代別比較

〈知っている〉の割合が最も高い40代と、最も低い18歳～24歳では、38.1ポイントの差があった。

また、18歳～24歳は、66.7%が知らないと他の年代よりも高い結果だった。



交際中のカップルや夫婦間の暴力の認識度について

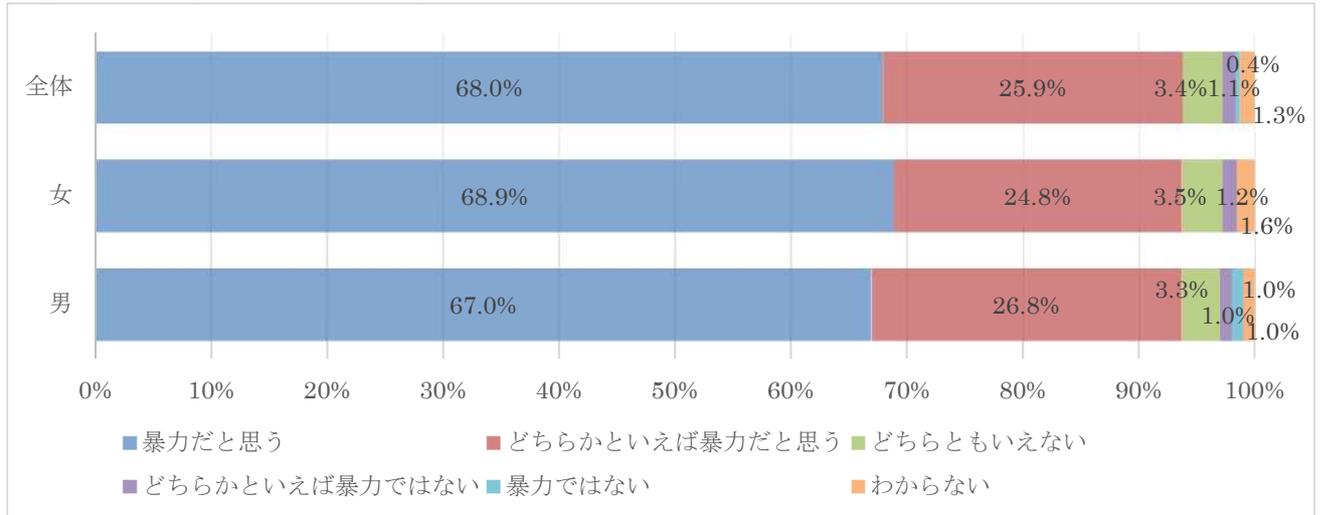
質問の対象：全員（488人）

【ものを壊したり、殴るふりをする】

全体では、〈暴力〉（「暴力だと思う」と「どちらかといえば暴力だと思う」）の合計 93.9%に対し、〈暴力ではない〉（「どちらかといえば暴力ではない」と「暴力ではない」）の合計 1.5%と暴力が 92.4 ポイント上回った。

性別では、女性は、〈暴力〉 93.7%、〈暴力ではない〉 1.2%で、暴力が 92.5 ポイント高かった。男性は、〈暴力〉 93.8%、〈暴力ではない〉 2.0%で、暴力が 91.8 ポイント高かった。

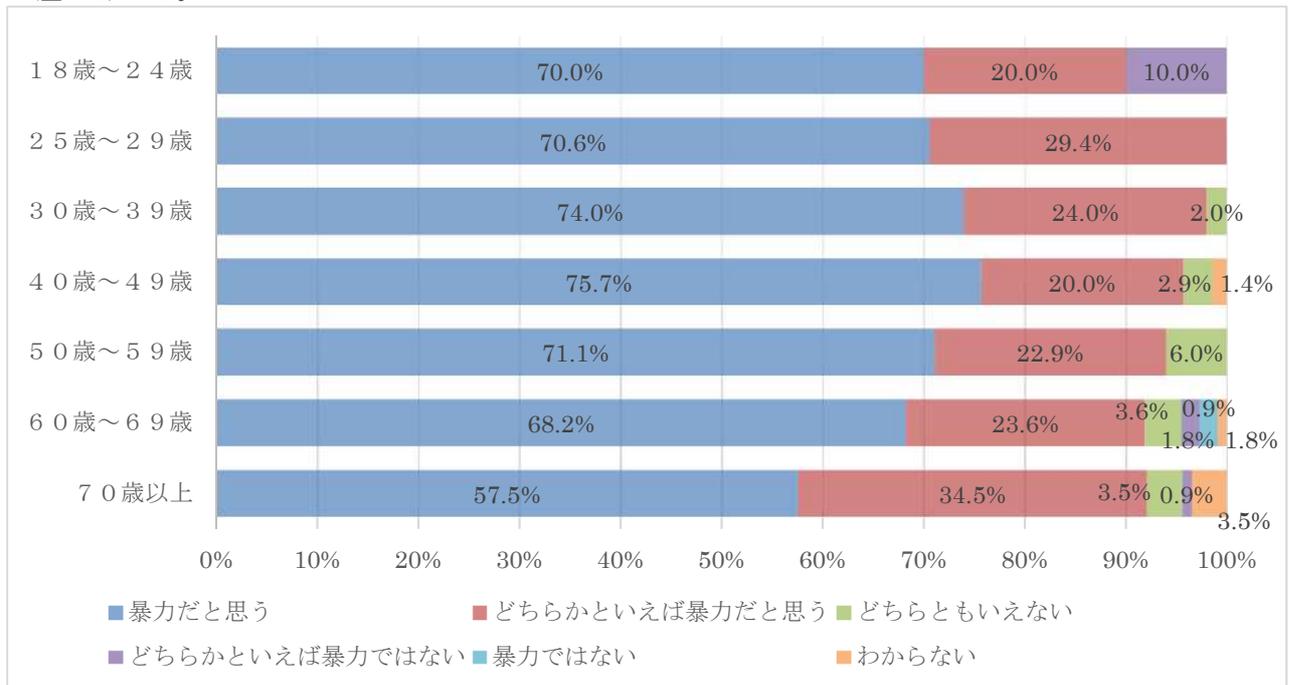
全体：n=475、女：n=254、男：n=209



○年代別比較

どの年代においても〈暴力〉が〈暴力ではない〉を大幅に上回っている。

〈暴力ではない〉について、最も低い 25 歳～29 歳と最も高い 18 歳～24 歳では、10.0 ポイントの差があった。



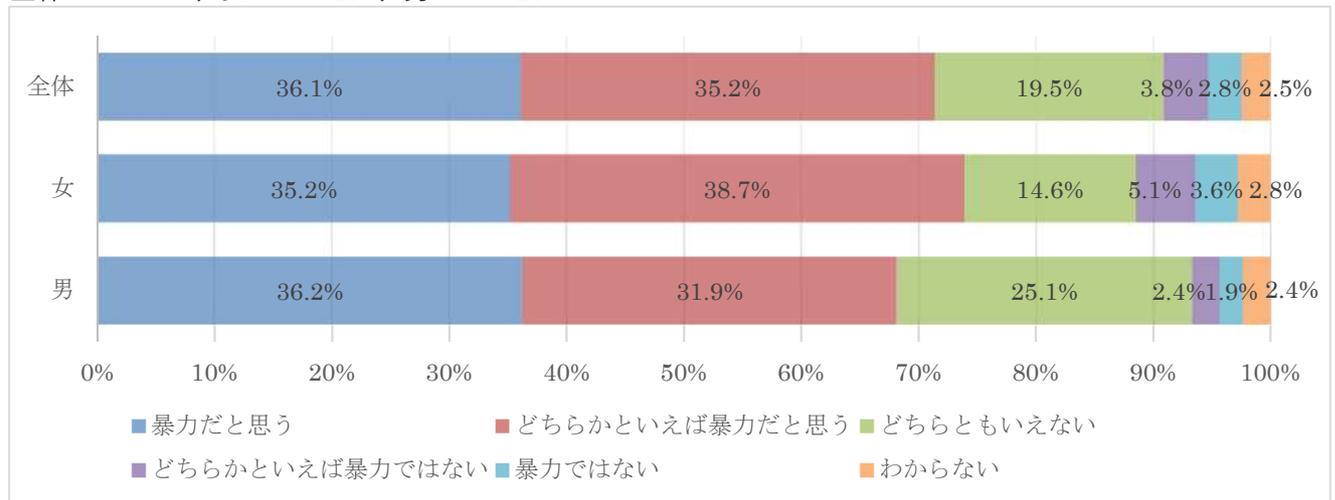
【何を言っても相手にしないで無視をする】

全体では、〈暴力〉（「暴力だと思う」と「どちらかといえば暴力だと思う」の合計）71.3%に対し、〈暴力ではない〉（「どちらかといえば暴力ではない」と「暴力ではない」の合計）6.6%と暴力が64.7ポイント上回った。

性別では、女性は、〈暴力〉73.9%、〈暴力ではない〉8.7%で、暴力が65.2ポイント高かった。

男性は、〈暴力〉68.1%、〈暴力ではない〉4.3%で、暴力が63.8ポイント高かった。

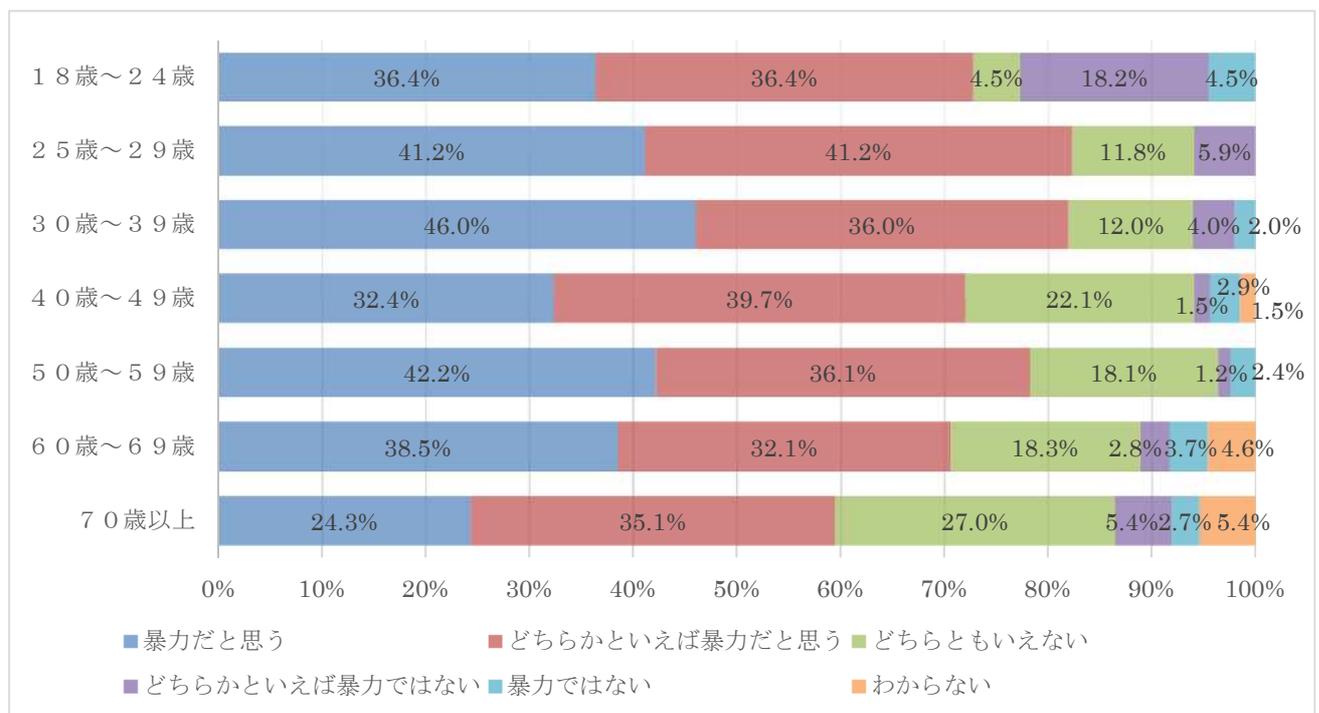
全体：n=471、女：n=253、男：n=207



○年代別比較

どの年代においても〈暴力〉が〈暴力ではない〉を大幅に上回っている。

〈暴力ではない〉について、最も低い50代と最も高い18歳～24歳では、19.1ポイントの差があった。

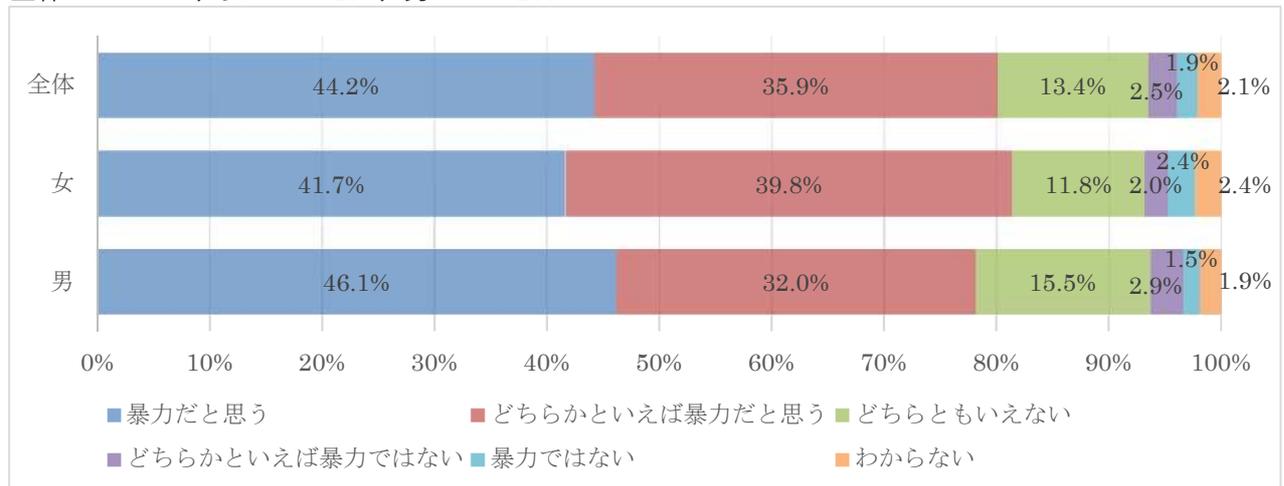


【束縛したり、相手の行動を制限する】

全体では、〈暴力〉（「暴力だと思う」と「どちらかといえば暴力だと思う」の合計）80.1%に対し、〈暴力ではない〉（「どちらかといえば暴力ではない」と「暴力ではない」の合計）4.4%と暴力が75.7ポイント上回った。

性別では、女性は、〈暴力〉81.5%、〈暴力ではない〉4.4%で、暴力が77.1ポイント高かった。男性は、〈暴力〉78.1%、〈暴力ではない〉4.4%で、暴力が73.7ポイント高かった

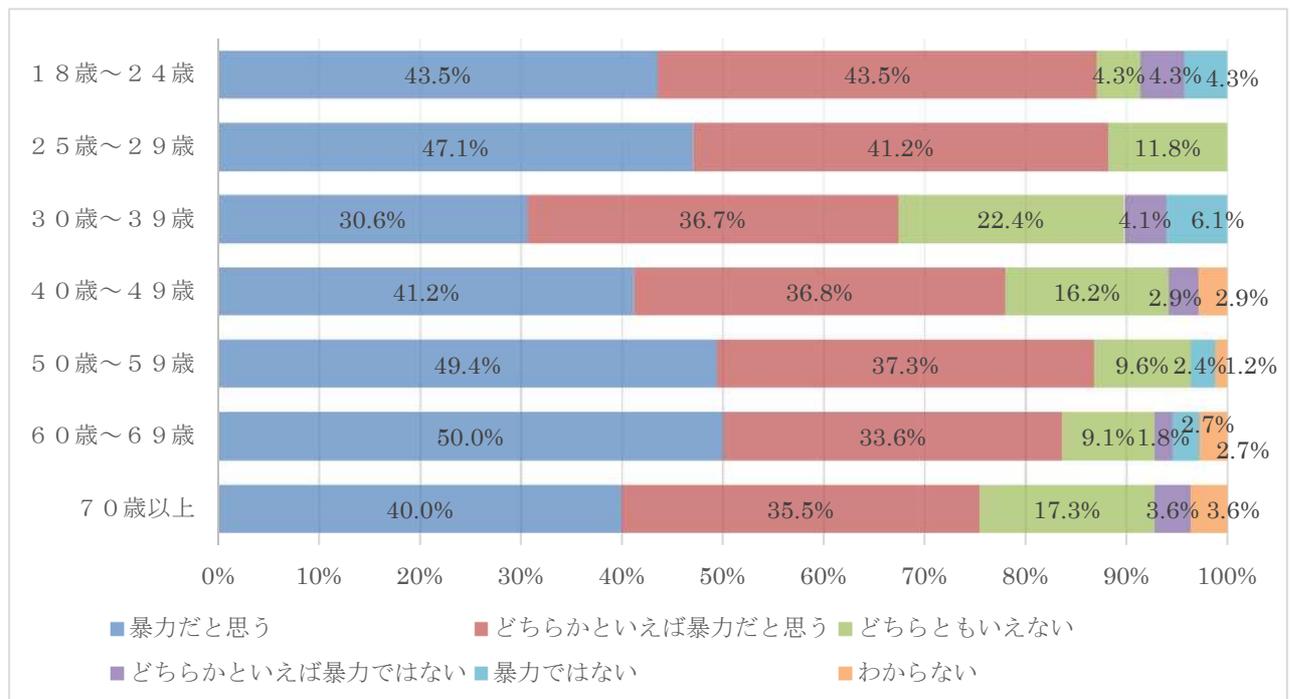
全体：n=471、女：n=254、男：n=206



○年代別比較

どの年代においても〈暴力〉が〈暴力ではない〉を大幅に上回っている。

〈暴力ではない〉について、最も低い25歳～29歳と最も高い30代では、10.2ポイントの差があった。

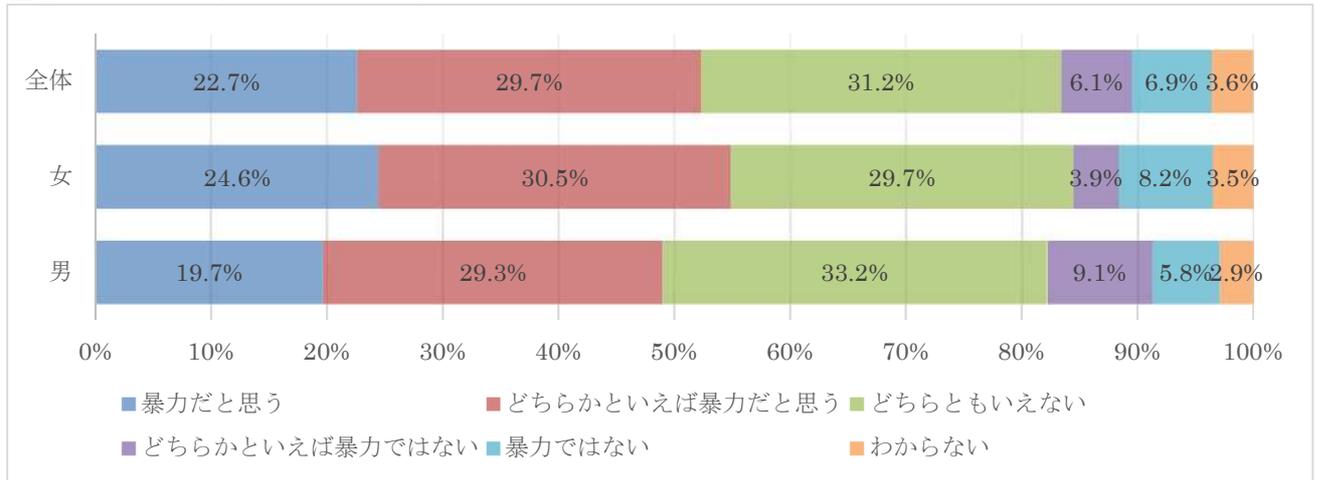


【他の異性と話したり、親しくすることを怒る】

全体では、〈暴力〉（「暴力だと思う」と「どちらかといえば暴力だと思う」の合計）52.4%に対し、〈暴力ではない〉（「どちらかといえば暴力ではない」と「暴力ではない」の合計）13.0%と暴力が39.4ポイント上回った。

性別では、女性は、〈暴力〉55.1%、〈暴力ではない〉12.1%で、暴力が43.0ポイント高かった。
男性は、〈暴力〉49.0%、〈暴力ではない〉14.9%で、暴力が34.1ポイント高かった

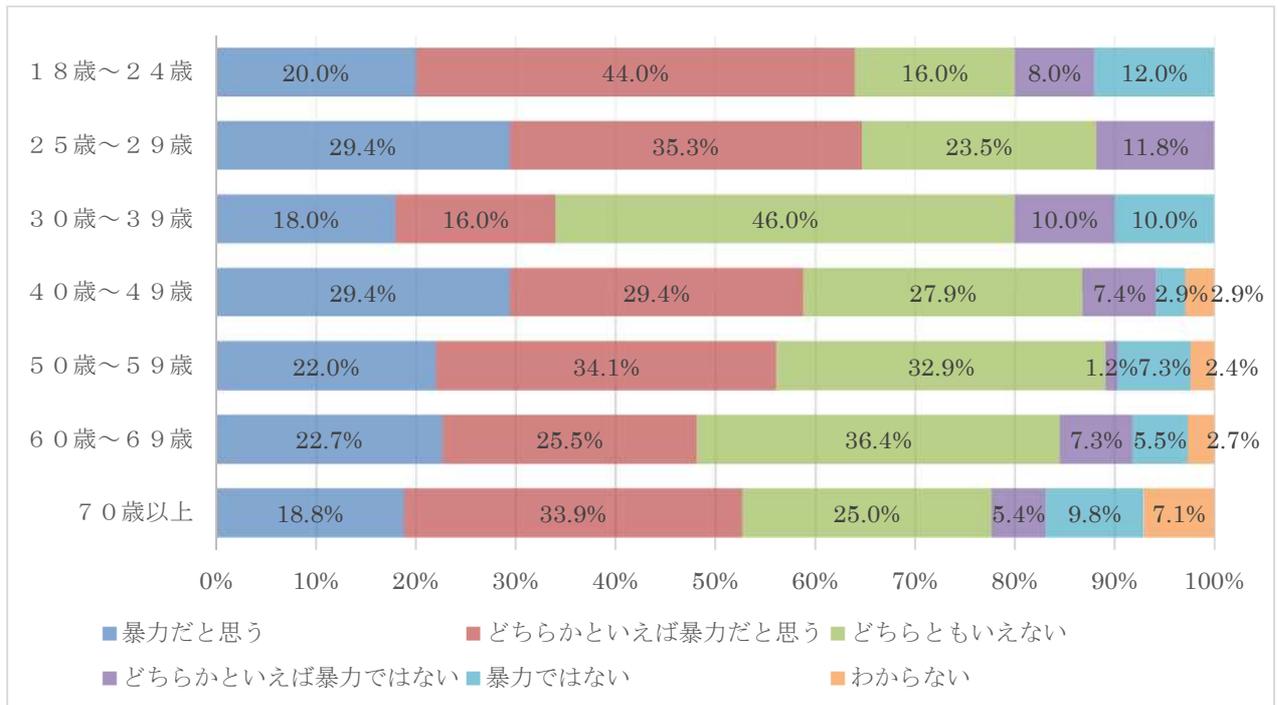
全体：n=475、女：n=256、男：n=208



○年代別比較

どの年代においても〈暴力〉が〈暴力ではない〉を上回っているが、30代においては、〈暴力〉34.0%と最も低い結果となっている。

〈暴力ではない〉について、最も低い50代と最も高い18歳～24歳及び30代では、11.5ポイントの差があった。



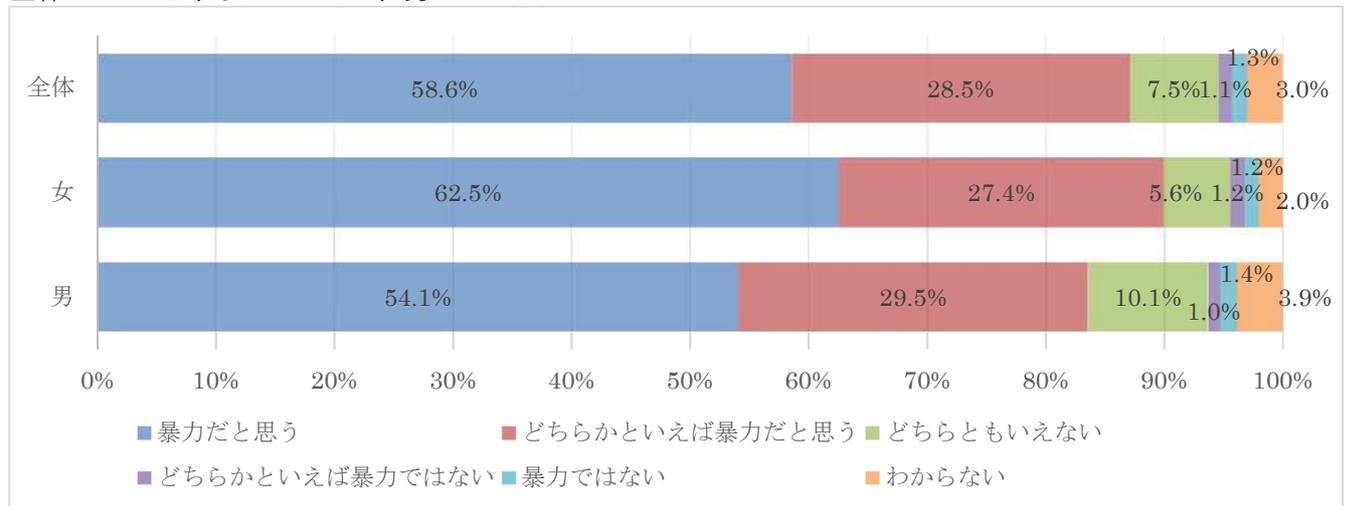
【性行為やキスを断れないようにする】

全体では、〈暴力〉（「暴力だと思う」と「どちらかといえば暴力だと思う」の合計）87.1%に対し、〈暴力ではない〉（「どちらかといえば暴力ではない」と「暴力ではない」の合計）2.4%と暴力が84.7ポイント上回った。

性別では、女性は、〈暴力〉89.9%、〈暴力ではない〉2.4%で、暴力が87.5ポイント高かった。

男性は、〈暴力〉83.6%、〈暴力ではない〉2.4%で、暴力が81.2ポイント高かった

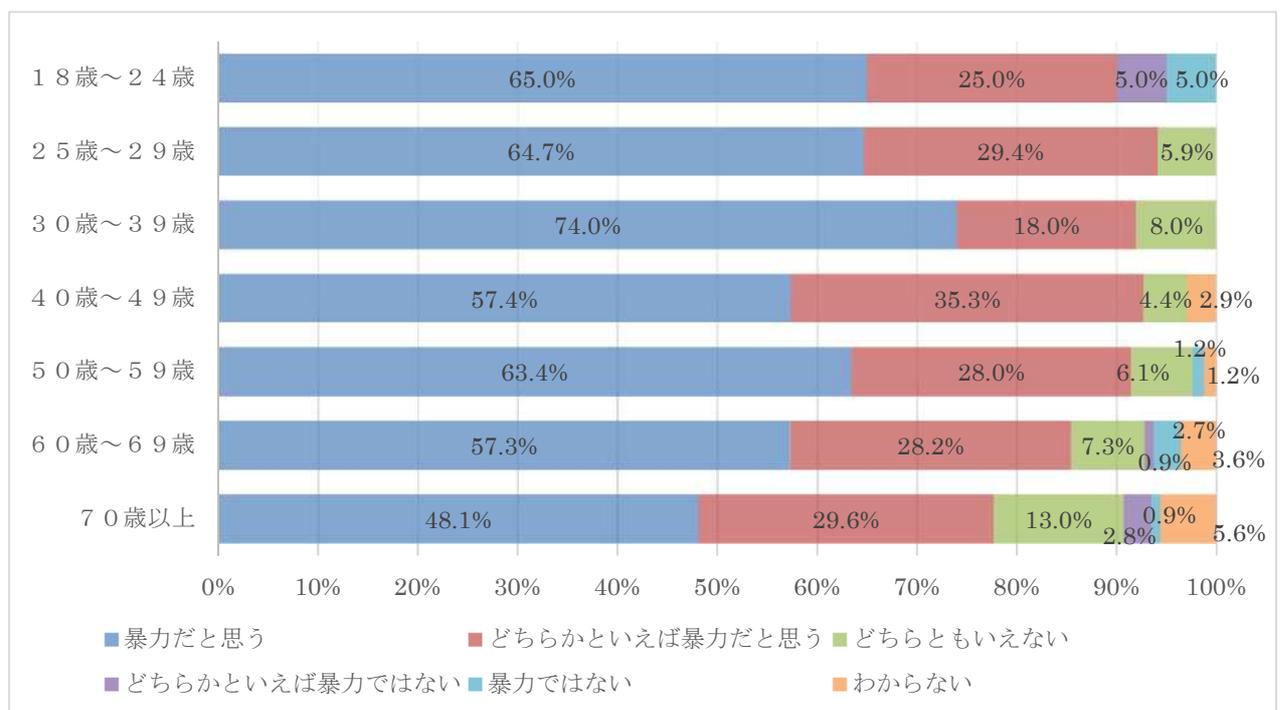
全体：n=466、女：n=248、男：n=207



○年代別比較

どの年代においても〈暴力〉が〈暴力ではない〉を大幅に上回っている。

〈暴力ではない〉について、最も低い25歳～49歳と最も高い18歳～24歳では、10.0ポイントの差があった。

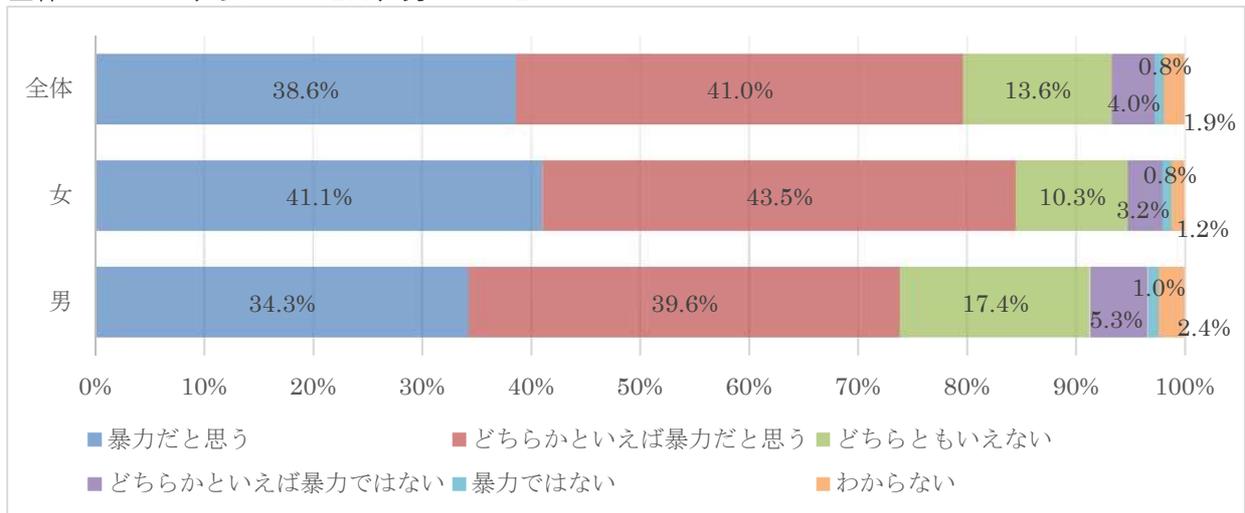


【おだやかに説明してもわからないので怒鳴る】

全体では、〈暴力〉（「暴力だと思う」と「どちらかといえば暴力だと思う」の合計）79.6%に対し、〈暴力ではない〉（「どちらかといえば暴力ではない」と「暴力ではない」の合計）4.8%と暴力が74.8ポイント上回った。

性別では、女性は、〈暴力〉84.6%、〈暴力ではない〉4.0%で、暴力が80.6ポイント高かった。
男性は、〈暴力〉73.9%、〈暴力ではない〉6.3%で、暴力が67.6ポイント高かった

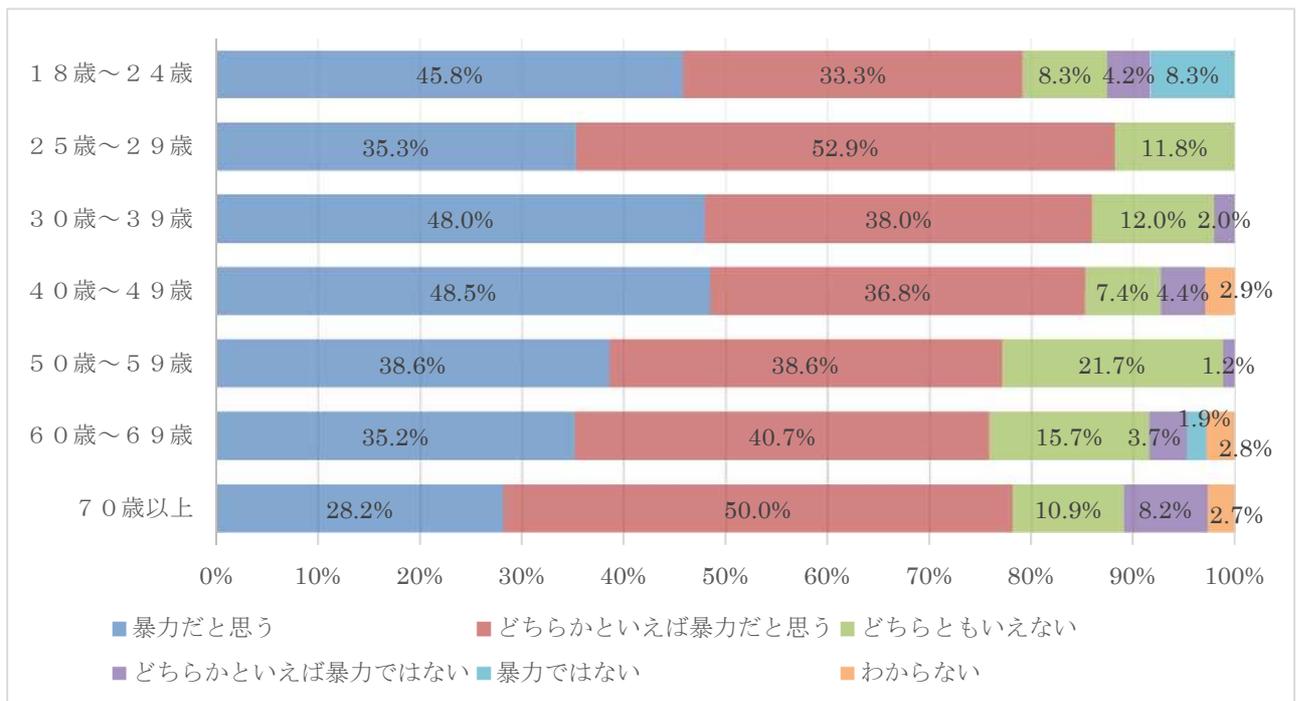
全体：n=471、女：n=253、男：n=207



○年代別比較

どの年代においても〈暴力〉が〈暴力ではない〉を大幅に上回っている。

〈暴力ではない〉について、最も低い25歳～29歳と最も高い18歳～24歳では、12.5ポイントの差があった。



暴力の考え方について

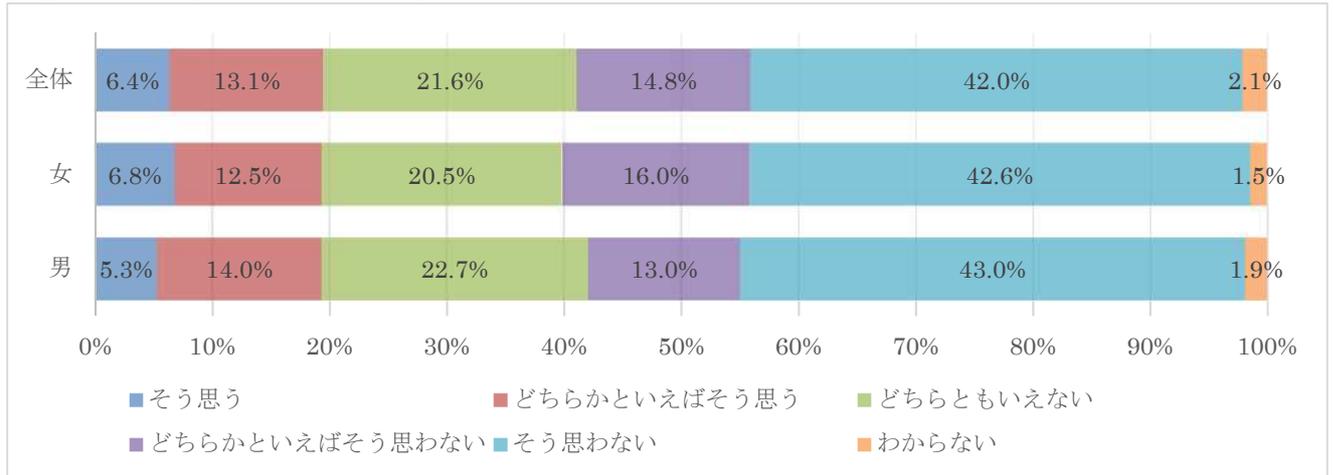
質問の対象：全員（488人）

【暴力を振るうのは、振るわれる方にも原因があるからだ】

全体では、〈思う〉（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）19.5%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）56.8%と思わないが37.3ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉19.3%、〈思わない〉58.6%で、思わないが39.3ポイント高かった。男性は、〈思う〉19.3%、〈思わない〉56.0%で、思わないが36.7ポイント高かった。

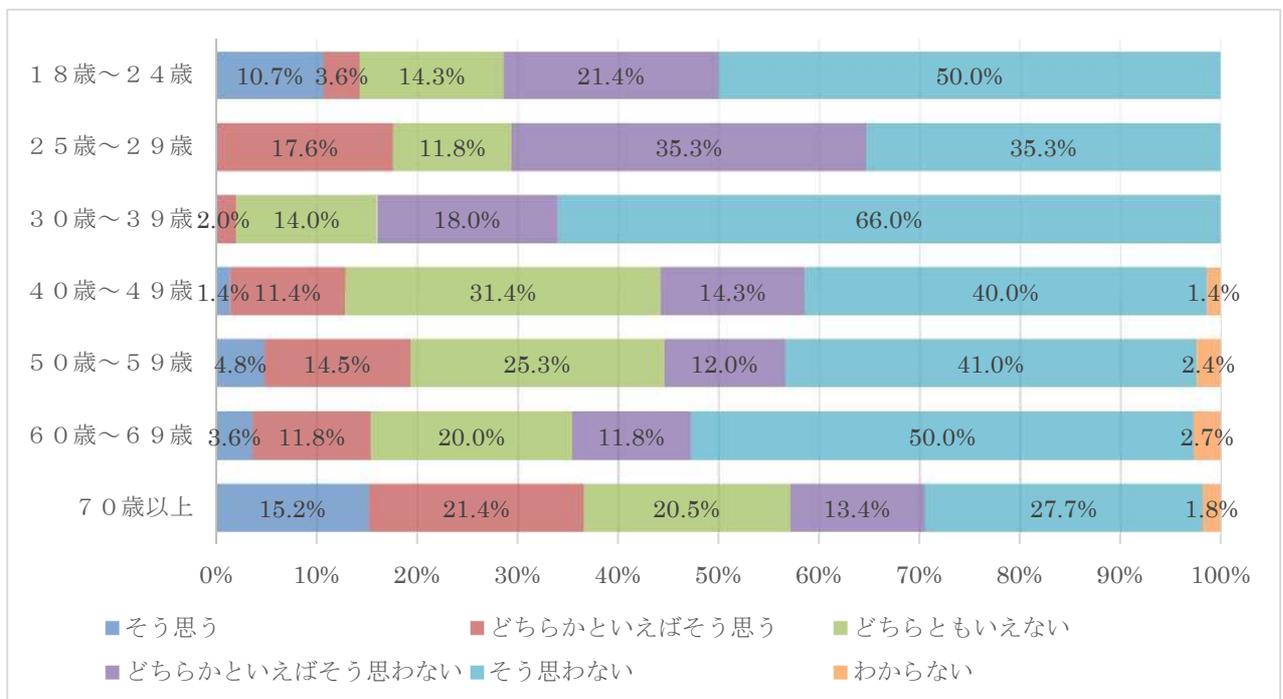
全体：n=481、女：n=263、男：n=207



○年代別比較

どの年代においても〈思わない〉が〈思う〉を大幅に上回っている。

〈思う〉について、最も低い30代と最も高い70歳以上では、34.6ポイントの差があった。

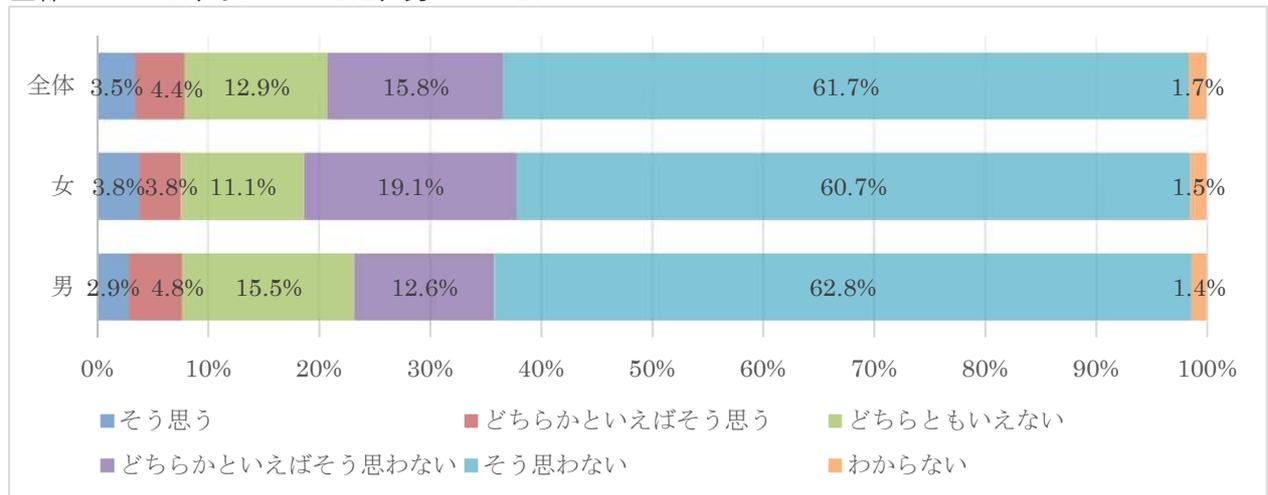


【暴力を振るっても、謝れば許すべきだ】

全体では、〈思う〉（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）7.9%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）77.5%と思わないが69.6ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉7.6%、〈思わない〉79.8%で、思わないが72.2ポイント高かった。男性は、〈思う〉7.7%、〈思わない〉75.4%で、思わないが67.7ポイント高かった。

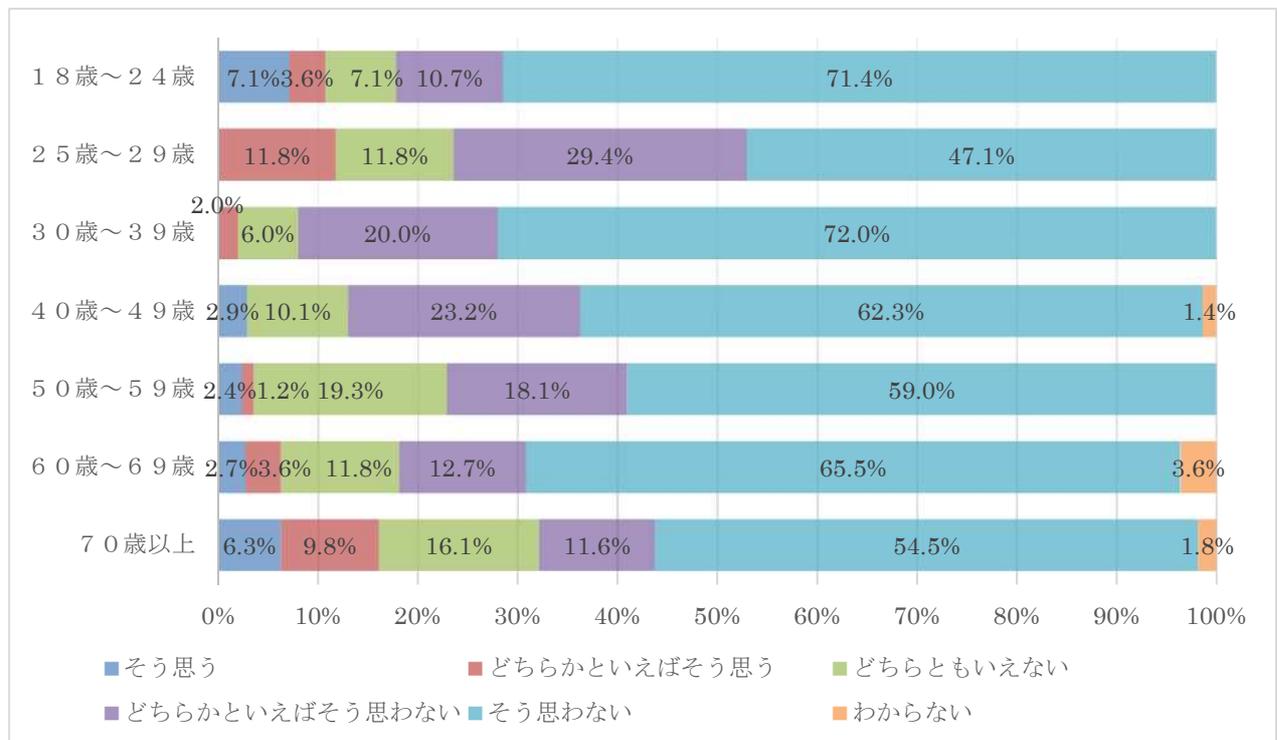
全体：n=480、女：n=262、男：n=207



○年代別比較

どの年代においても〈思わない〉が〈思う〉を大幅に上回っている。

〈思う〉について、最も低い30代と最も高い70歳以上では、14.1ポイントの差があった。

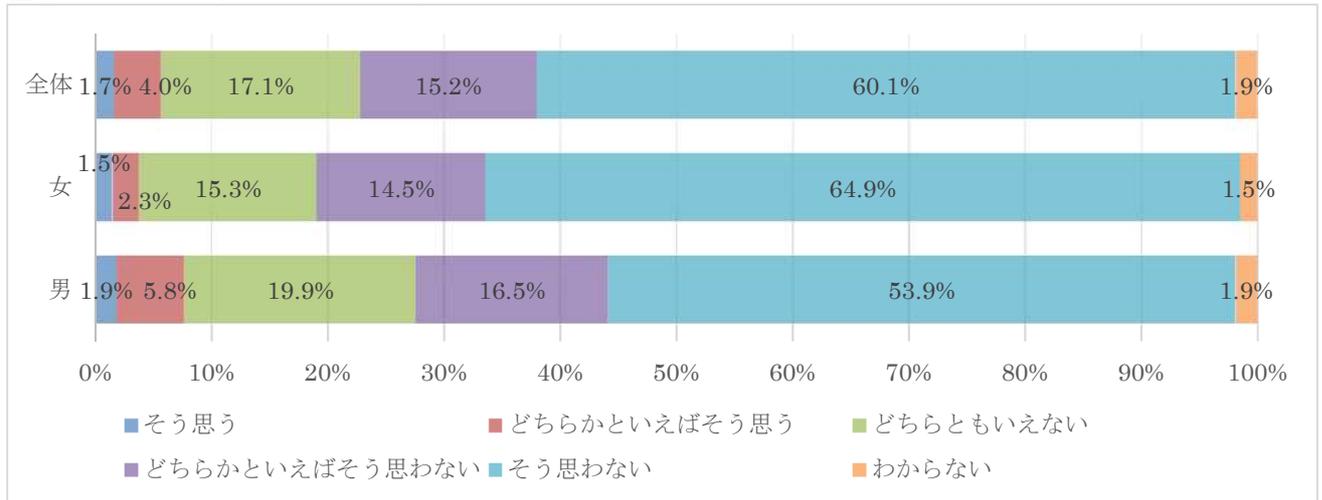


【しつけ目的として親が子どもに暴力を振るうのは仕方ない】

全体では、〈思う〉（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）5.7%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）75.3%と思わないが69.6ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉3.8%、〈思わない〉79.4%で、思わないが75.6ポイント高かった。男性は、〈思う〉7.7%、〈思わない〉70.4%で、思わないが62.7ポイント高かった。

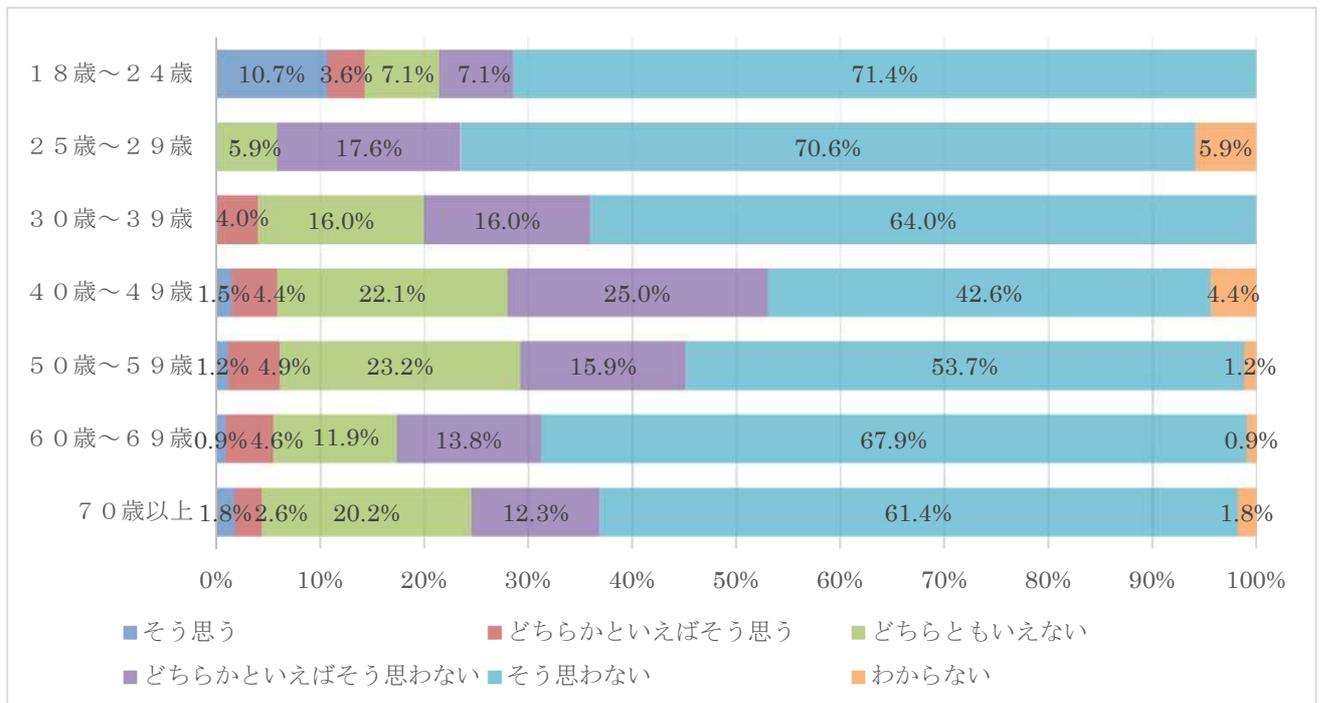
全体：n=479、女：n=262、男：n=206



○年代別比較

どの年代においても〈思わない〉が〈思う〉を大幅に上回っている。

〈思う〉について、最も低い25歳～29歳と最も高い18歳～24歳では、14.3ポイントの差があった。



5. 地域生活全般における男女共同参画意識

あなたが居住する地域活動の男女協働について

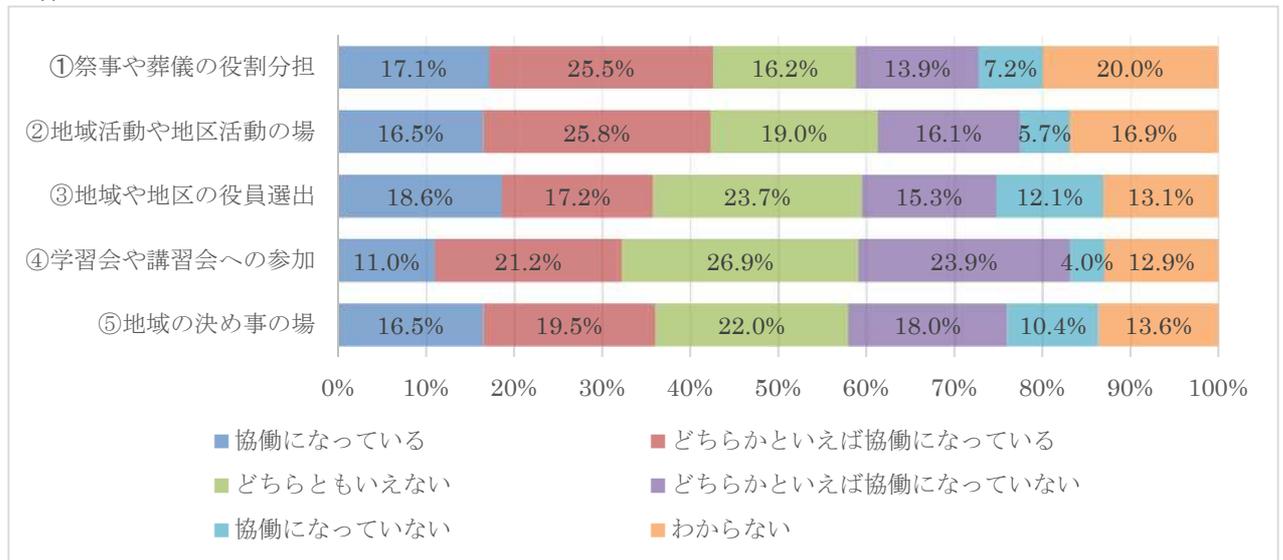
質問の対象：全員（488人）

「祭事や葬儀の役割分担」と「地域活動や地区活動の場」については、〈協働になっている〉（「協働になっている」と「どちらかといえば協働になっている」の合計）と約40%が感じているものの、「学習会や講習会への参加」は、32.2%となっている。

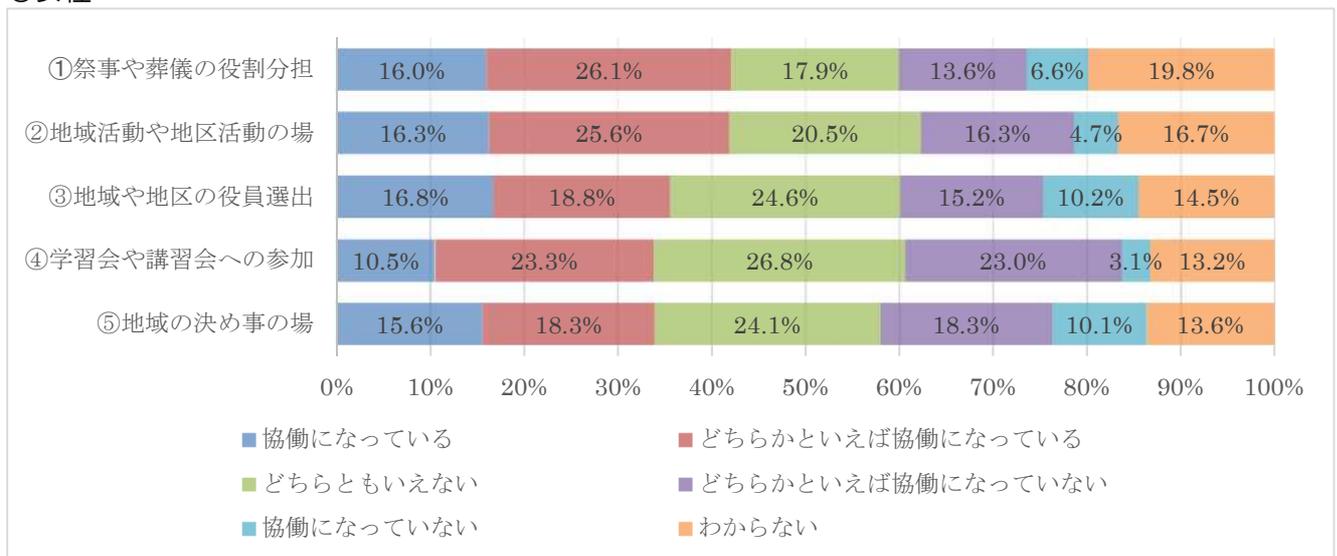
性別では、男女ともにどの項目についてもほぼ同じ割合となった。

- ① 全体：n=474、女：n=257、男：n=206
- ② 全体：n=473、女：n=258、男：n=204
- ③ 全体：n=472、女：n=256、男：n=205
- ④ 全体：n=472、女：n=257、男：n=204
- ⑤ 全体：n=472、女：n=257、男：n=204

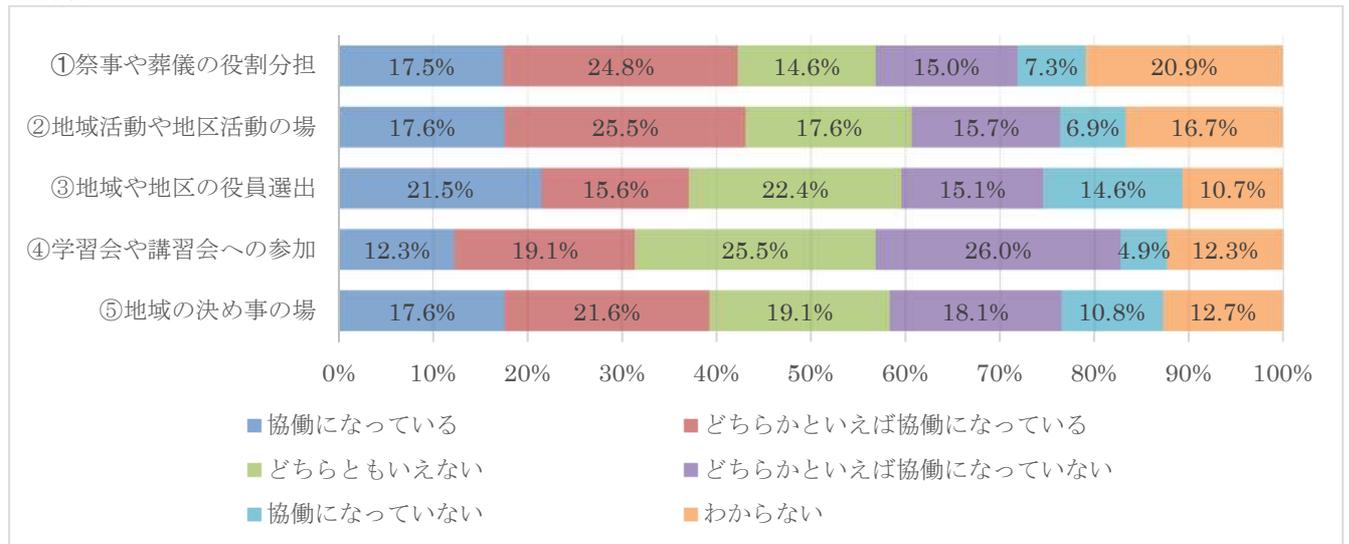
○全体



○女性



○男性



地区や市から役員等を依頼された場合について

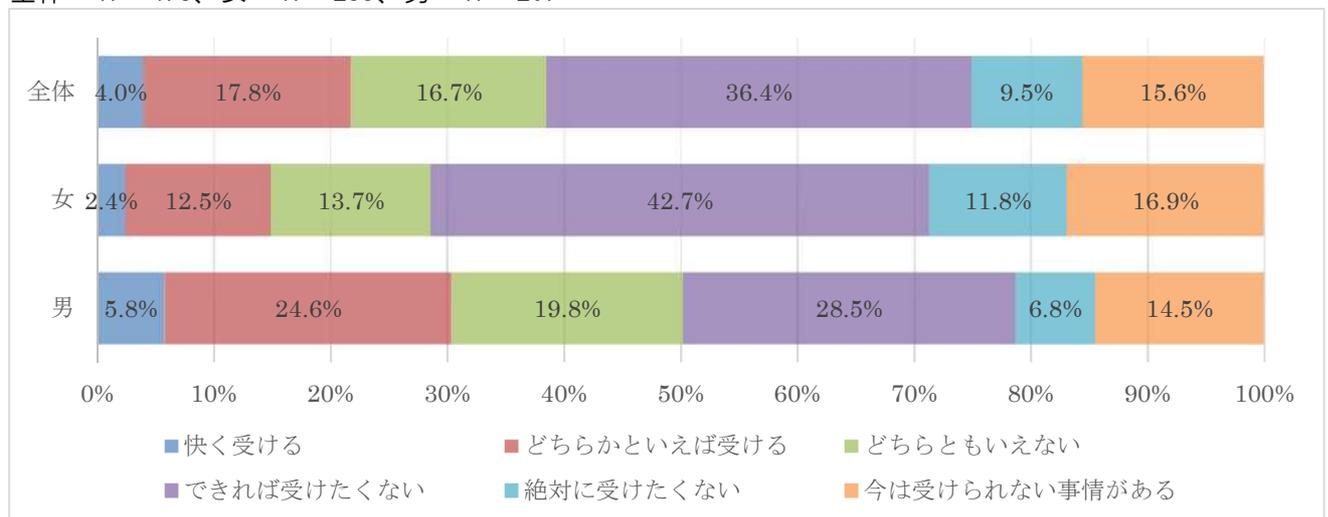
質問の対象：全員（488人）

全体では、〈受ける〉（「快く受ける」と「どちらかといえば受ける」の合計）21.8%に対し、〈受けたくない〉（「できれば受けたくない」と「絶対に受けたくない」の合計）が45.9%と受けたくないが24.1ポイント上回った。

性別では、女性の〈受ける〉（「快く受ける」と「どちらかといえば受ける」の合計）14.9%に対して、男性は、30.4%と約2倍の差があった。

また、女性は男性より「今は受けられない事情がある」で2.4ポイント高かった。

全体：n=473、女：n=255、男：n=207



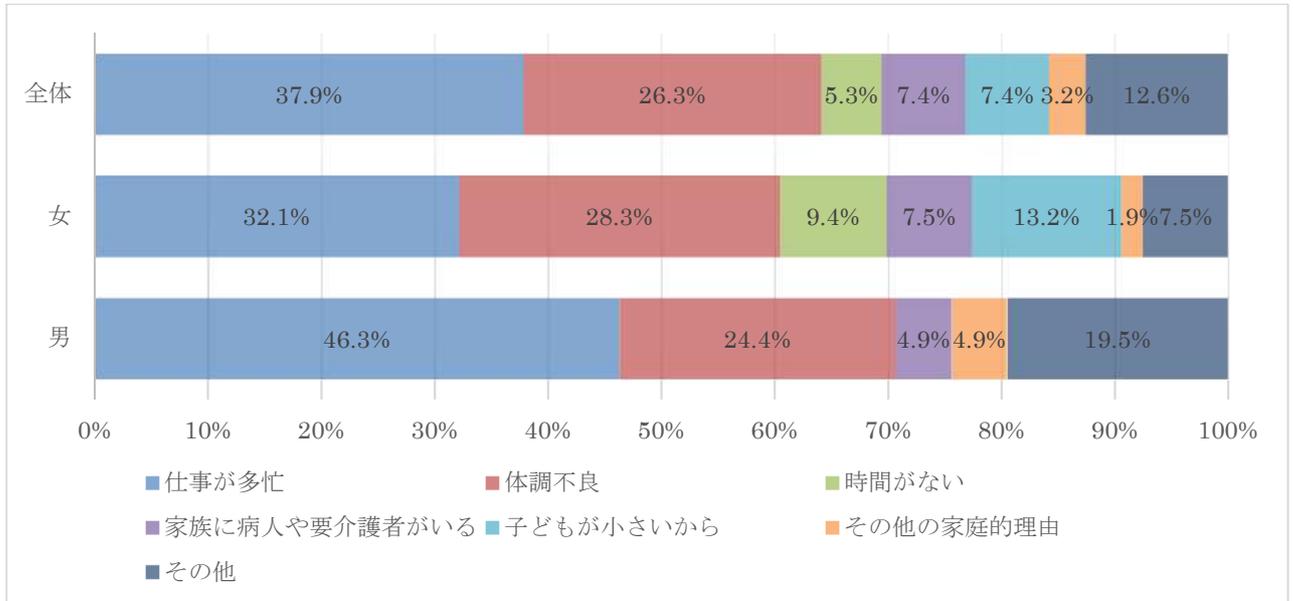
「今は受けられない事情がある」と回答した人の主な事情について

質問の対象：「今は受けられない事情がある」と回答した人（74人）

全体では、「仕事が多忙」が37.9%と最も高かった。

性別では、男女ともに「仕事が多忙」が最も高く、「子どもが小さいから」について、男性より女性の方が13.2ポイント高かった。

全体：n=95、女：n=53、男：n=41

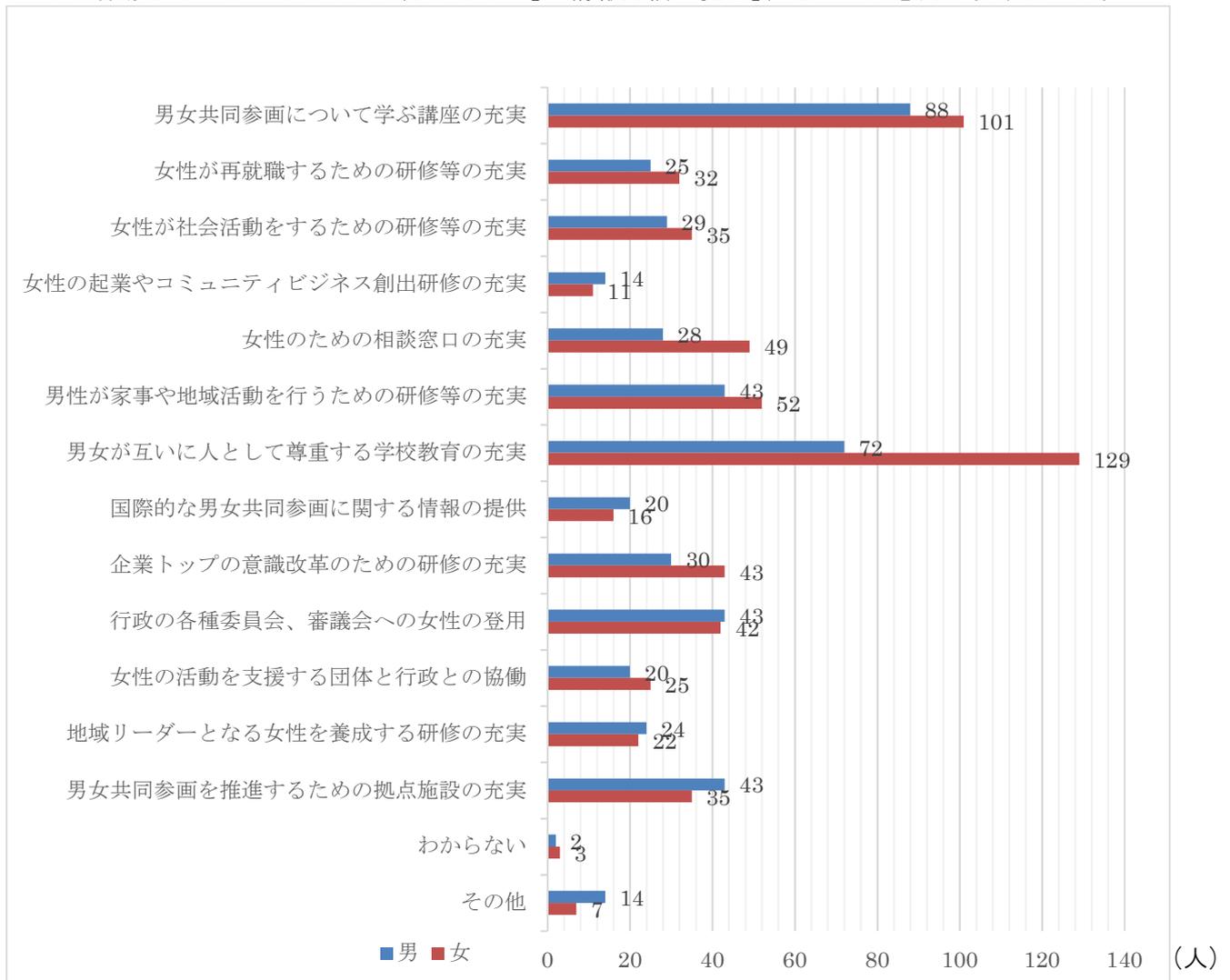


もっと地域で男女共同参画を進めるために必要なことについて

質問の対象：全員（679人）

「男女が互いに人として尊重する学校教育の充実」及び「女性のための相談窓口の充実」については、男女間において約1.8倍の差があった。

「その他」として、「市民の根本的な意識改革」、「発言力がある男性の意識改革」、「一部の市民のみで活動しているのでそもそも分からない」「情報発信の強化」、といった意見が多数あった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「男女共同参画について学ぶ講座の充実」 88人
2. 「男女が互いに人として尊重する学校教育の充実」 72人
3. 「男性が家事や地域活動を行うための研修等の充実」 43人
3. 「行政の各種委員会、審議会への女性の登用」 43人
3. 「男女共同参画を推進するための拠点施設の充実」 43人

【女性のトップ3】

1. 「男女が互いに人として尊重する学校教育の充実」 129人
2. 「男女共同参画について学ぶ講座の充実」 101人
3. 「男性が家事や地域活動を行うための研修等の充実」 52人

6. 職場全般における男女共同参画意識

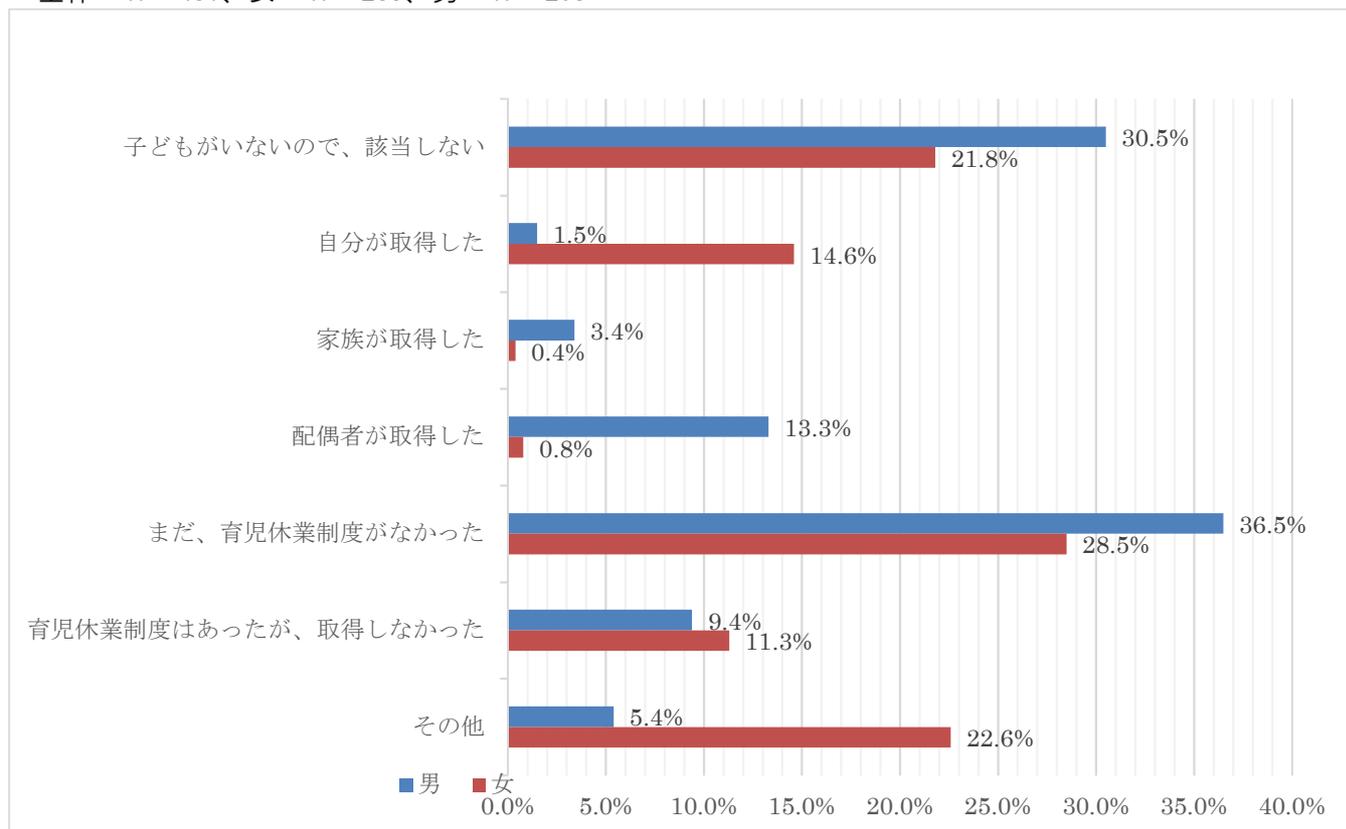
育児休業制度の取得について

質問の対象：全員（488人）

「育児休業制度はあったが、取得しなかった」と回答した女性は 11.3%あった。また、女性の「その他」自由回答としては、「子どもが生まれた時は働いていなかった」（「専業主婦」や「出産を機に退職」）や「自営業」の意見が多かった。

性別にみると、「自分が取得した」について、男女間で 13.1 ポイントの差があった。

全体：n=451、女：n=239、男：n=203



男女別の育児休業取得状況について

質問の対象：全員（488人）

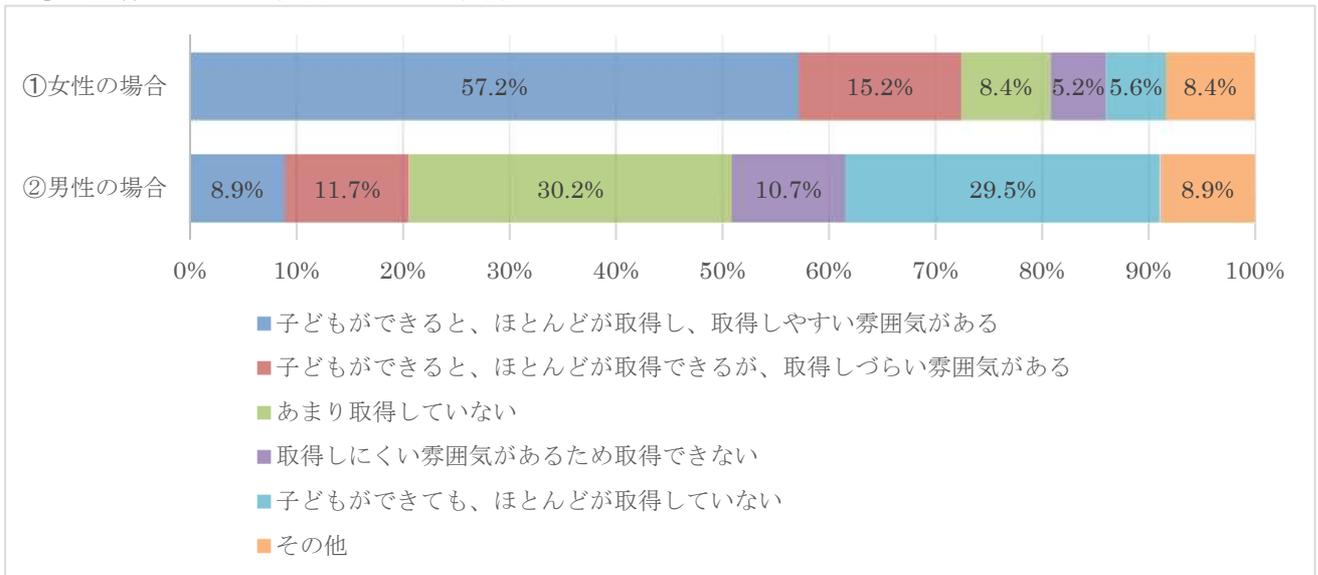
女性は、「子どもができると、ほとんどが取得し、取得しやすい雰囲気がある」が最も多く 57.2% であった。

男性は、「あまり取得していない」が最も多く、次いで「子どもができて、ほとんどが所得していない」が多い。

また、女性は、「子どもができると、ほとんどが取得し、取得しやすい雰囲気がある」が 57.2% に対して、男性は、8.9%と 48.3ポイントの差があった。

① 全体：n=250、女：n=141、男：n=104

② 全体：n=281、女：n=134、男：n=141



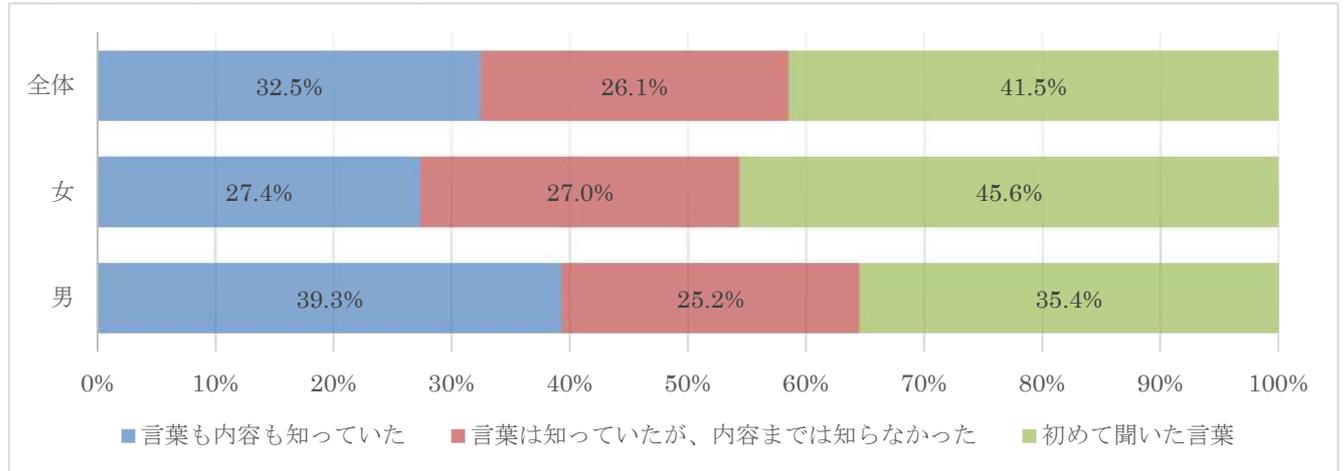
ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知について

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈知っている〉（「言葉も内容も知っていた」と「言葉は知っていたが、内容までは知らなかった」の合計）58.6%に対し、〈知らない〉（「初めて聞いた言葉」の合計）41.5%と知っているが17.1ポイント上回った。

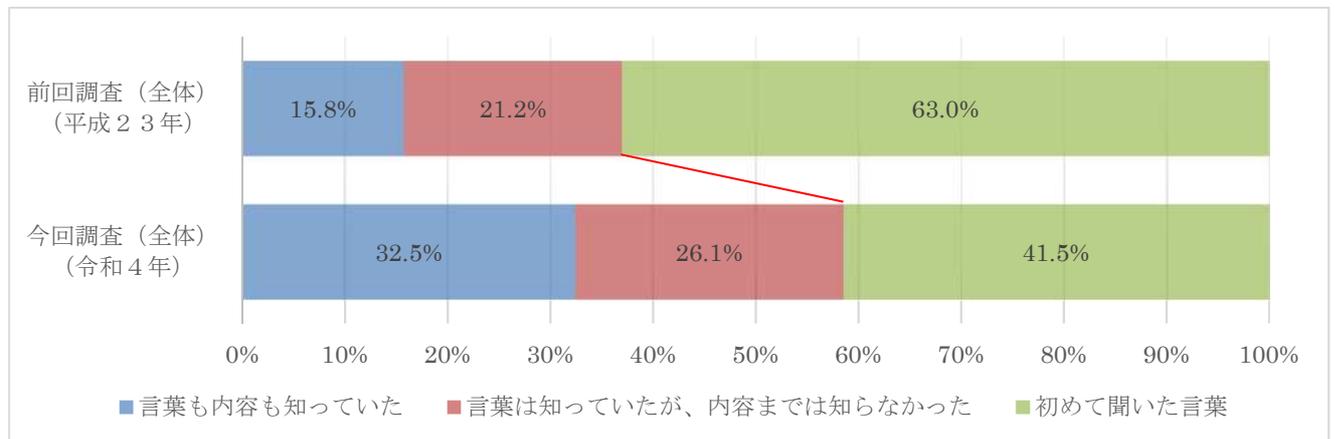
性別では、男性〈知っている〉64.5%に対して、女性〈知っている〉54.4%で、男性の方が10.1ポイント上回っている。

全体：n=468、女：n=252、男：n=206



○前回調査との比較

全体では、前回調査より〈賛成〉が21.6ポイント高くなった。



家庭生活または地域の生活と仕事との関係について

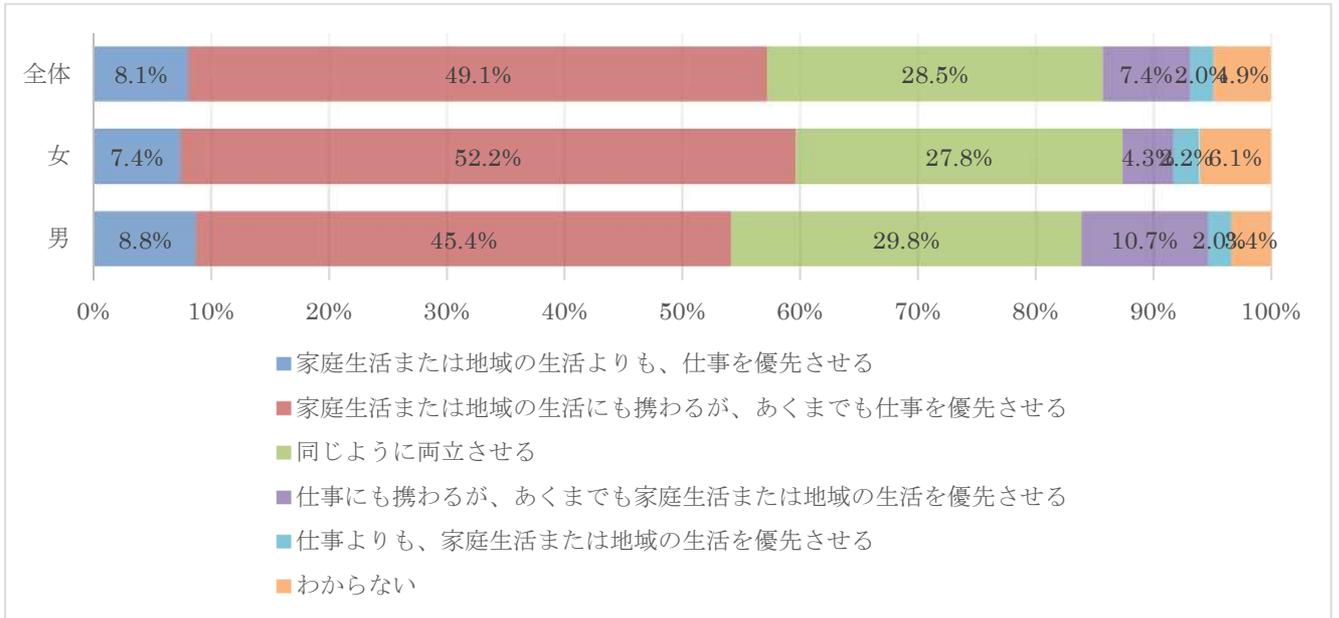
質問の対象：全員（488人）

【男性の立場になった時】の全体では、〈仕事を優先させる〉（「家庭生活または地域の生活よりも、仕事を優先させる」、「家庭生活または地域の生活にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」の合計）57.2%と高い。

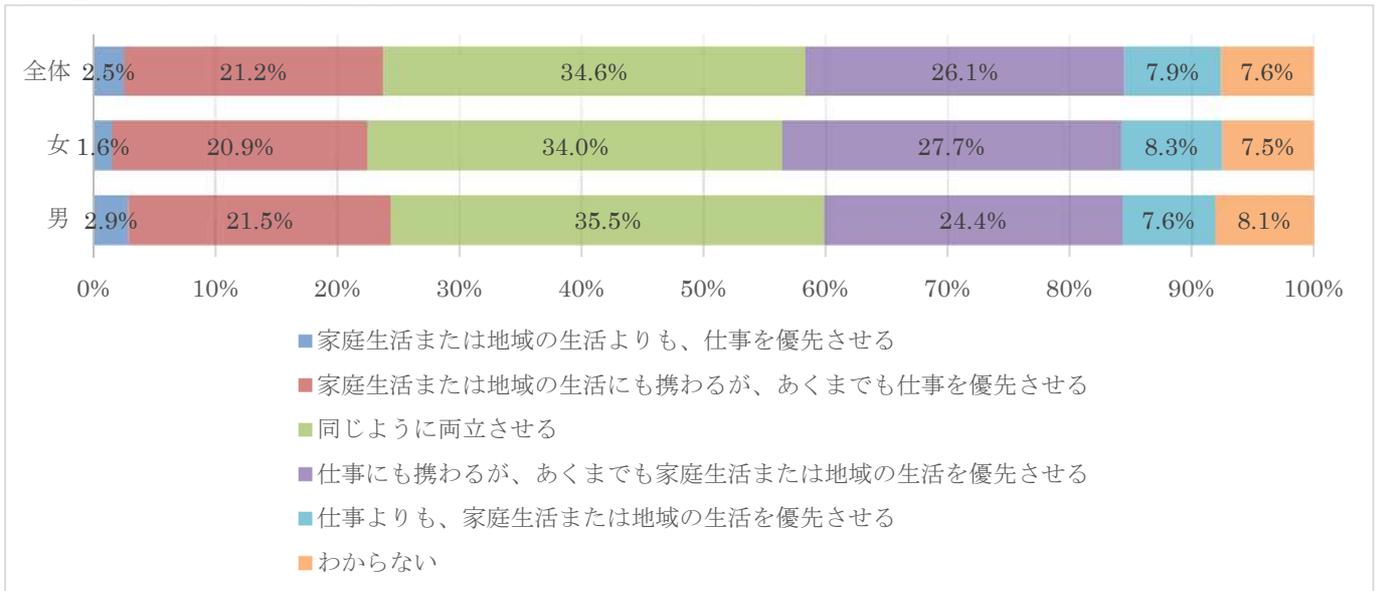
【女性の立場になった時】の全体では、〈仕事を優先させる〉23.7%と、【男性の立場になった時】より33.5ポイント下回っている。

【男性の立場になった時】の〈両立させる〉（「同じように両立させる」の合計）28.5%に対し、【女性の立場になった時】の〈両立させる〉34.6%と、【女性の立場になった時】の〈両立させる〉が6.1ポイント上回った。

【男性の立場になった時】全体：n=446、女：n=230、男：n=205



【女性の立場になった時】全体：n=433、女：n=172、男：n=253

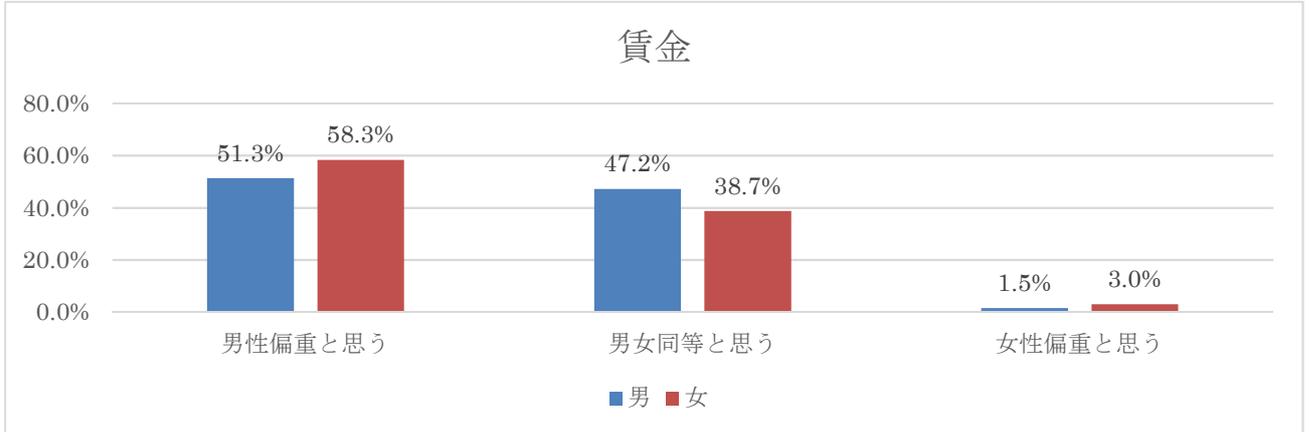


職場の中の男女格差について

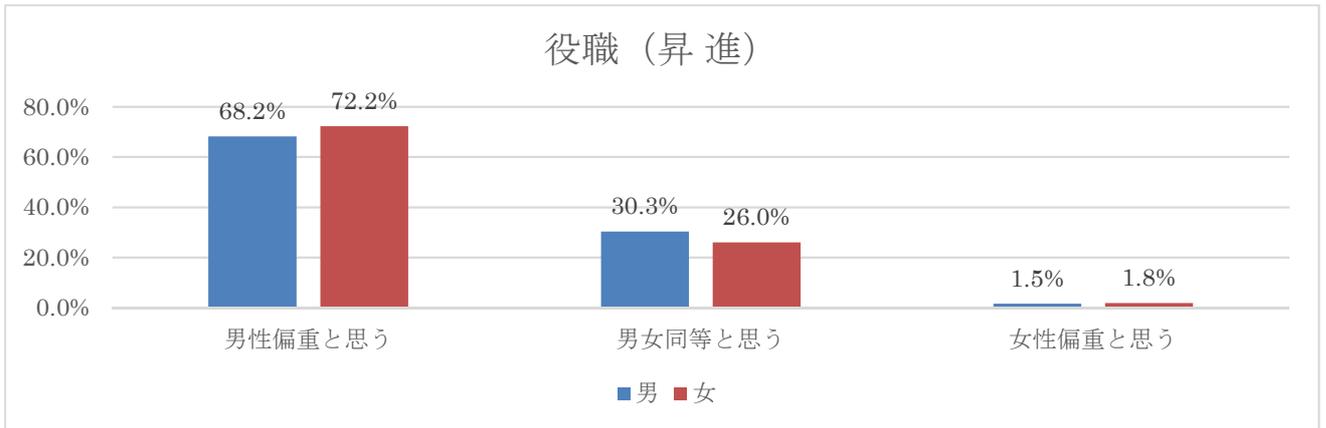
質問の対象：全員（488人）

男女とも「役職（昇進）」面で「男性偏重」を強く感じている。
また、「賃金」、「仕事量」、「責任ある仕事」、でも「男性偏重」を感じているが、「役職」に比べると男女平等の意識が高いとみられる。

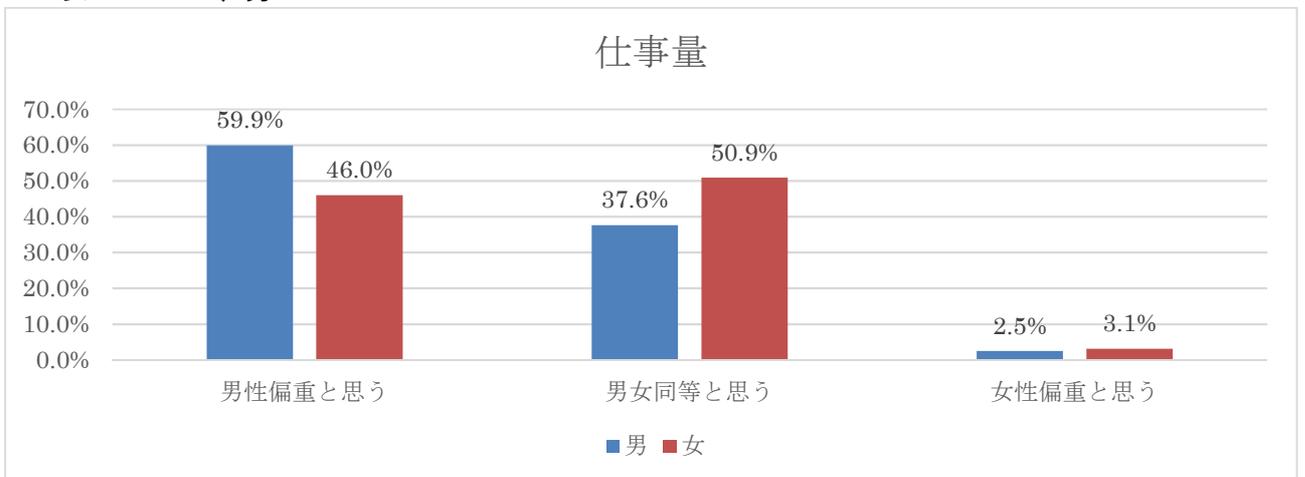
女：n=230、男：n=197



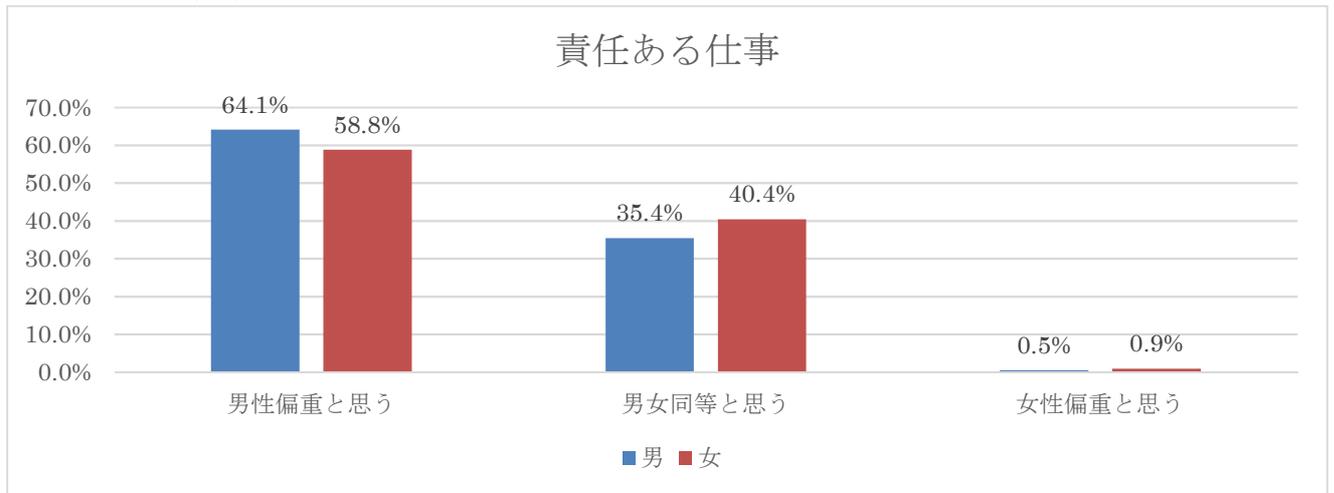
女：n=227、男：n=198



女：n=224、男：n=197



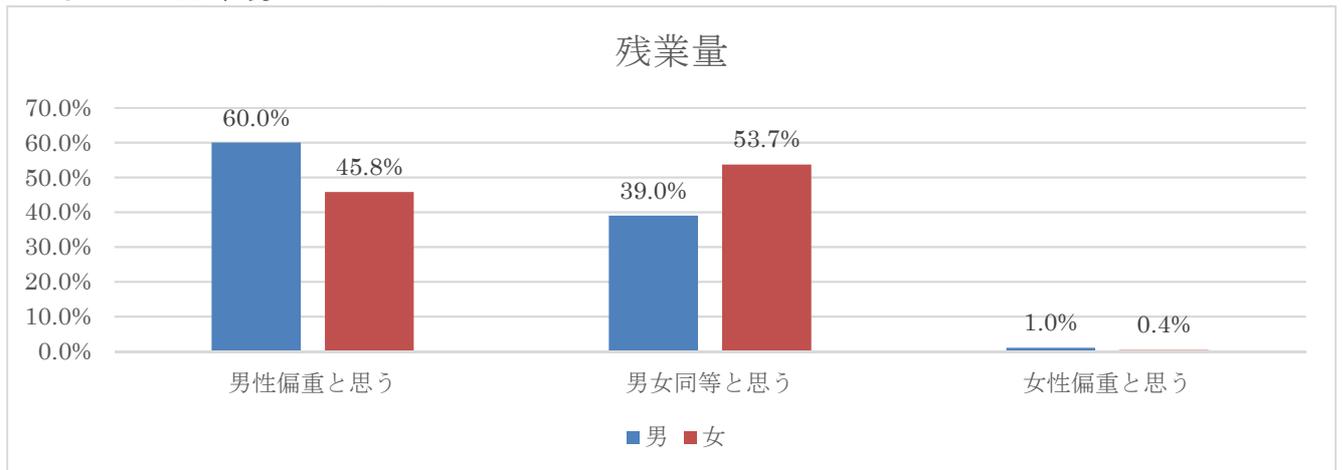
女：n=228、男：n=195



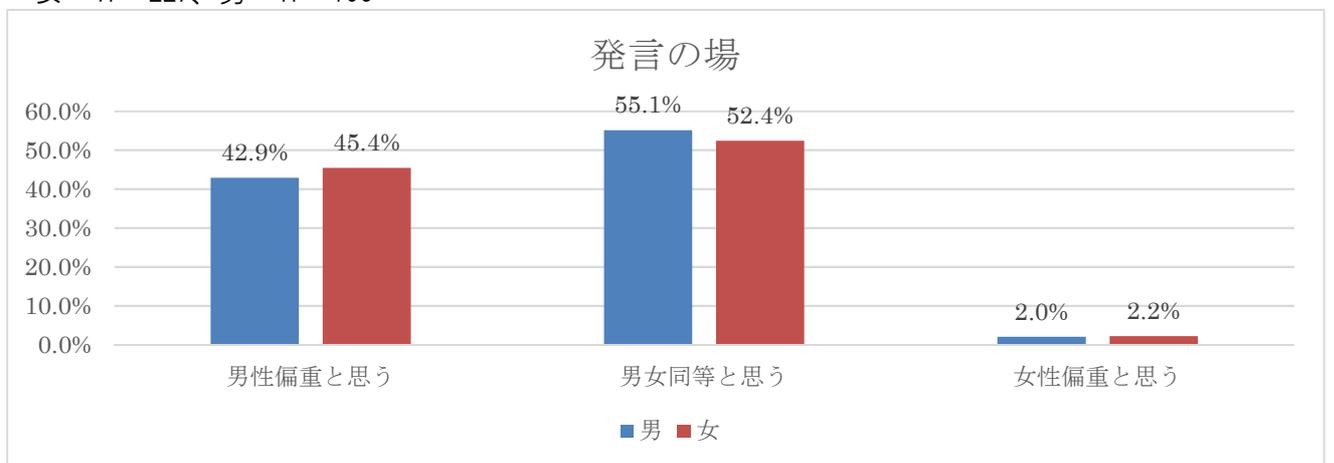
次に、「残業量」、「発言の場」、「休暇」をみると、「休暇」は、男女ともに約80%が「男女同等だ」と回答している。

また「残業量」では男性の方が女性より14.2ポイント高く男性偏重と答え、「発言」では男女ともに50%以上が「男女同等だ」と回答し、男女平等が進んできている。

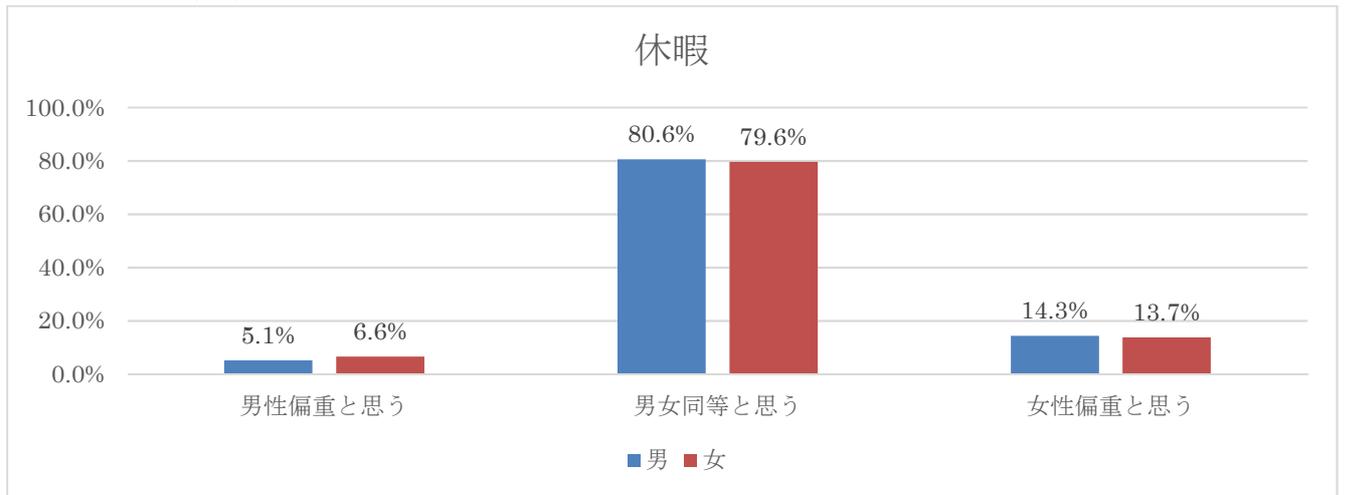
女：n=227、男：n=195



女：n=227、男：n=196



女：n=226、男：n=196

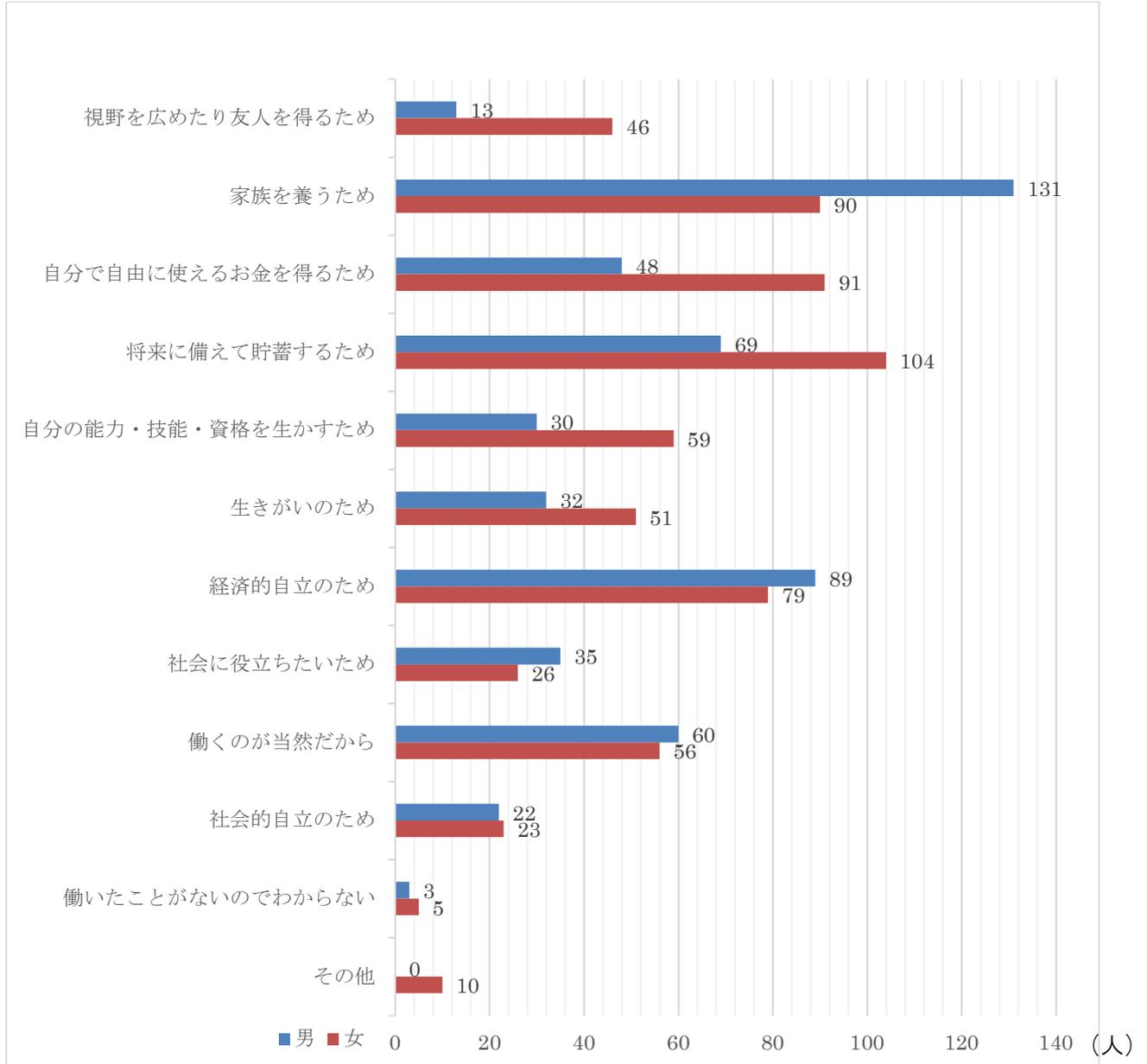


働く（働いた）主な理由について

質問の対象：全員（488人）

「視野を広めたり友人を得るため」については、男女間で約3.5倍の差があった。また、「自分で自由に使えるお金を得るため」及び「自分の能力・技能・資格を生かすため」については、約2倍の差があった。

女性が回答した「その他」については、「生活のため（老後のため含む）」や「人との関わりを持つため」の意見が多かった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「家族を養うため」 131人
2. 「経済的自立のため」 89人
3. 「将来に備えて貯蓄するため」 69人

【女性のトップ3】

1. 「将来に備えて貯蓄するため」 104人
2. 「自分で自由に使えるお金を得るため」 91人
3. 「家族を養うため」 90人

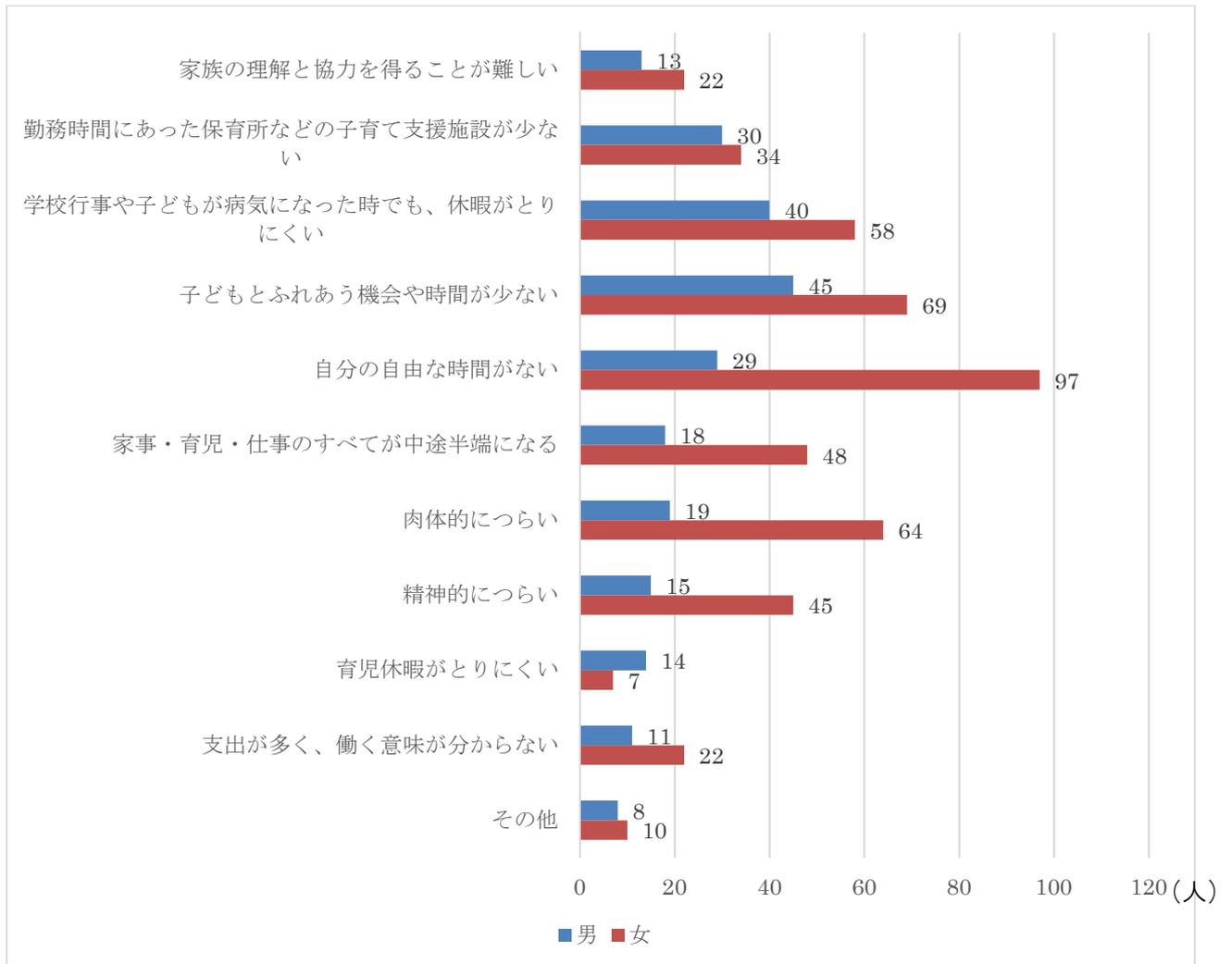
子育てと仕事の両立で苦勞した点・苦勞している点について

質問の対象：両立させた(させている人) (339人)

「自分の自由な時間がない」・「肉体的につらい」・「精神的につらい」については、男女間で約3倍の差があった。

また、「育児休暇がとりにくい」については、男女間で2倍の差があった。

「その他」については、「ゆとりをもって子育てをする」や「ワンオペなので、すべてが大変だった」の意見が多数あった。



【男性のトップ3】

1. 「子どもとふれあう機会や時間が少ない」 45人
2. 「学校行事や子どもが病気になった時でも、休暇がとりにくい」 40人
3. 「勤務時間に合った保育所などの子育て支援施設が少ない」 30人

【女性のトップ3】

1. 「自分の自由な時間がない」 97人
2. 「子どもとふれあう機会や時間が少ない」 69人
3. 「肉体的につらい」 64人

就業状況について

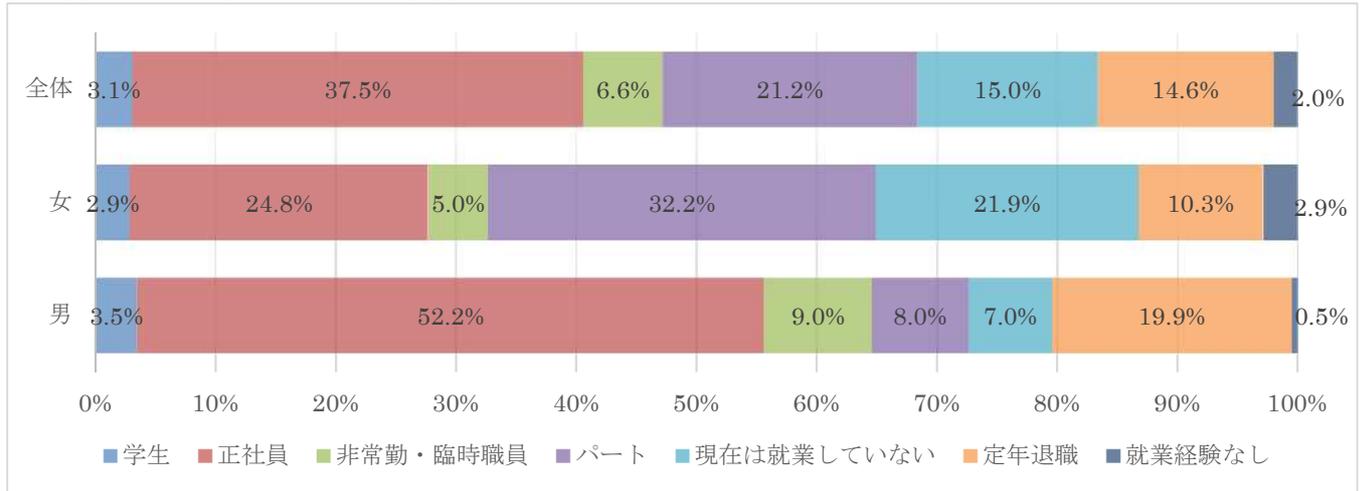
質問の対象：全員（488人）

全体では、〈就業中〉（「正社員」・「非常勤・臨時職員」・「パート」の合計）65.3%に対し、〈就業していない〉（「現在は就業していない」・「定年退職」・「就業経験なし」の合計）31.6%と就業中が33.7ポイント上回った。

性別では、男性は、〈就業中〉69.2%に対して、女性は、〈就業中〉62.0%で、男性の方が7.2ポイント上回っている。

また、「正社員」については、女性より男性の方が、27.4ポイント高く、男女で大きな差がある。

全体：n=453、女：n=242、男：n=201

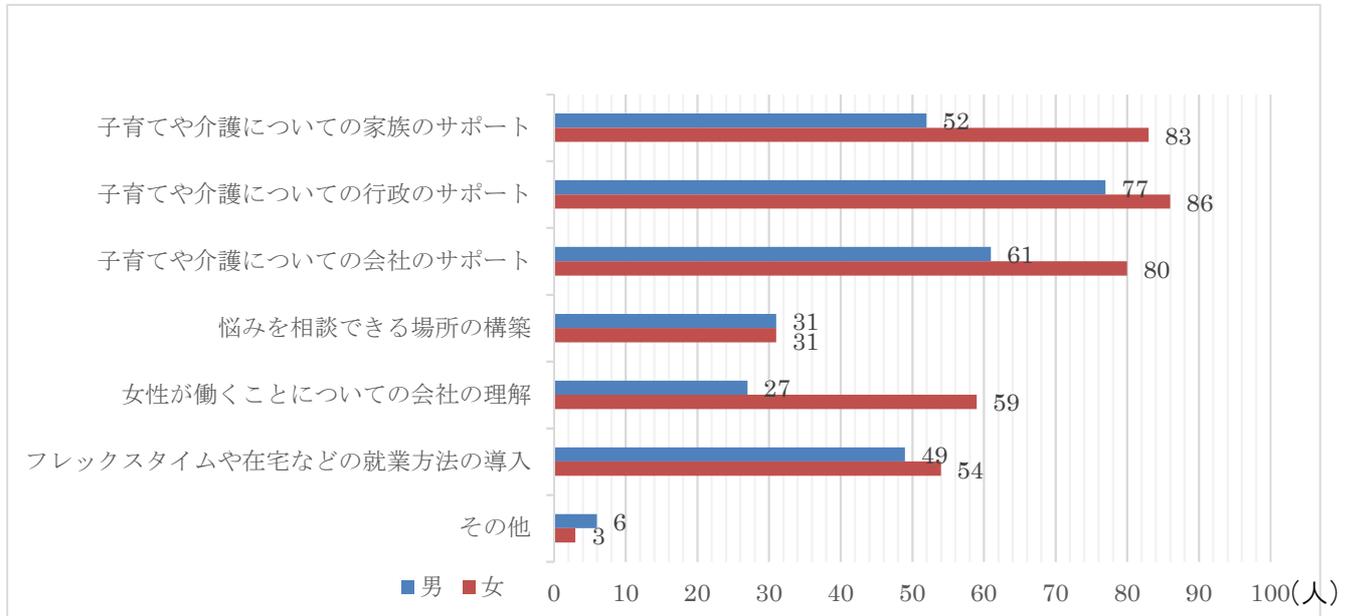


再就職や仕事を続けるために必要なことについて

質問の対象：全員（488人）

「女性が働くことについての会社の理解」については、男女間で約2倍の差があり、「子育てや介護についての家族のサポート」については、1.6倍の差があった。

「その他」については、「年齢不問の働く場所を増やす」や「仕事のブランクがあっても受け入れてくれる会社を増やす」の意見が多かった一方で、「個人の意欲次第」といった意見もあった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「子育てや介護についての行政のサポート」 77人
2. 「子育てや介護についての会社のサポート」 61人
3. 「子育てや介護についての家族のサポート」 52人

【女性のトップ3】

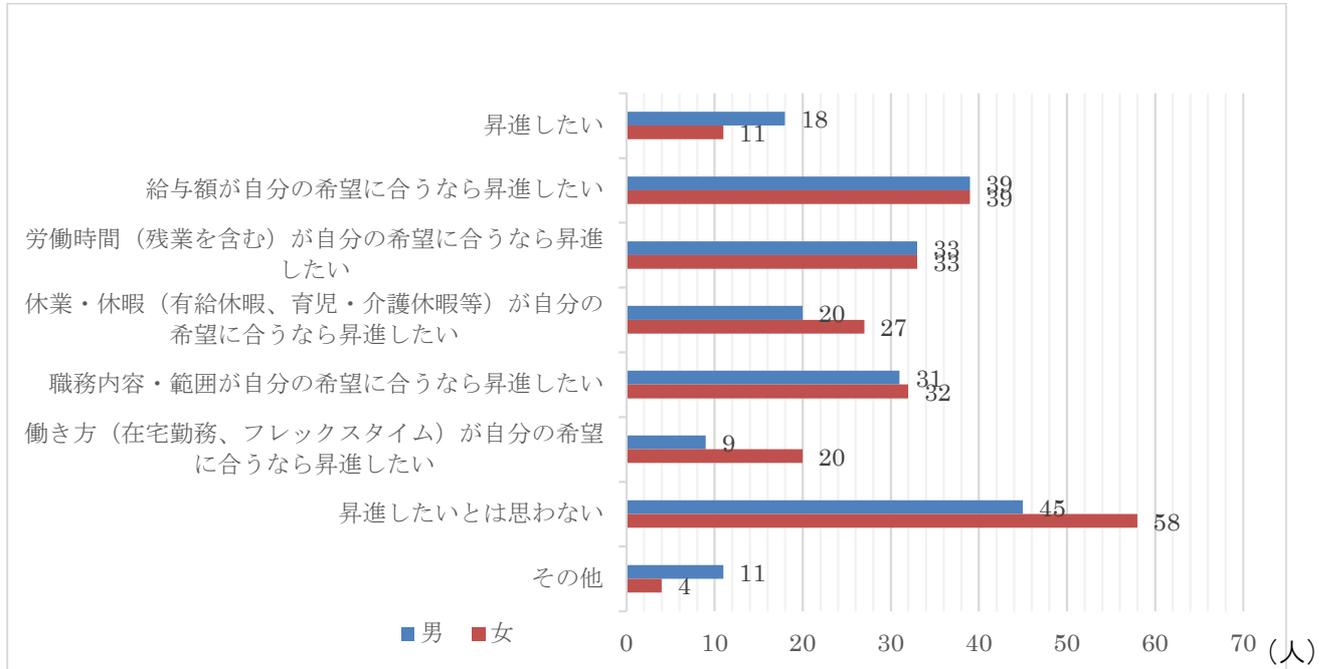
1. 「子育てや介護についての行政のサポート」 86人
2. 「子育てや介護についての家族のサポート」 83人
3. 「子育てや介護についての会社のサポート」 80人

昇進の希望について

質問の対象：就業中（296人）

「働き方（在宅勤務、フレックスタイム）が自分の希望に合うなら昇進したい」については、男女間で約2倍の差があった。

「その他」については、「定年後なので昇進は考えていない」が多かった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「昇進したいとは思わない」 45人
2. 「給与額が自分の希望に合うなら昇進したい」 39人
3. 「労働時間（残業を含む）が自分の希望に合うなら昇進したい」 33人

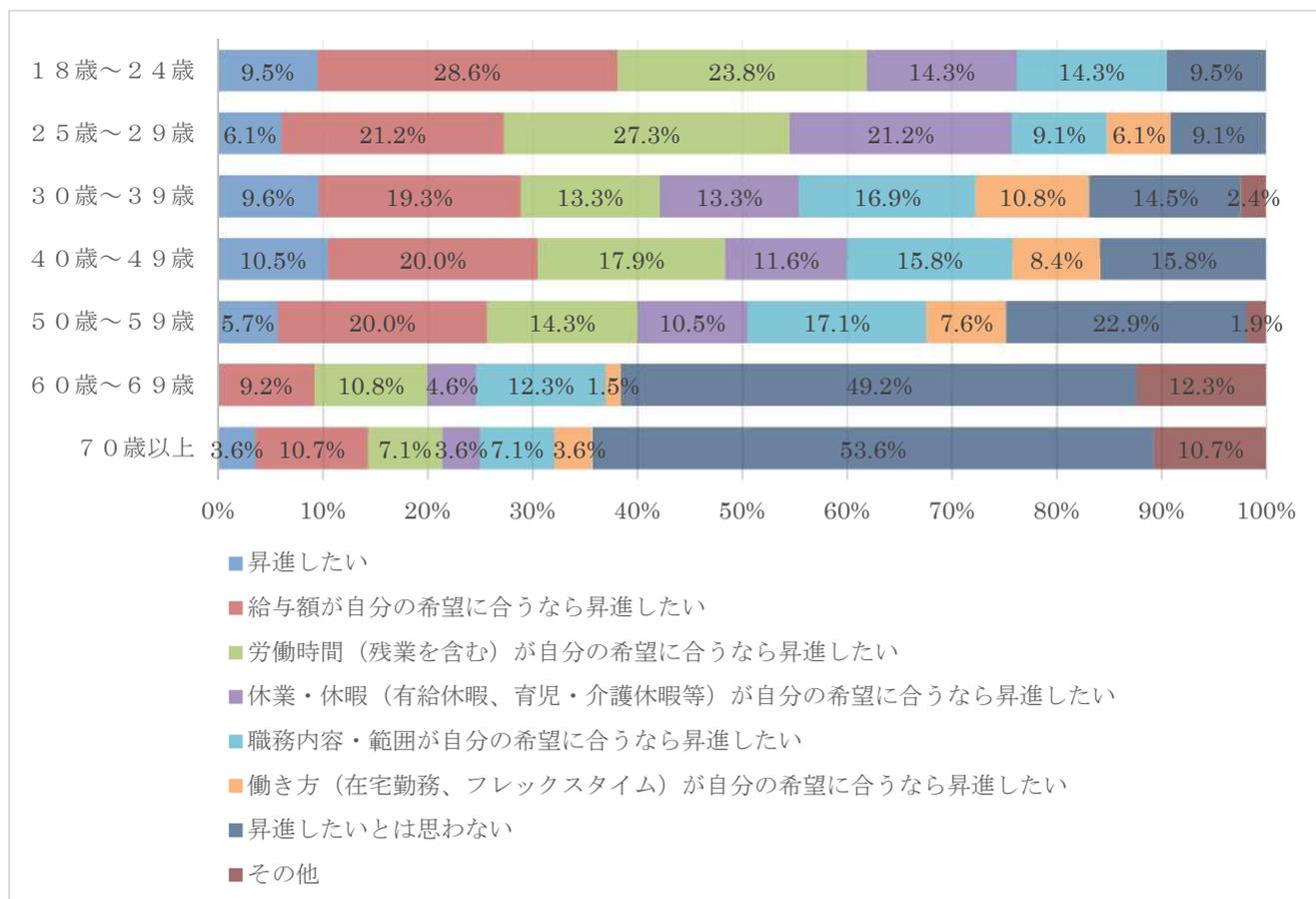
【女性のトップ3】

1. 「昇進したいとは思わない」 58人
2. 「給与額が自分の希望に合うなら昇進したい」 39人
3. 「労働時間（残業を含む）が自分の希望に合うなら昇進したい」 33人

○年代別比較

60歳以上は、定年を迎えているため約5割が「昇進したいとは思わない」と回答している。

条件では、18歳～24歳は、「給与額が自分の希望に合うなら昇進したい」、25歳～29歳は、「労働時間（残業を含む）が自分の希望に合うなら昇進したい」、30代・40代・50代は、「給与額が自分の希望に合うなら昇進したい」を重要としている。



離職した理由について

質問の対象：現在は就職していない(68人)

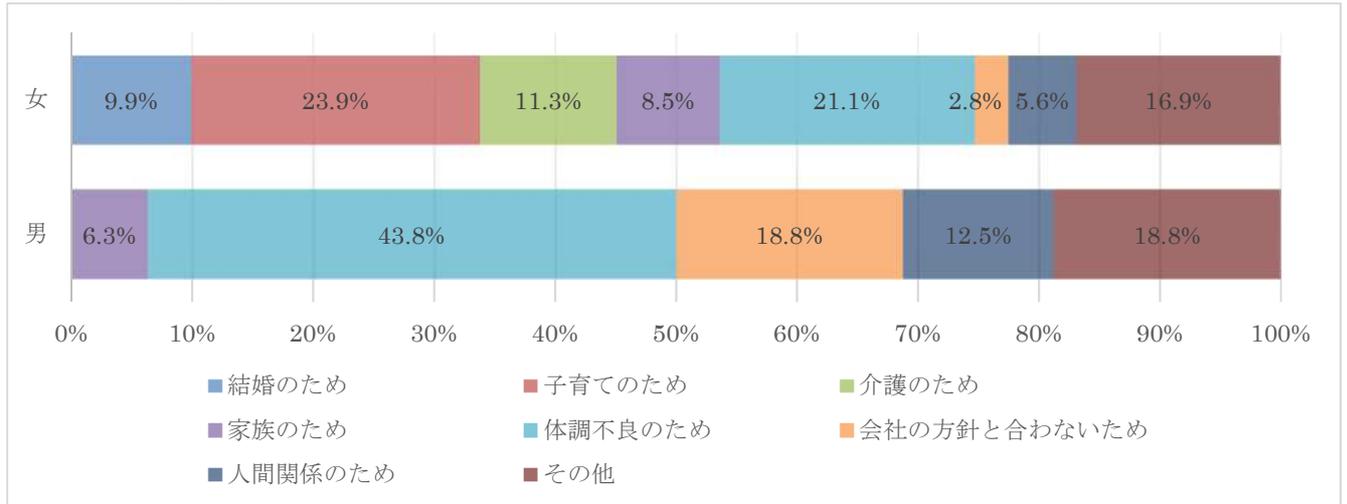
性別では、女性は、「子育てのため」が23.9%と最も高いが、男性は、0%となっている。

男性は、「体調不良のため」が43.8%と最も高く、女性より22.7ポイント上回っている。

また、女性の離職率の特徴として、〈家庭の事情〉(「結婚のため」・「子育てのため」・「介護のため」・「家族のため」の合計)53.6%と高い数値である。

「その他」は、「自営業になったため」や「仕事以外にやりたいことがあったため」が多かった。

女：n=71、男：n=16



アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の意識調査について

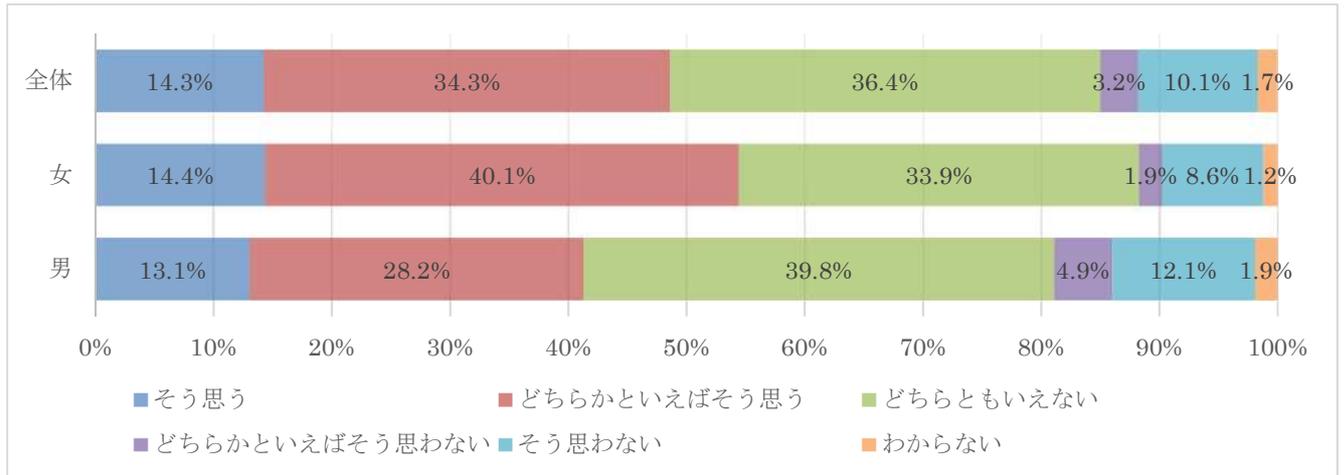
質問の対象: 全員(488人)

【女性の方が感情的になりやすい】

全体では、〈思う〉（「**そう思う**」と「**どちらかといえばそう思う**」の合計）48.6%に対し、〈思わない〉（「**どちらかといえば思わない**」と「**そう思わない**」の合計）13.3%と思うが35.3ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉54.5%、〈思わない〉10.5%で、思うが44.0ポイント高かった。男性は、〈思う〉41.3%、〈思わない〉17.0%で、思うが24.3ポイント高かった。

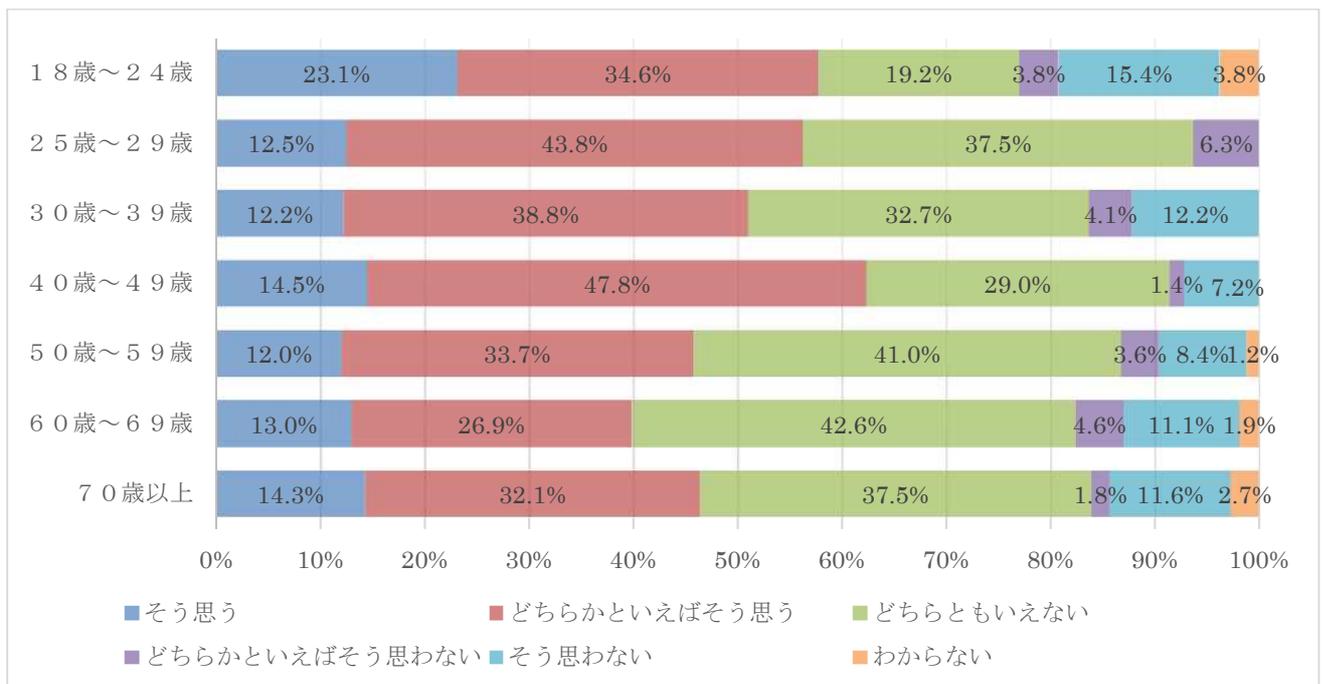
全体：n=475、女：n=257、男：n=206



○年代別比較

どの年代においても〈思う〉が〈思わない〉を大幅に上回っている。

〈思う〉について、最も低い60代と最も高い40代では、22.4ポイントの差があった。



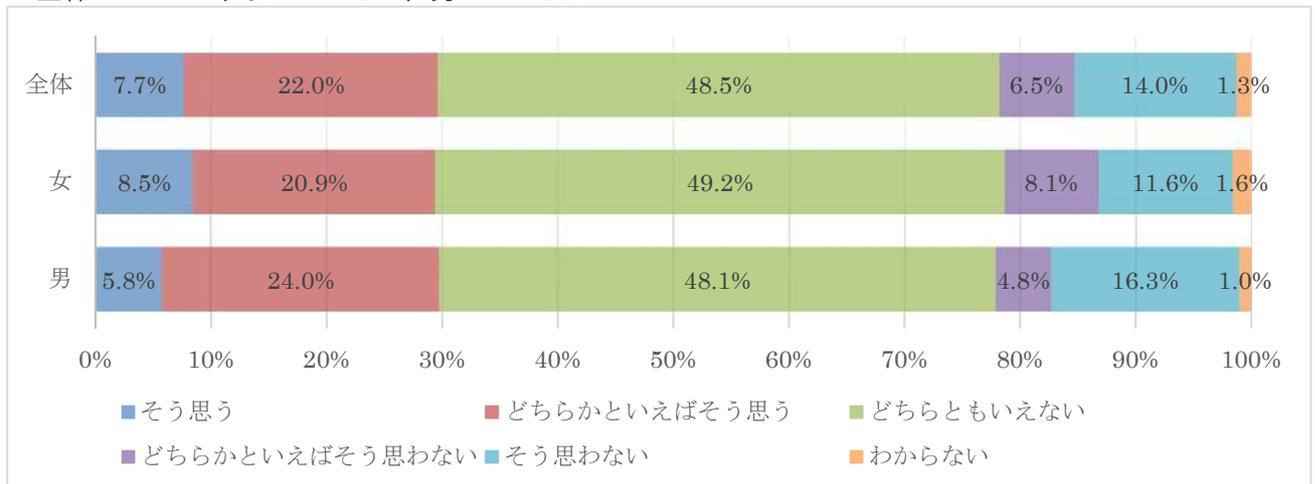
【男性の方がリーダーに向いている】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）29.7%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）20.5%と思うが9.2ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉29.4%、〈思わない〉19.7%で、思うが9.7ポイント高かった。

男性は、〈思う〉29.8%、〈思わない〉21.1%で、思うが8.7ポイント高かった。

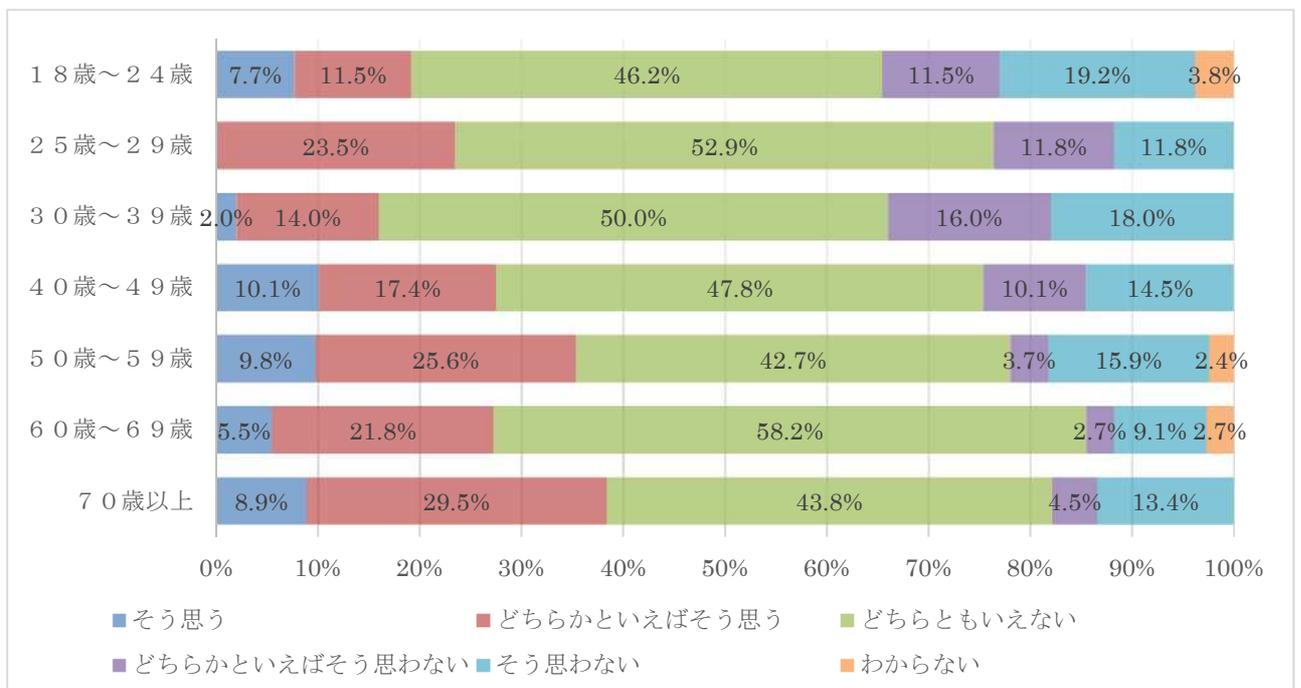
全体：n=478、女：n=258、男：n=208



○年代別比較

18歳～39歳は、〈思わない〉が〈思う〉を上回っているが、40歳～70歳は、〈思う〉が〈思わない〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い30代と最も高い70歳以上では、22.4ポイントの差があった。

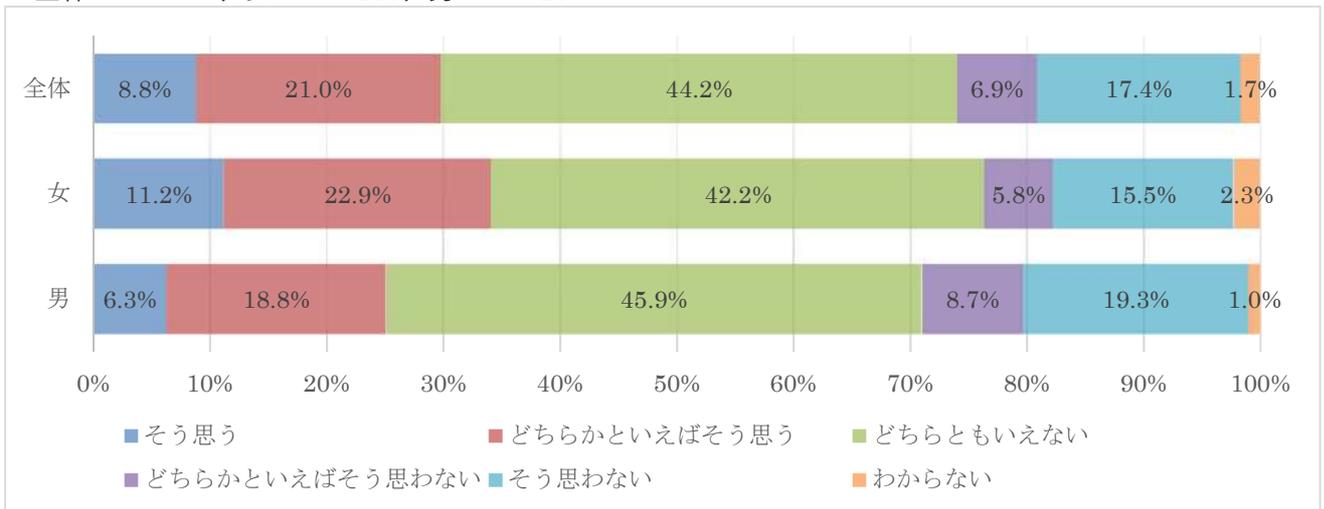


【大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）29.8%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）24.3%と思うが5.5ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉34.1%、〈思わない〉21.3%で、思うが12.8ポイント高かった。男性は、〈思う〉25.1%、〈思わない〉28.0%で、思わないが2.9ポイント高かった。

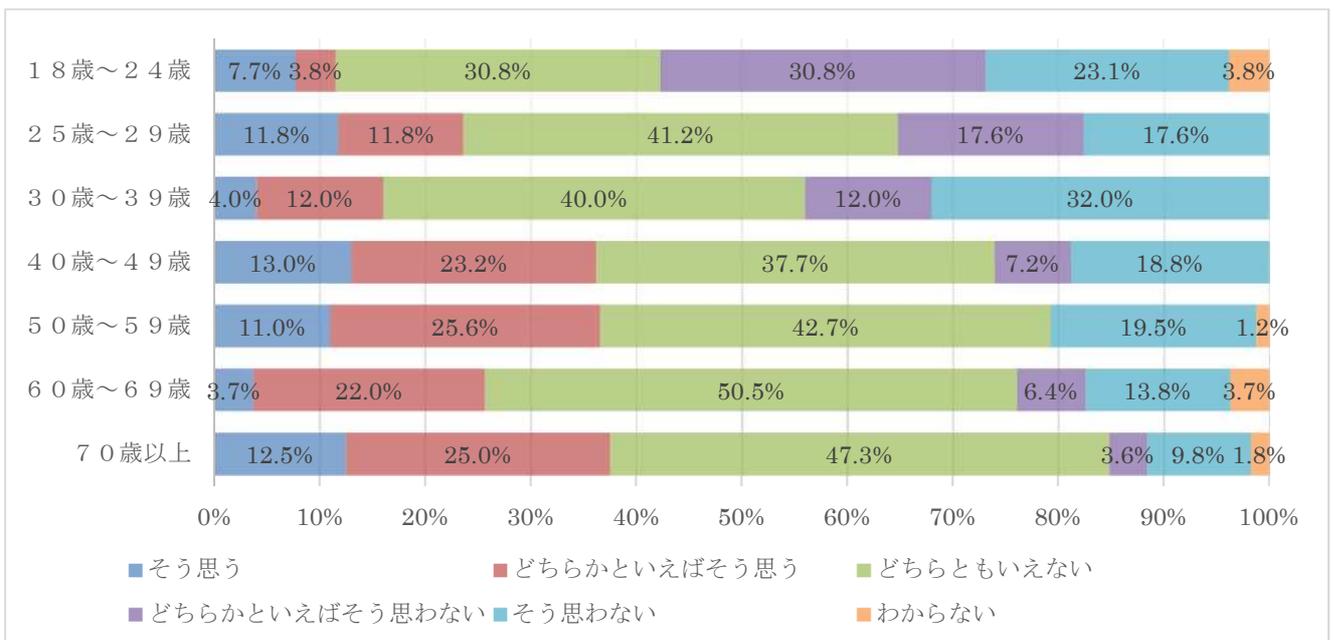
全体：n=477、女：n=258、男：n=207



○年代別比較

18歳～39歳は、〈思わない〉が〈思う〉を上回っているが、40歳～70歳は、〈思う〉が〈思わない〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い18歳～24歳と最も高い70歳以上では、26.0ポイントの差があった。

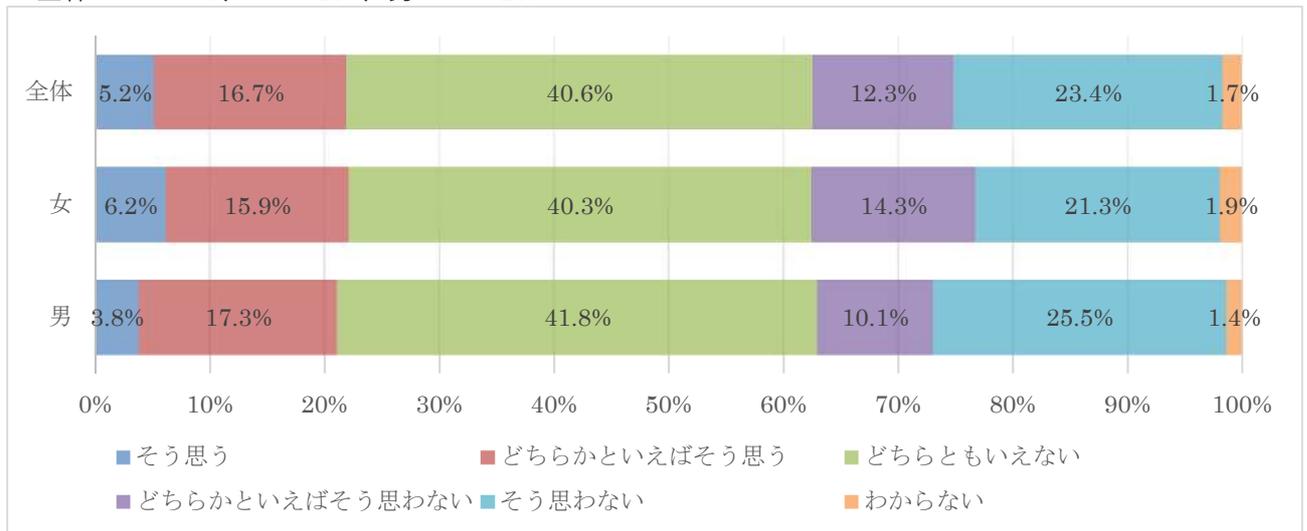


【事務作業などの簡単な仕事は女性がする方がいい】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）21.9%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）35.7%と思わないが13.8ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉22.1%、〈思わない〉35.6%で、思わないが13.5ポイント高かった。男性は、〈思う〉21.1%、〈思わない〉35.6%で、思わないが14.5ポイント高かった。

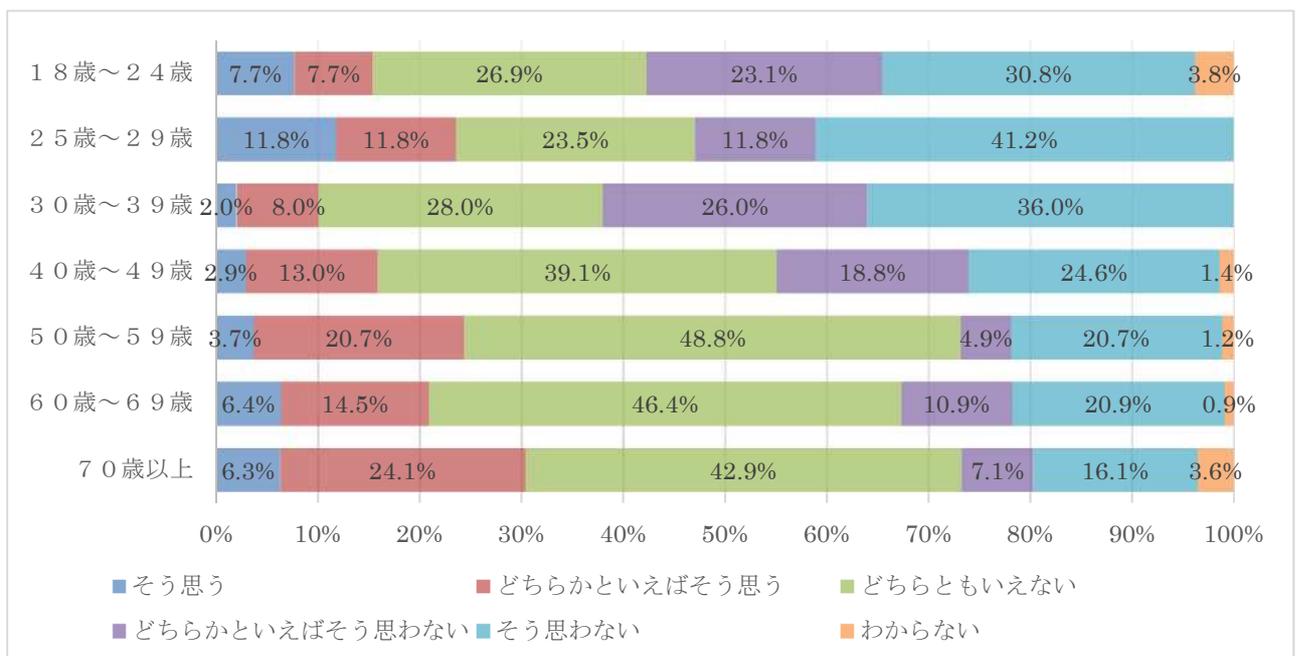
全体：n=478、女：n=258、男：n=208



○年代別比較

18歳～69歳は、〈思わない〉が〈思う〉を上回っているが、70歳以上は、〈思う〉が〈思わない〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い30代と最も高い70歳以上では、20.4ポイントの差があった。

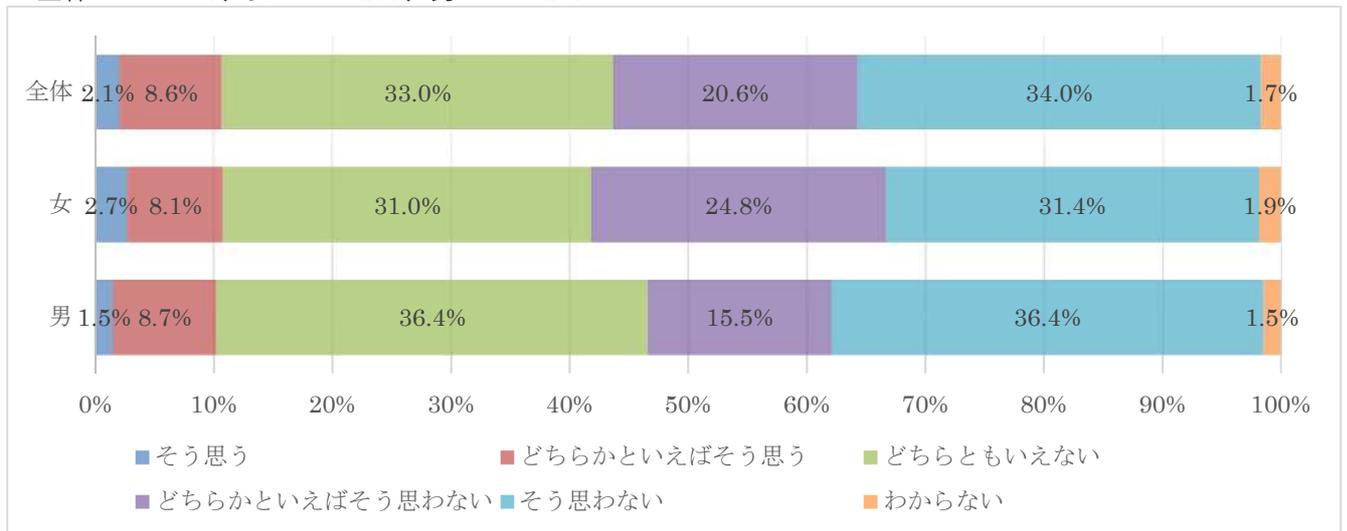


【職場では、女性は男性のサポートにまわる方がいい】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）10.7%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）54.6%と思わないが43.9ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉10.8%、〈思わない〉56.2%で、思わないが45.4ポイント高かった。男性は、〈思う〉10.2%、〈思わない〉51.9%で、思わないが41.7ポイント高かった。

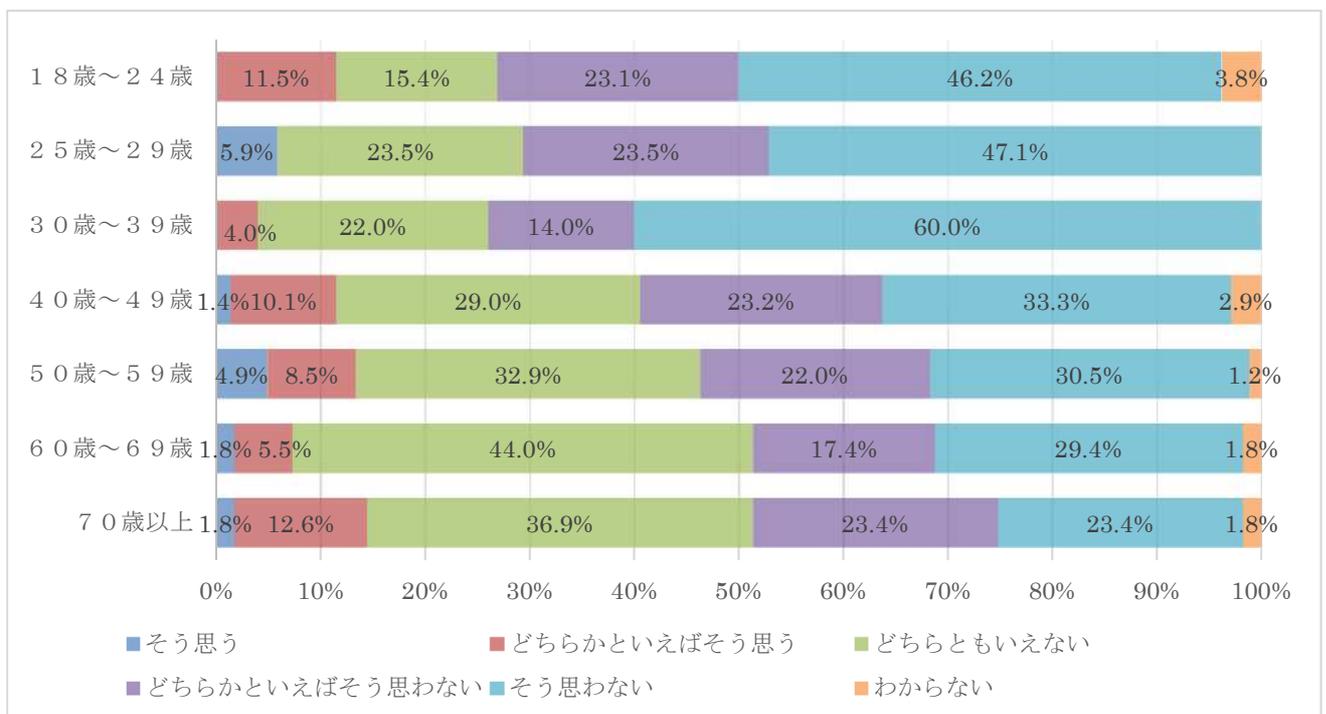
全体：n=476、女：n=258、男：n=206



○年代別比較

どの年代においても、〈思わない〉が〈思う〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い30代と最も高い70歳以上では、10.4ポイントの差があった。

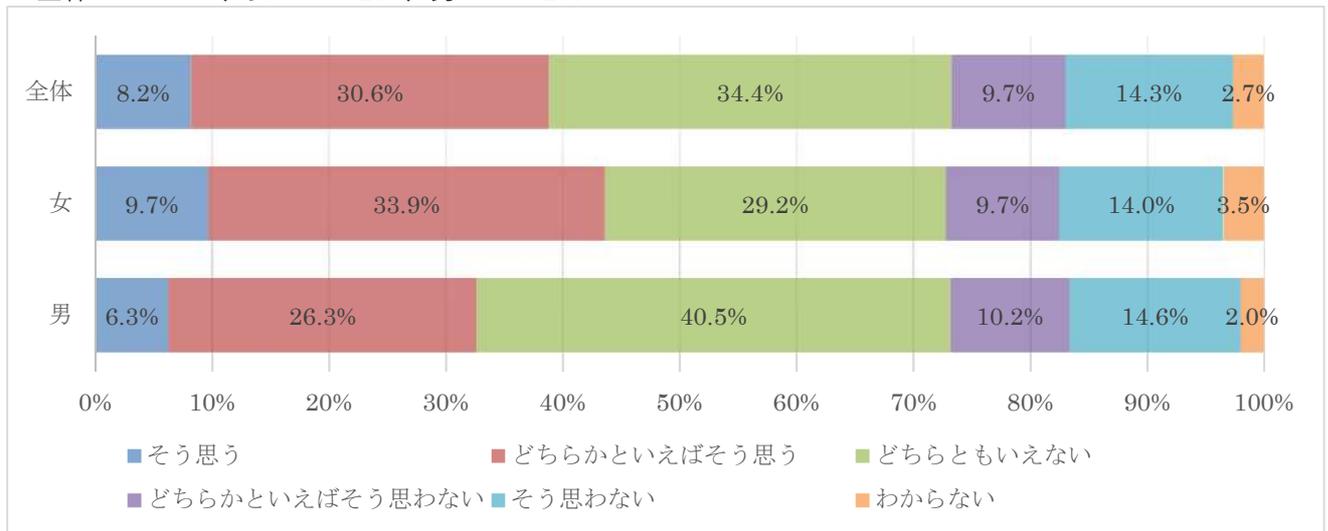


【育児や介護の期間中の女性は、重要な仕事は担当しない方がいい】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）38.8%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）24.0%と思うが14.8ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉43.6%、〈思わない〉23.7%で、思うが19.9ポイント高かった。男性は、〈思う〉32.6%、〈思わない〉24.8%で、思うが7.8ポイント高かった。

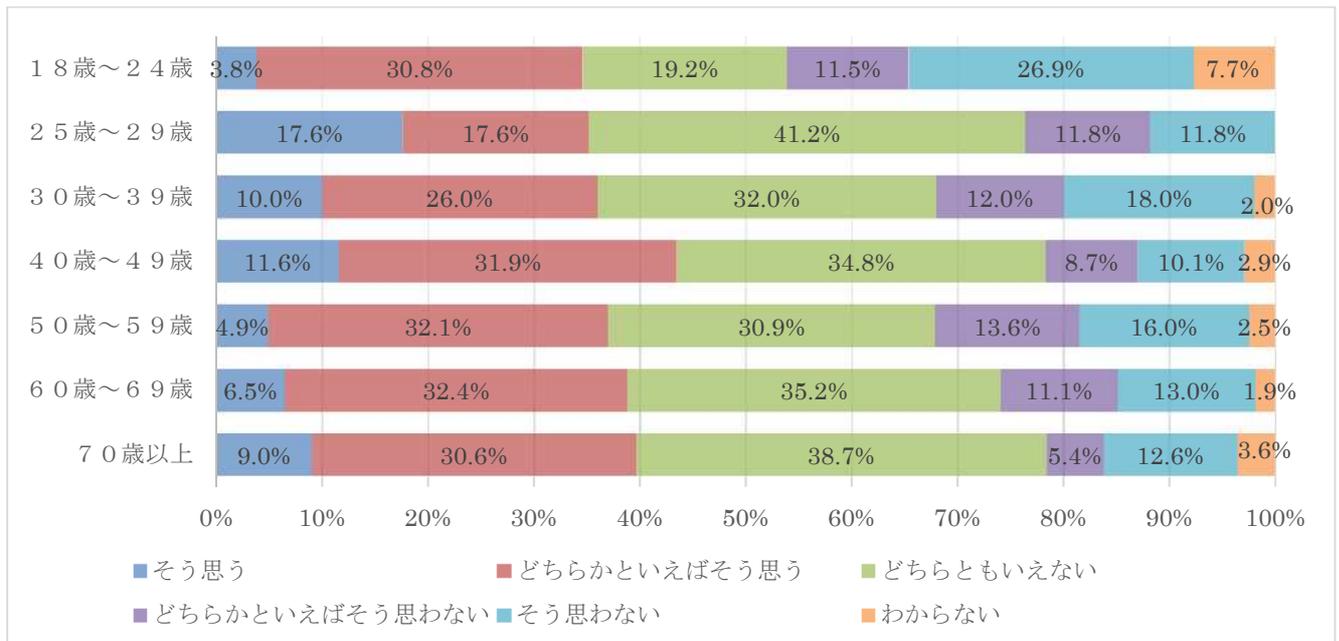
全体：n=474、女：n=257、男：n=205



○年代別比較

18歳～24歳は、〈思わない〉が〈思う〉を上回っているが、25歳～70歳以上は、〈思う〉が〈思わない〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い18歳～24歳と最も高い40代以上では、8.9ポイントの差があった。

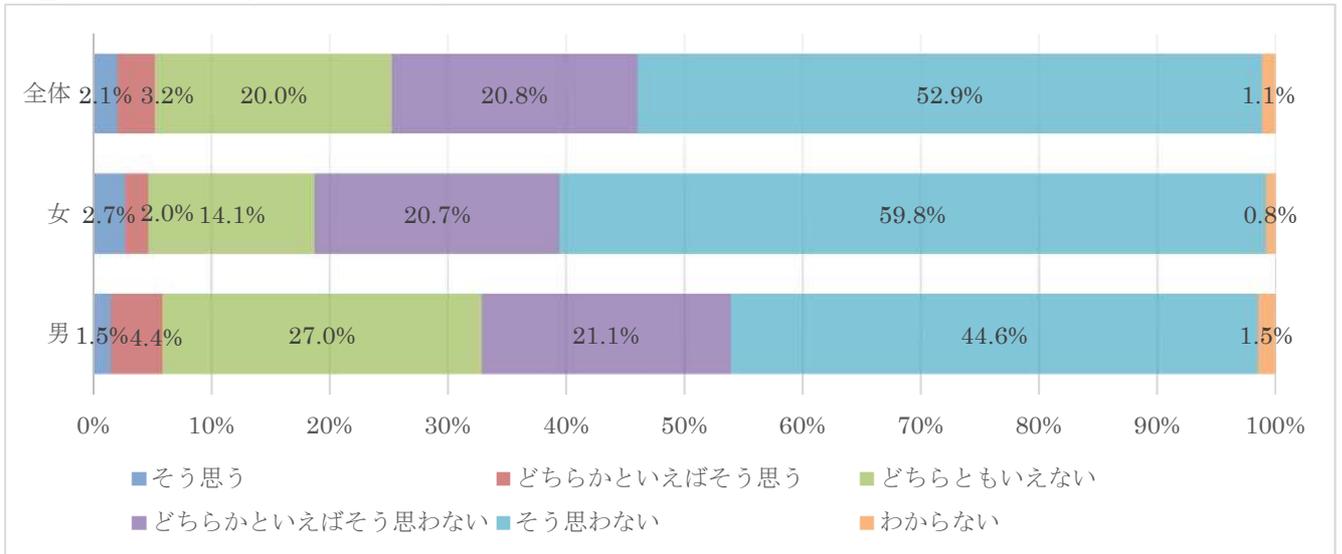


【男性は、育児休業を取るべきでない】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）5.3%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の合計）73.7%と思わないが68.4ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉4.7%、〈思わない〉80.5%で、思わないが75.8ポイント高かった。男性は、〈思う〉5.9%、〈思わない〉65.7%で、思わないが59.8ポイント高かった。

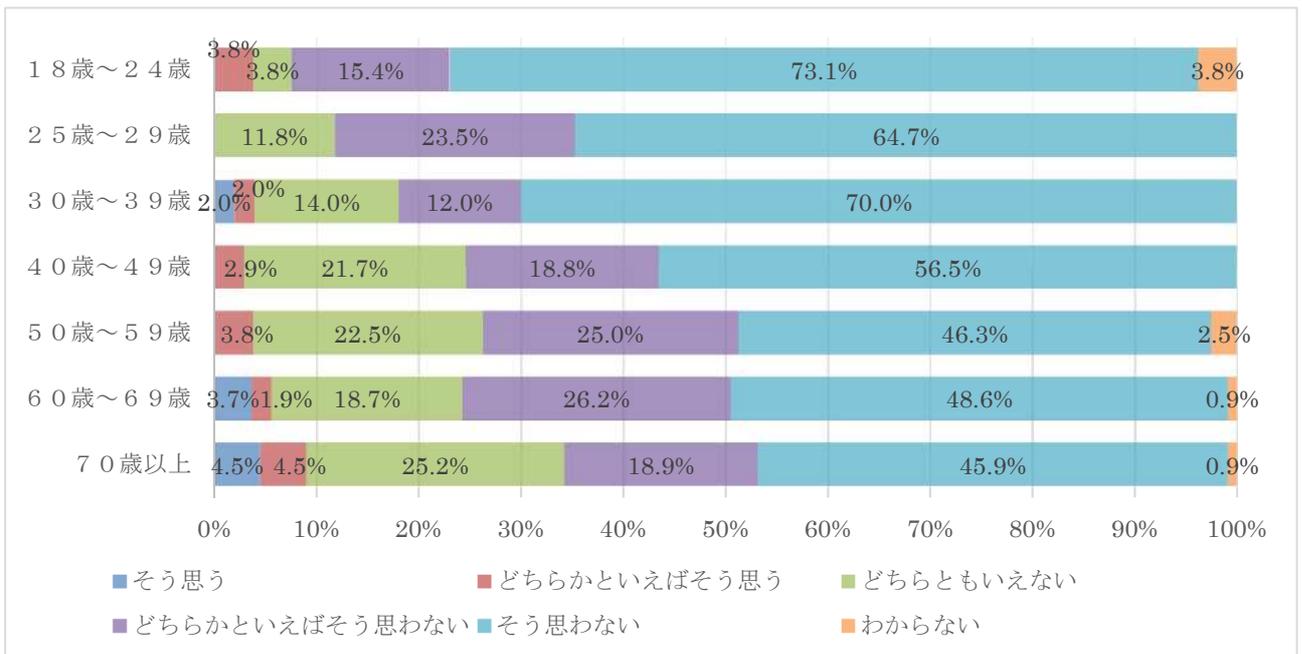
全体：n=471、女：n=256、男：n=204



○年代別比較

どの年代においても、〈思わない〉が〈思う〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い25歳～29歳と最も高い70歳以上では、9.0ポイントの差があった。

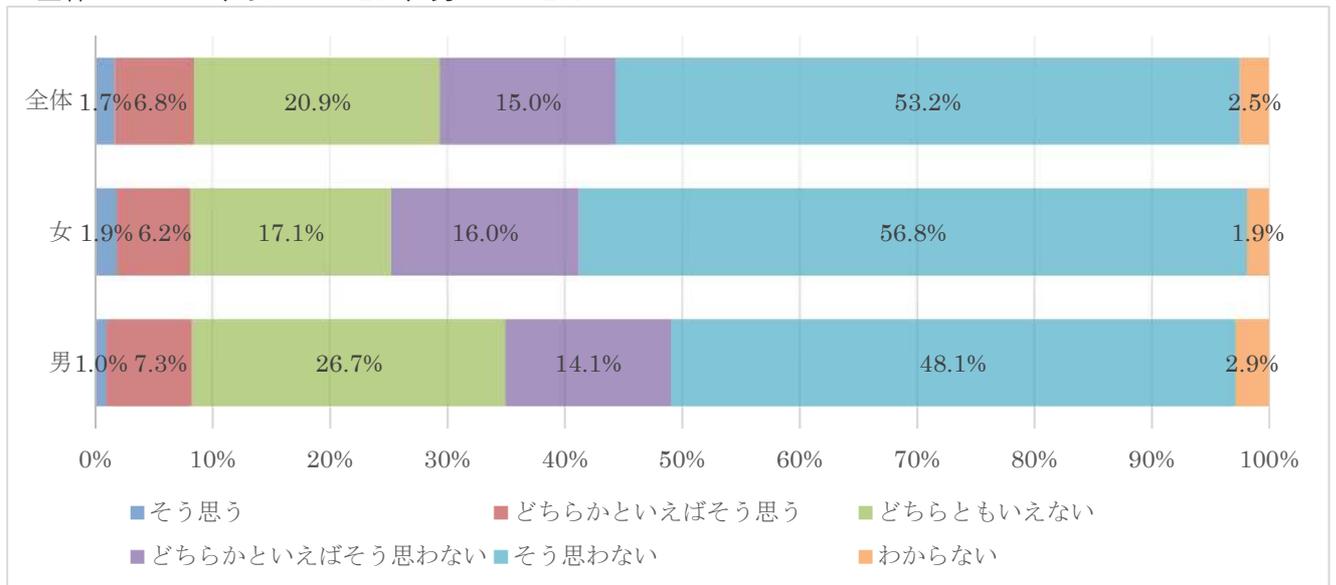


【仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い】

全体では、〈思う〉（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）8.5%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）68.2%と思わないが59.7ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉8.1%、〈思わない〉72.8%で、思わないが64.7ポイント高かった。男性は、〈思う〉8.3%、〈思わない〉62.2%で、思わないが53.9ポイント高かった。

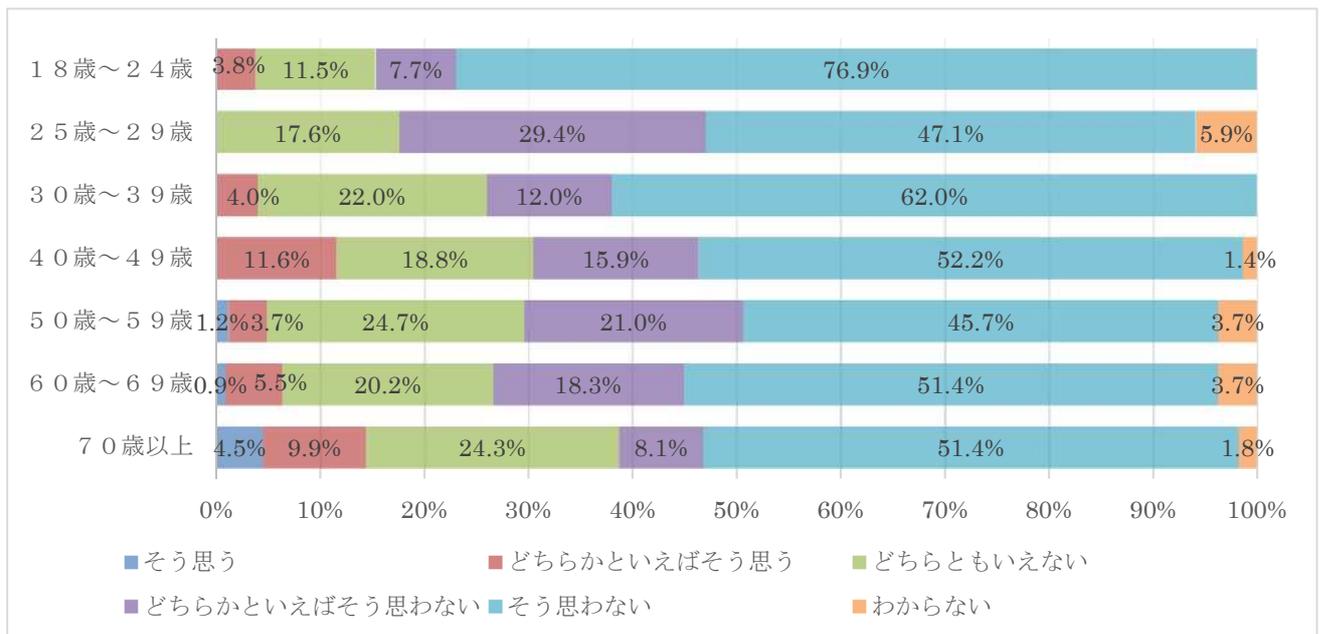
全体：n=474、女：n=257、男：n=206



○年代別比較

どの年代においても、〈思わない〉が〈思う〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い25歳～29歳と最も高い70歳以上では、14.4ポイントの差があった。

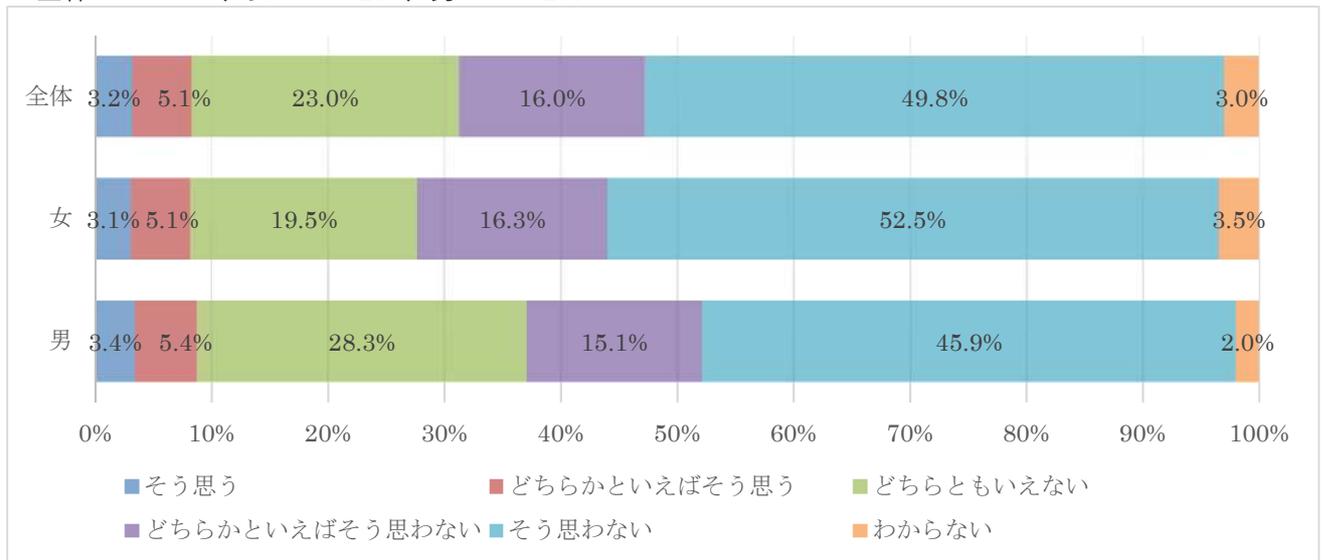


【女性の上司には抵抗がある】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）8.3%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の合計）65.8%と思わないが57.5ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉8.2%、〈思わない〉68.8%で、思わないが60.6ポイント高かった。男性は、〈思う〉8.8%、〈思わない〉61.0%で、思わないが52.2ポイント高かった。

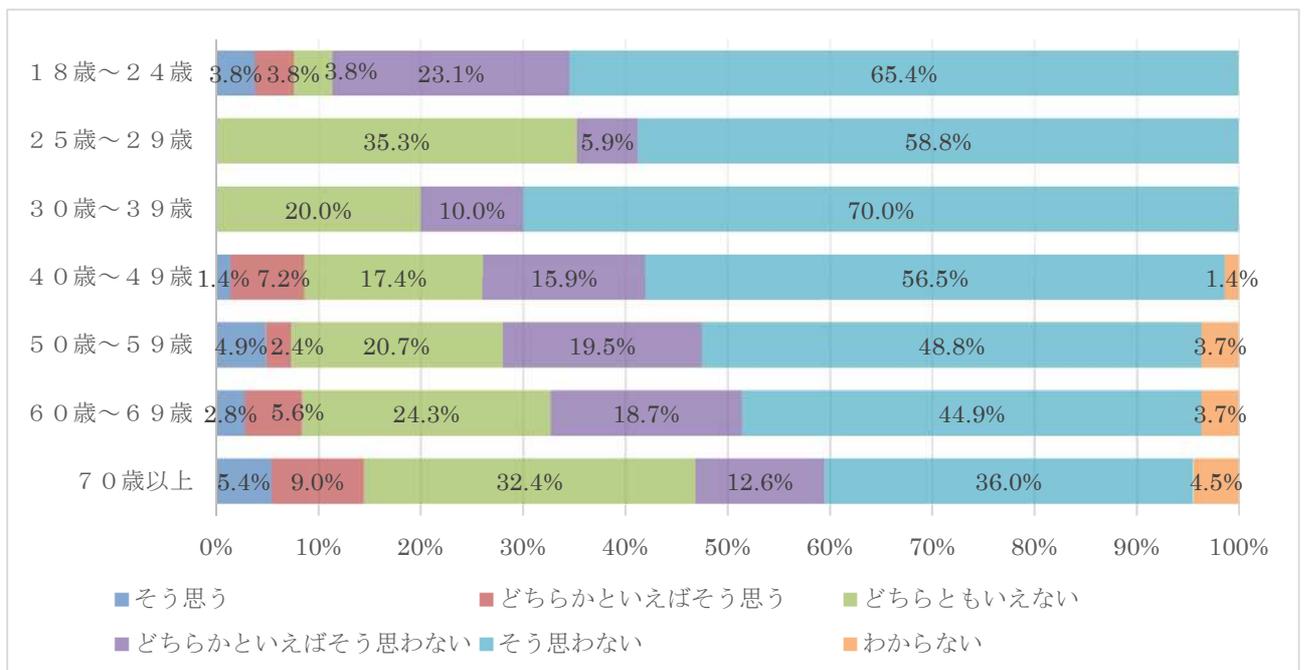
全体：n=474、女：n=257、男：n=205



○年代別比較

どの年代においても、〈思わない〉が〈思う〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い25歳～29歳と最も高い70歳以上では、14.4ポイントの差があった。

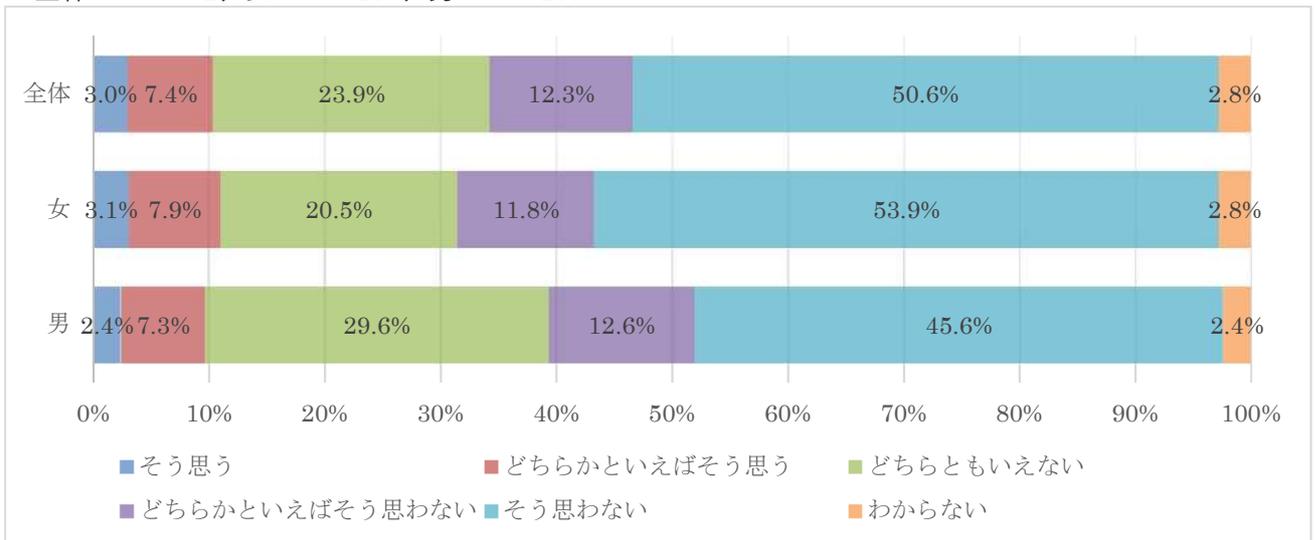


【同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用したりするものだ】

全体では、〈思う〉（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）10.4%に対し、〈思わない〉（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計）62.9%と思わないが52.5ポイント上回った。

性別では、女性は、〈思う〉11.0%、〈思わない〉65.7%で、思わないが54.7ポイント高かった。男性は、〈思う〉9.7%、〈思わない〉58.2%で、思わないが48.5ポイント高かった。

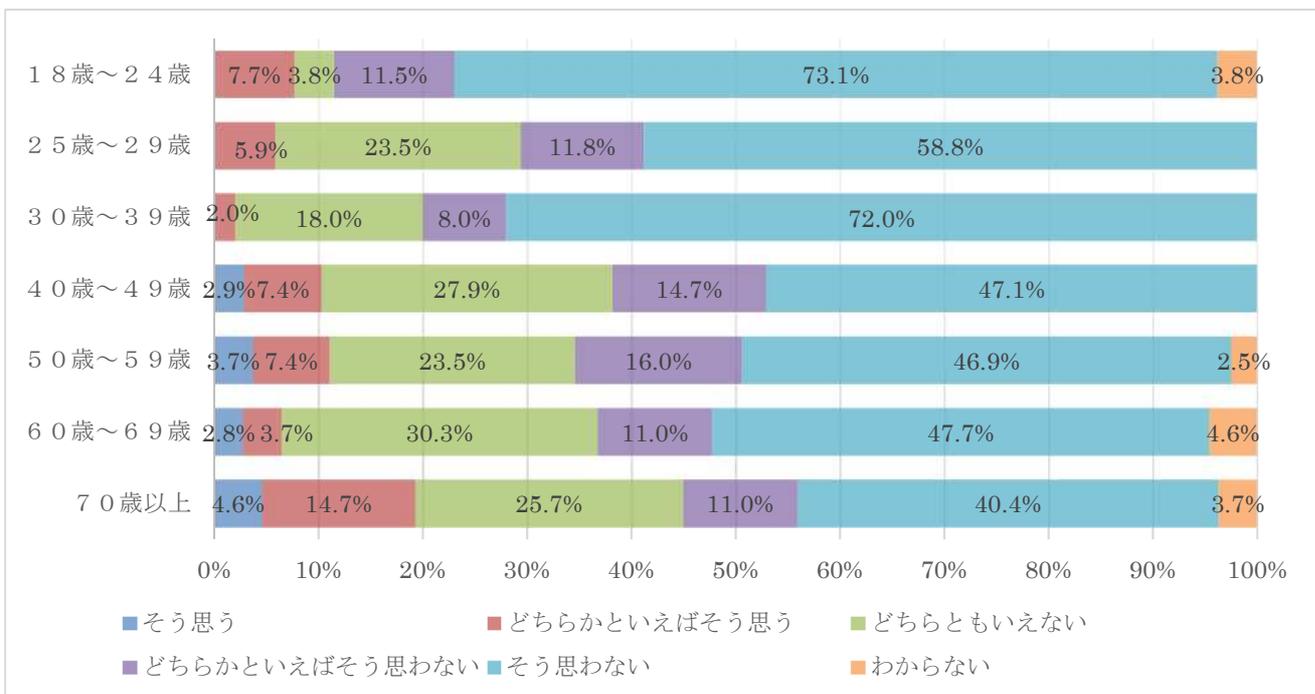
全体：n=472、女：n=254、男：n=206



○年代別比較

どの年代においても、〈思わない〉が〈思う〉を上回っている。

〈思う〉について、最も低い30代と最も高い70歳以上では、17.3ポイントの差があった。



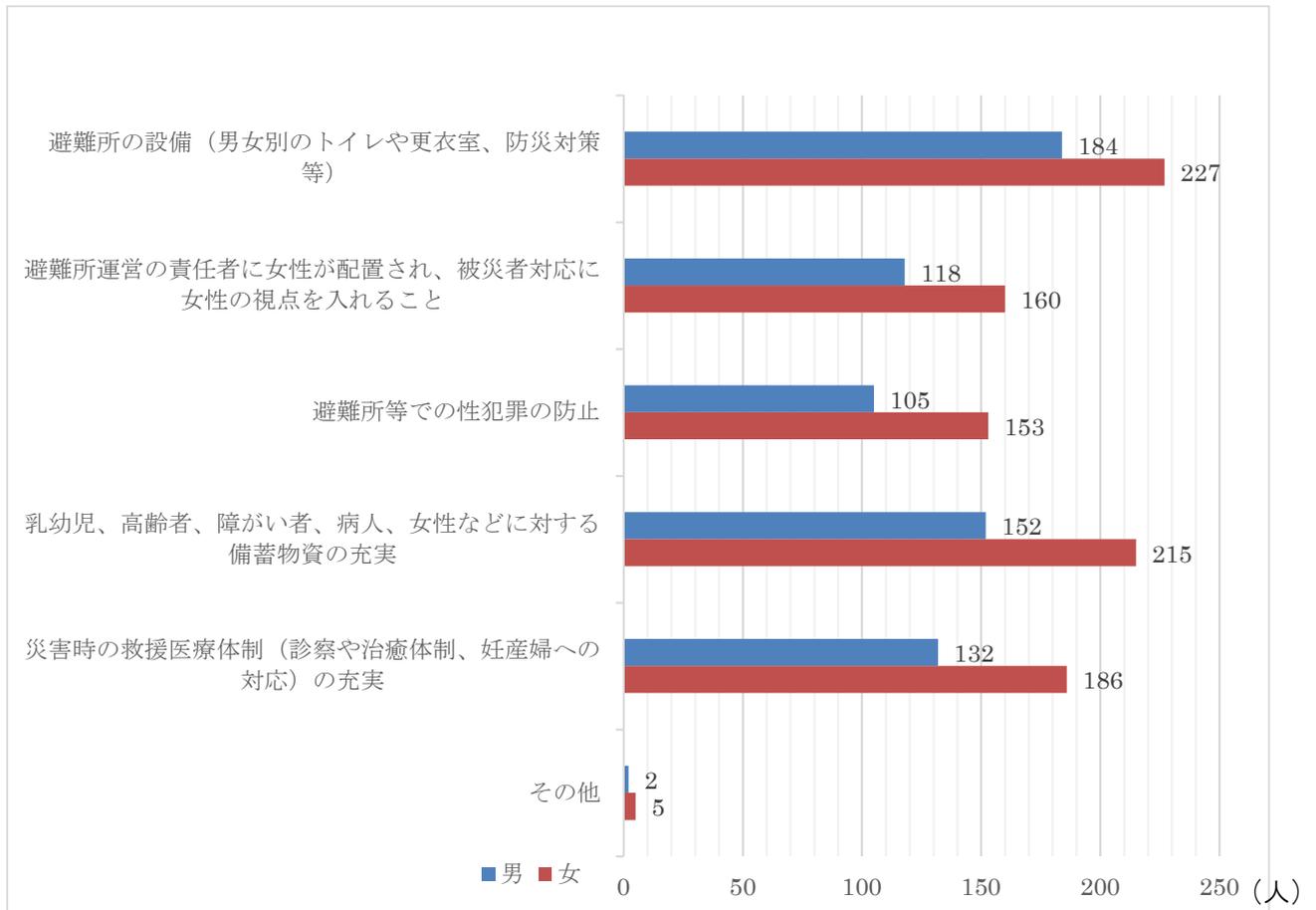
7. 社会全般における男女共同参画意識

災害時に男女共同参画の視点を取り入れた避難所を開設するために必要なことについて

質問の対象: 全員(488人)

「避難所等での性犯罪の防止」・「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性などに対する備蓄物資の充実」・「災害時の救援医療体制（診察や治療体制、妊産婦への対応）の充実」については、男女間において約1.4倍の差があった。

「その他」については、「生物学的な男女の違いに対応すること」、「避難者もボランティアをする」があった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「避難所の設備（男女別のトイレや更衣室、防災対策等）」 184人
2. 「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性などに対する備蓄物資の充実」 152人
3. 「災害時の救援医療体制（診察や治療体制、妊産婦への対応）の充実」 132人

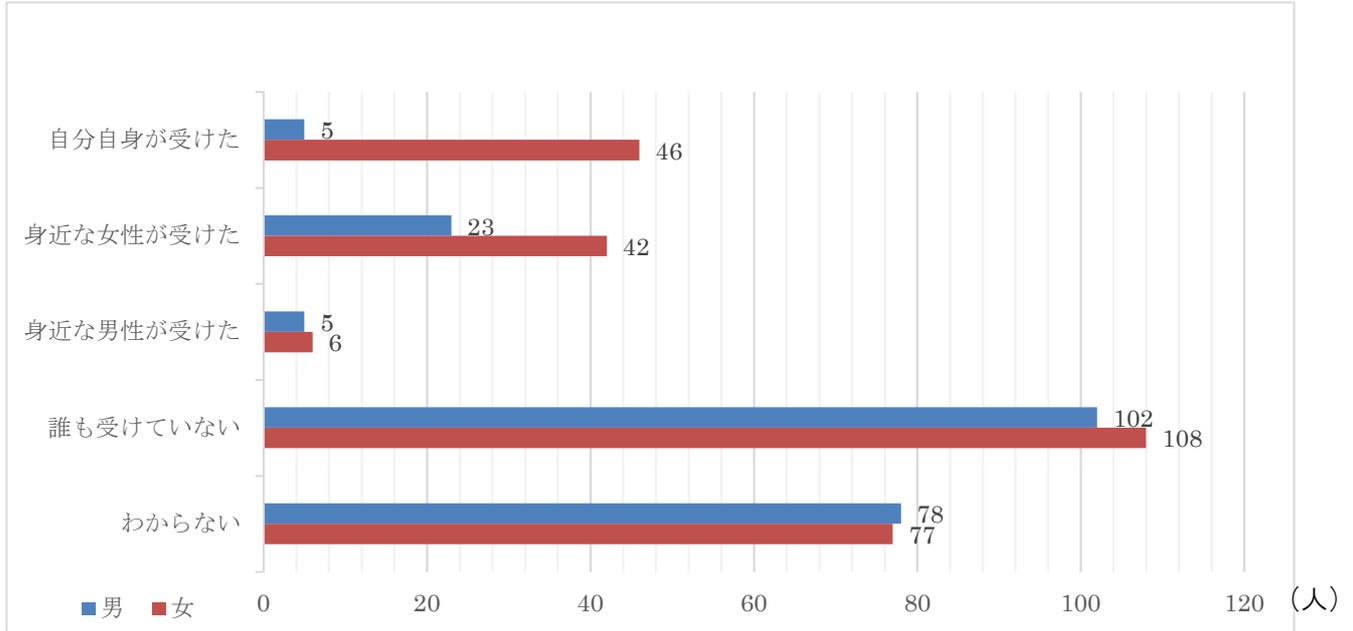
【女性のトップ3】

1. 「避難所の設備（男女別のトイレや更衣室、防災対策等）」 227人
2. 「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性などに対する備蓄物資の充実」 215人
3. 「災害時の救援医療体制（診察や治療体制、妊産婦への対応）の充実」 186人

自身、または身近な人が職場で性的いやがらせを受けたことがあるかについて

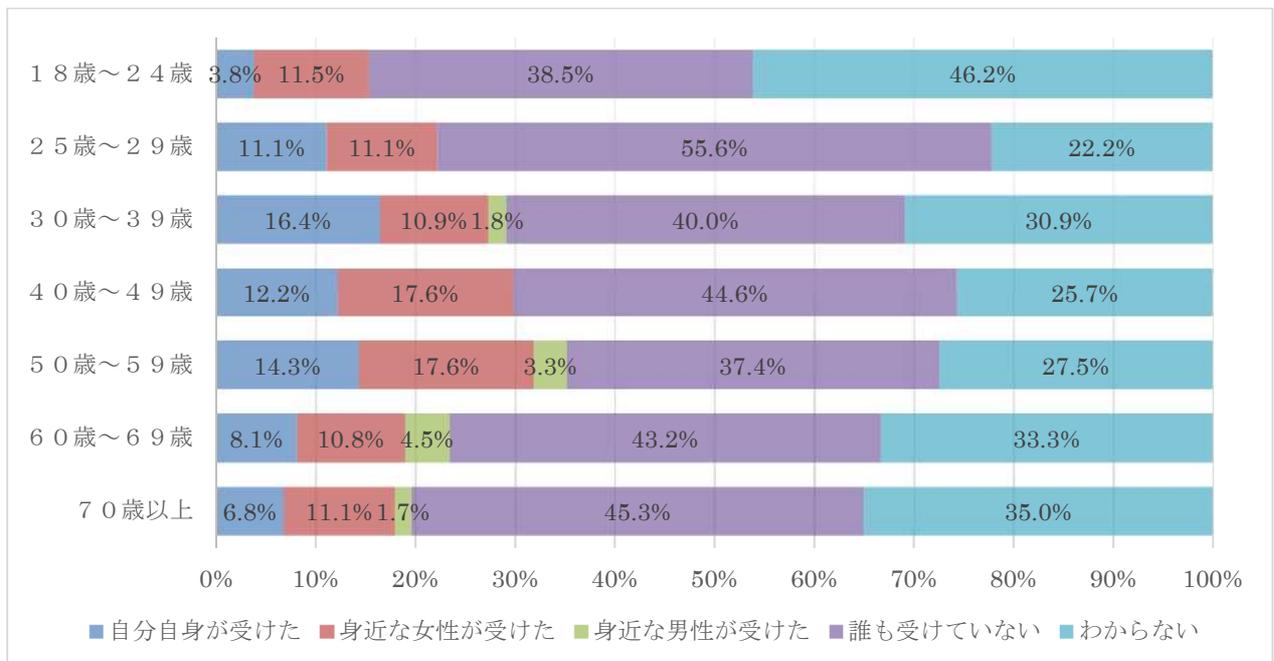
質問の対象: 全員(488人)

「自分自身が受けた」については、男女間において9.2倍と大きな差があった。
性的いやがらせについて、男性も受けた人がいるものの圧倒的に女性が多い。



○年代別比較

〈受けた〉(「自分自身が受けた」・「身近な女性が受けた」・「身近な男性が受けた」の合計)について、最も低い18歳～24歳と最も高い50代では、19.9ポイントの差があった。

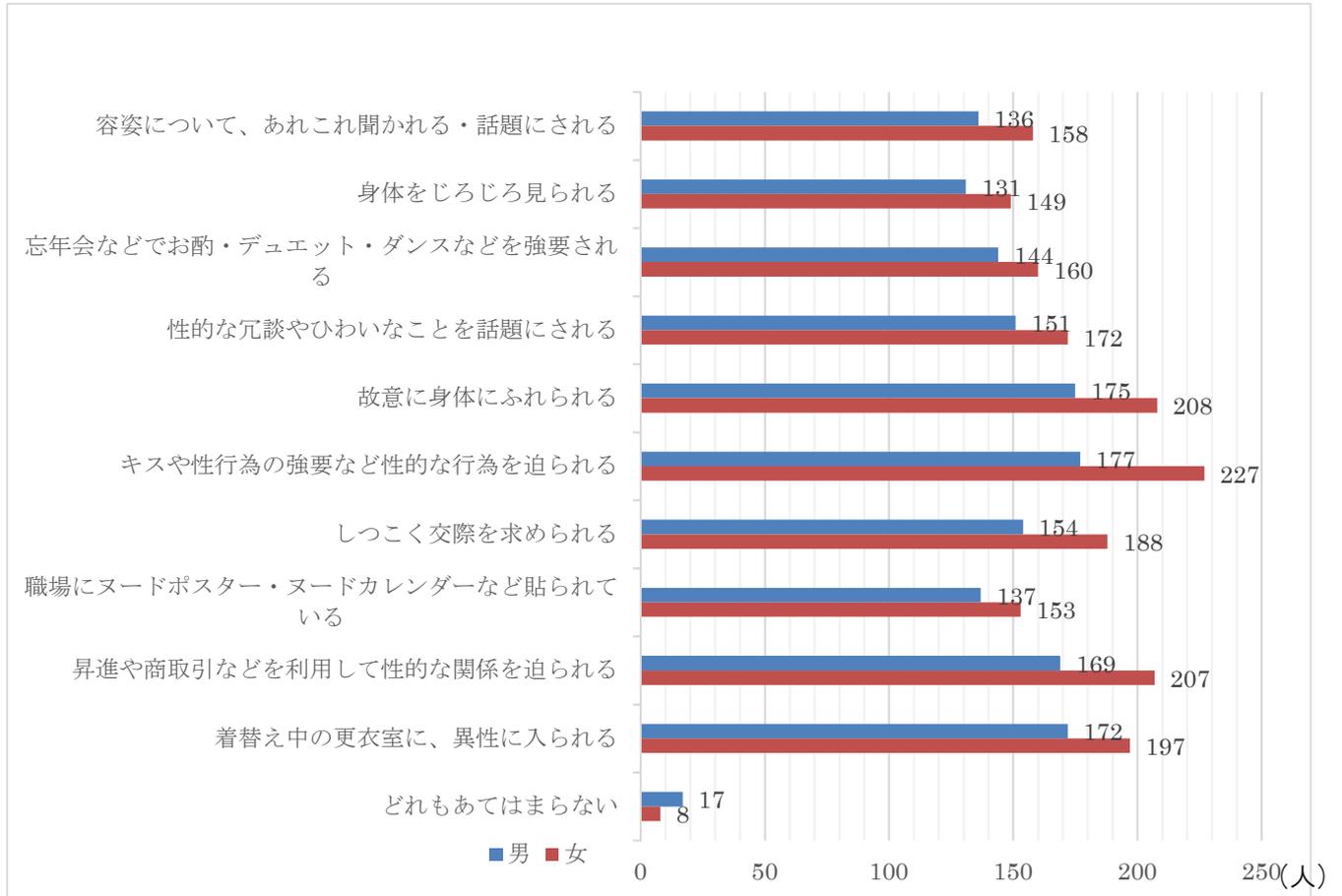


セクシャル・ハラスメント（セクハラ）に当たる行為の認識について

質問の対象: 全員(488人)

「どれもあてはまらない」については、男女間において約2倍の差があった。

また、「キスや性行為の強要など性的な行為を迫られる」・「しつこく交際を求められる」・「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」については、男女間において約1.2倍の差があった。

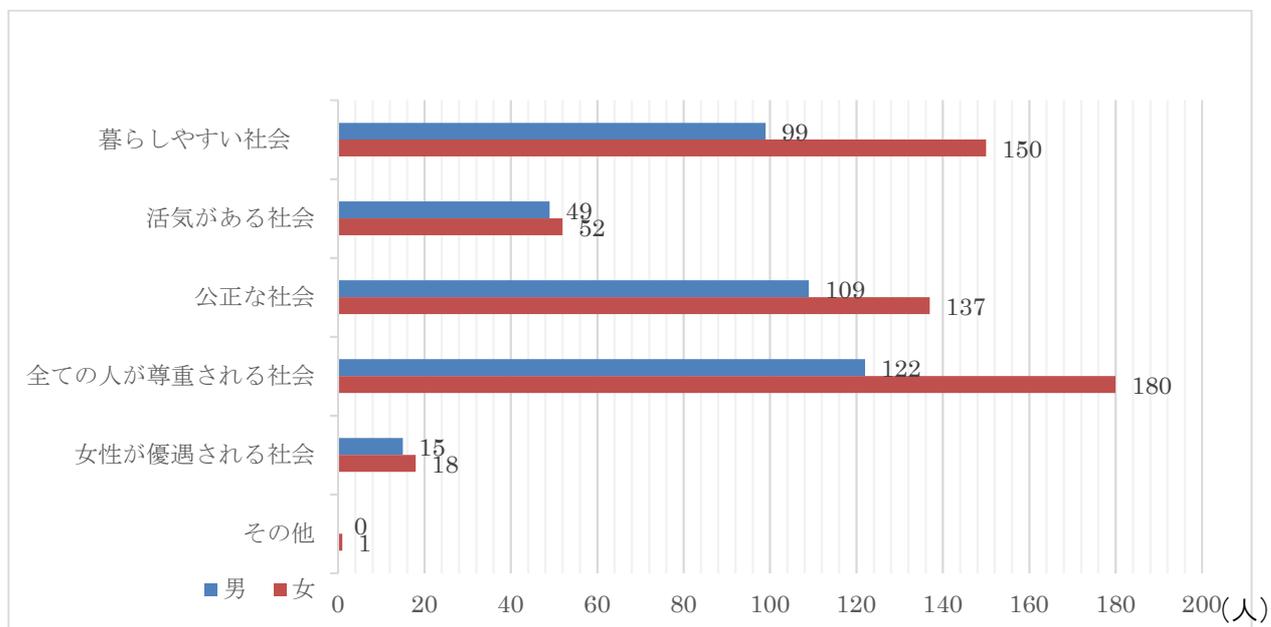


男女共同参画社会の理想とするイメージについて

質問の対象：全員（488人）

全体では、「全ての人々が尊重される社会」が最も多く302人となった。

「暮らしやすい社会」・「全ての人々が尊重される社会」については、男女間において約1.5倍の差があった。

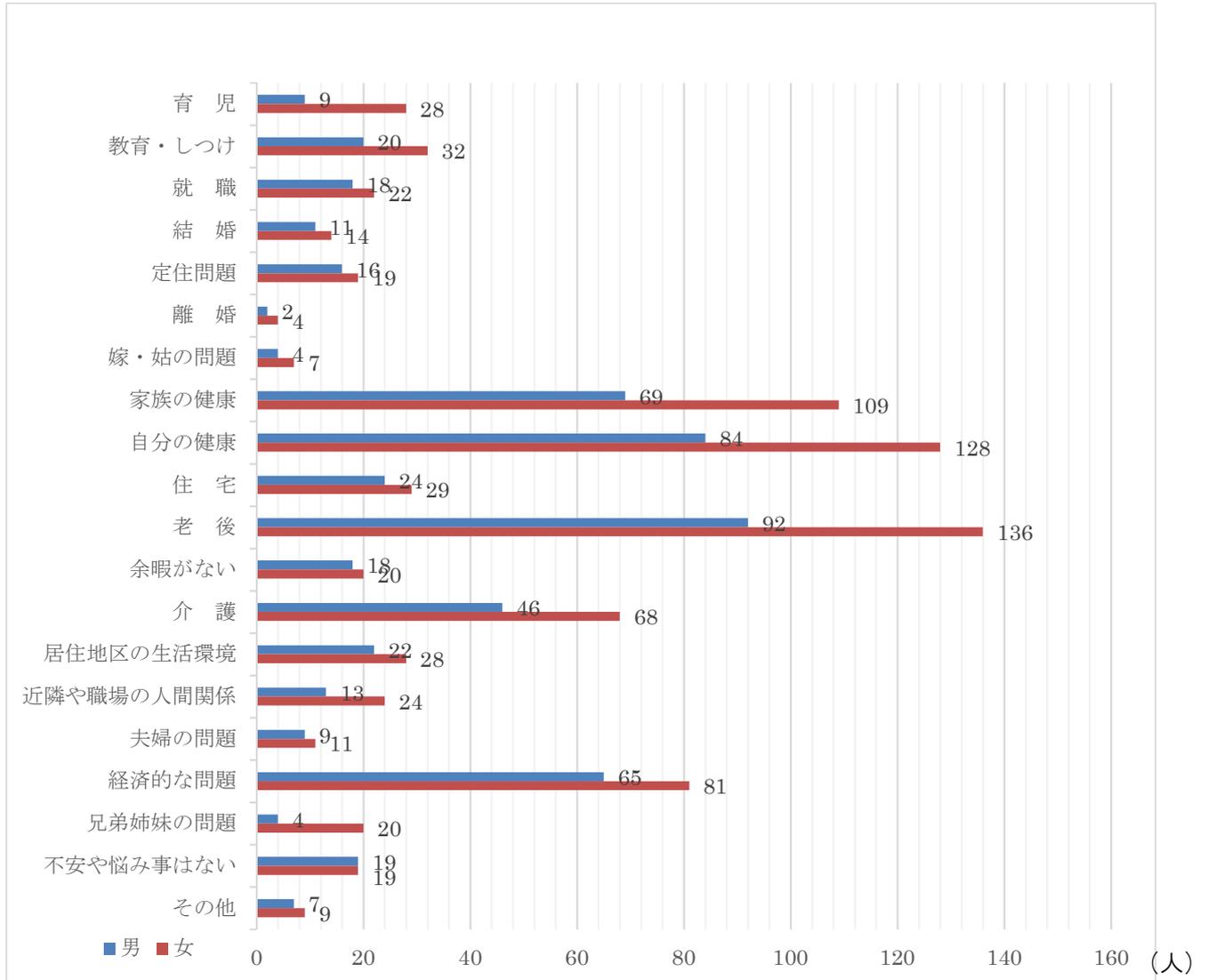


今の生活に不安や悩み事について

質問の対象：全員（488人）

全体では、「老後」（228人）、「自分の健康」（212人）、「家族の健康」（178人）の順であった。

「兄弟姉妹の問題」については、男女間において5倍の差があり、「育児」については、男女間において約3倍の差があった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「老後」 92人
2. 「自分の健康」 84人
3. 「家族の健康」 69人

【女性のトップ3】

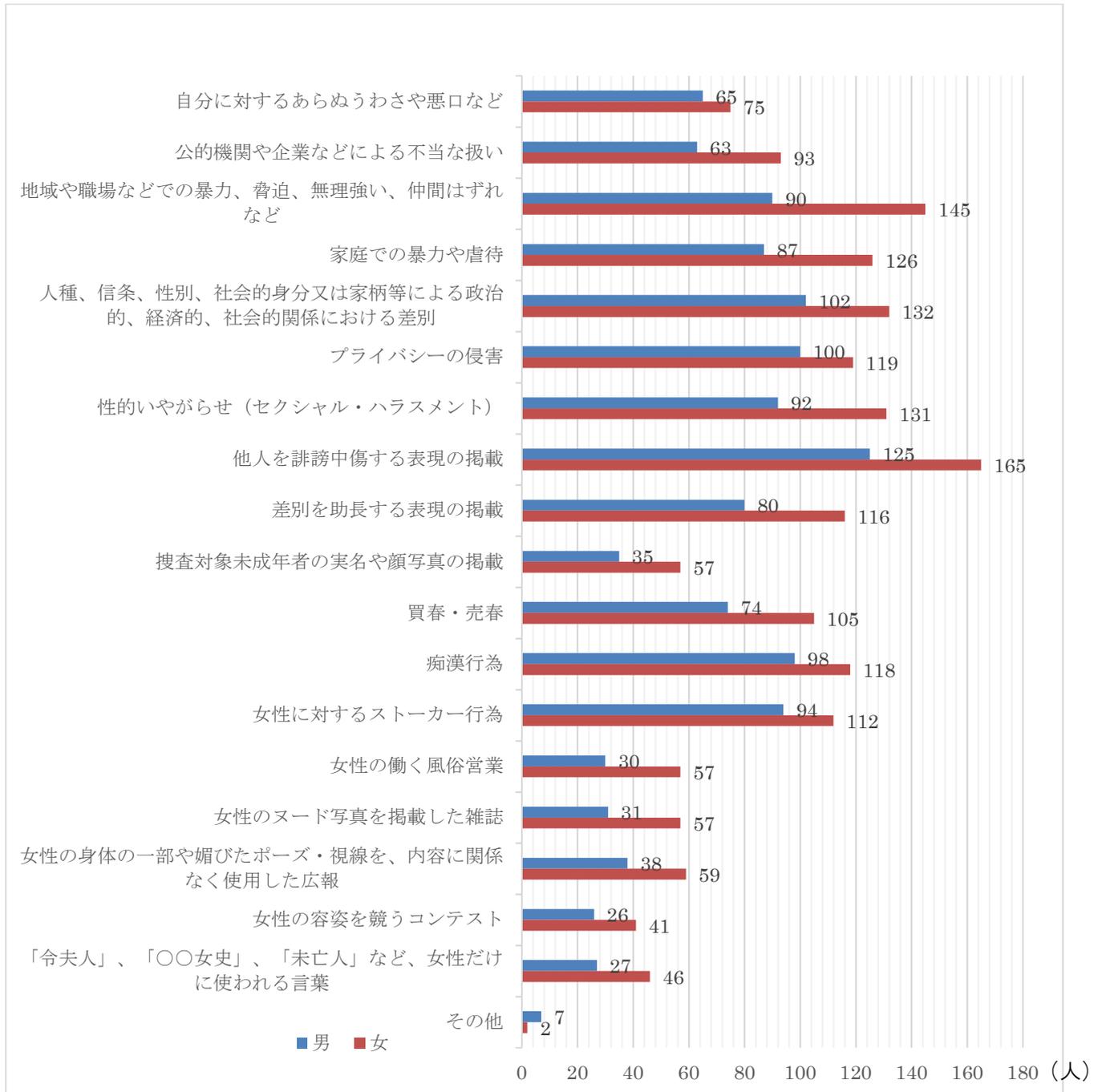
1. 「老後」 136人
2. 「自分の健康」 128人
3. 「家族の健康」 109人

今の社会で人権が尊重されていないと感じることについて

質問の対象：全員（488人）

全体では、「他人を誹謗中傷する表現の掲載」（290人）、「地域や職場などでの暴力、脅迫、無理強い、仲間はずれなど」（235人）、「人種、信条、性別、社会的身分又は家柄等による政治的、経済的、社会的関係における差別」（234人）の順であった。

また、「女性の働く風俗営業」と「女性ヌード写真を掲載した雑誌」については、男女間において約2倍の差があった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「他人を誹謗中傷する表現の掲載」 125 人
2. 「人種、信条、性別、社会的身分又は家柄等による政治的、経済的、社会的関係における差別」 102 人
3. 「プライバシーの侵害」 100 人

【女性のトップ3】

1. 「他人を誹謗中傷する表現の掲載」 165 人
2. 「地域や職場などでの暴力、脅迫、無理強い、仲間はずれなど」 145 人
3. 「人種、信条、性別、社会的身分又は家柄等による政治的、経済的、社会的関係における差別」 132 人

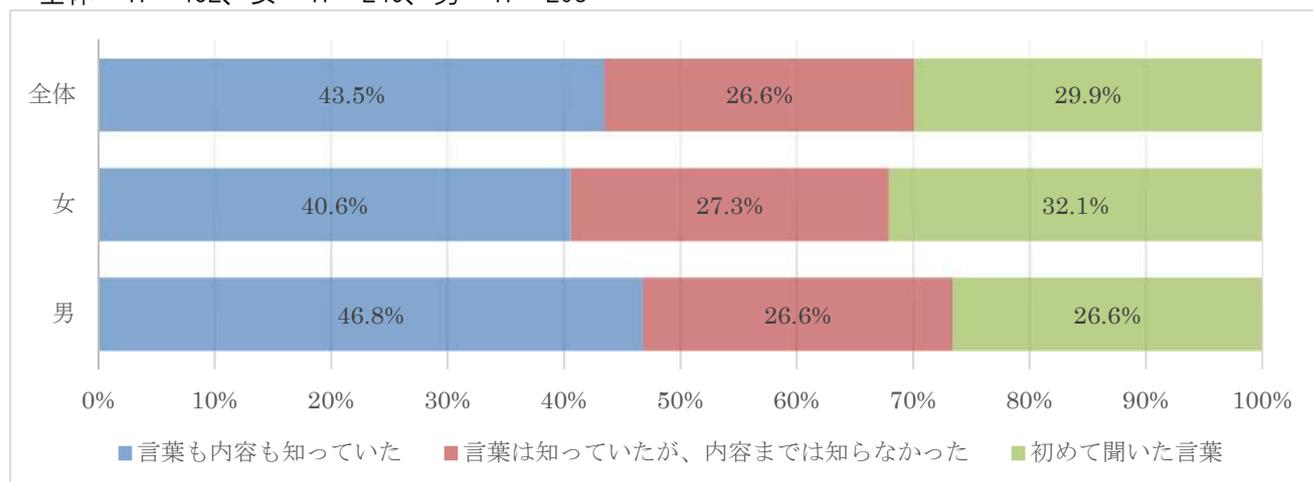
LGBTQやSOGLIEの認知度について

質問の対象：全員（488人）

全体では、〈知っている〉（「言葉も内容も知っていた」と「言葉は知っていたが、内容までは知らなかった」の合計）73.4%に対し、〈知らない〉（「初めて聞いた言葉」の合計）29.9%と知っているが40.2ポイント上回った。

性別では、男性〈知っている〉が73.4%に対して、女性〈知っている〉が67.9%で、男性の方が5.5ポイント上回っている。

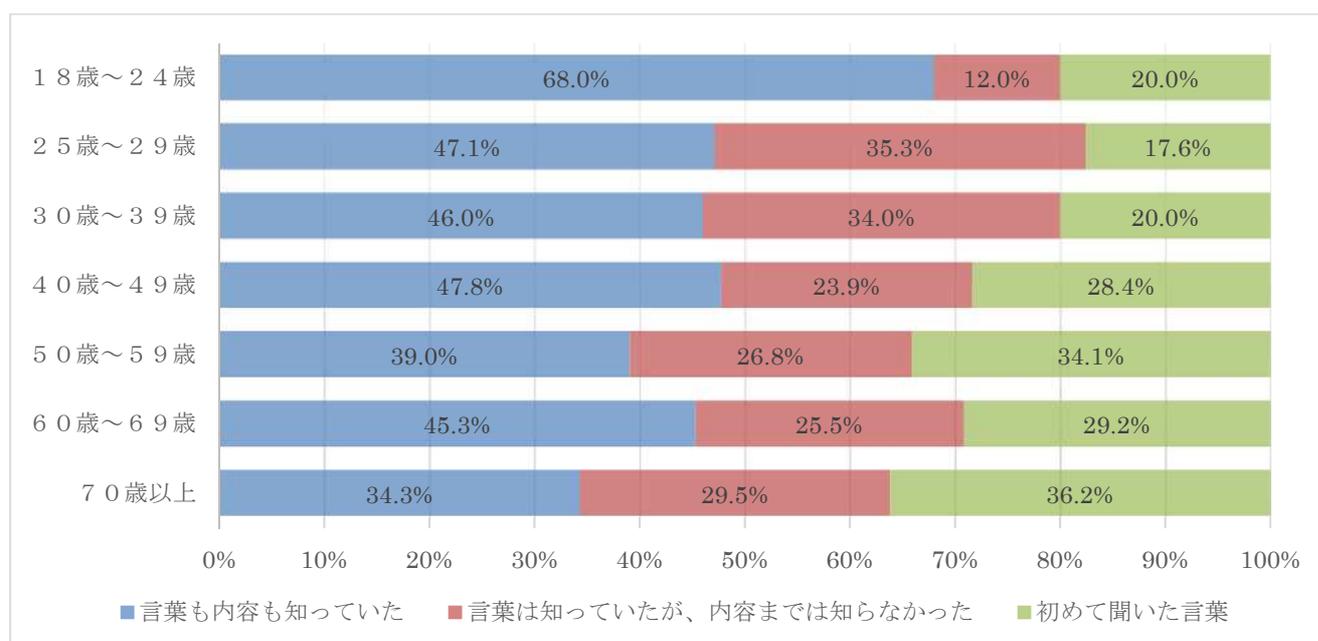
全体：n=462、女：n=249、男：n=203



〇年代別比較

どの年代においても、〈知っている〉が〈知らない〉を上回っている。

〈知っている〉について、最も低い70代以上と最も高い25歳～29歳では、18.6ポイントの差があった。

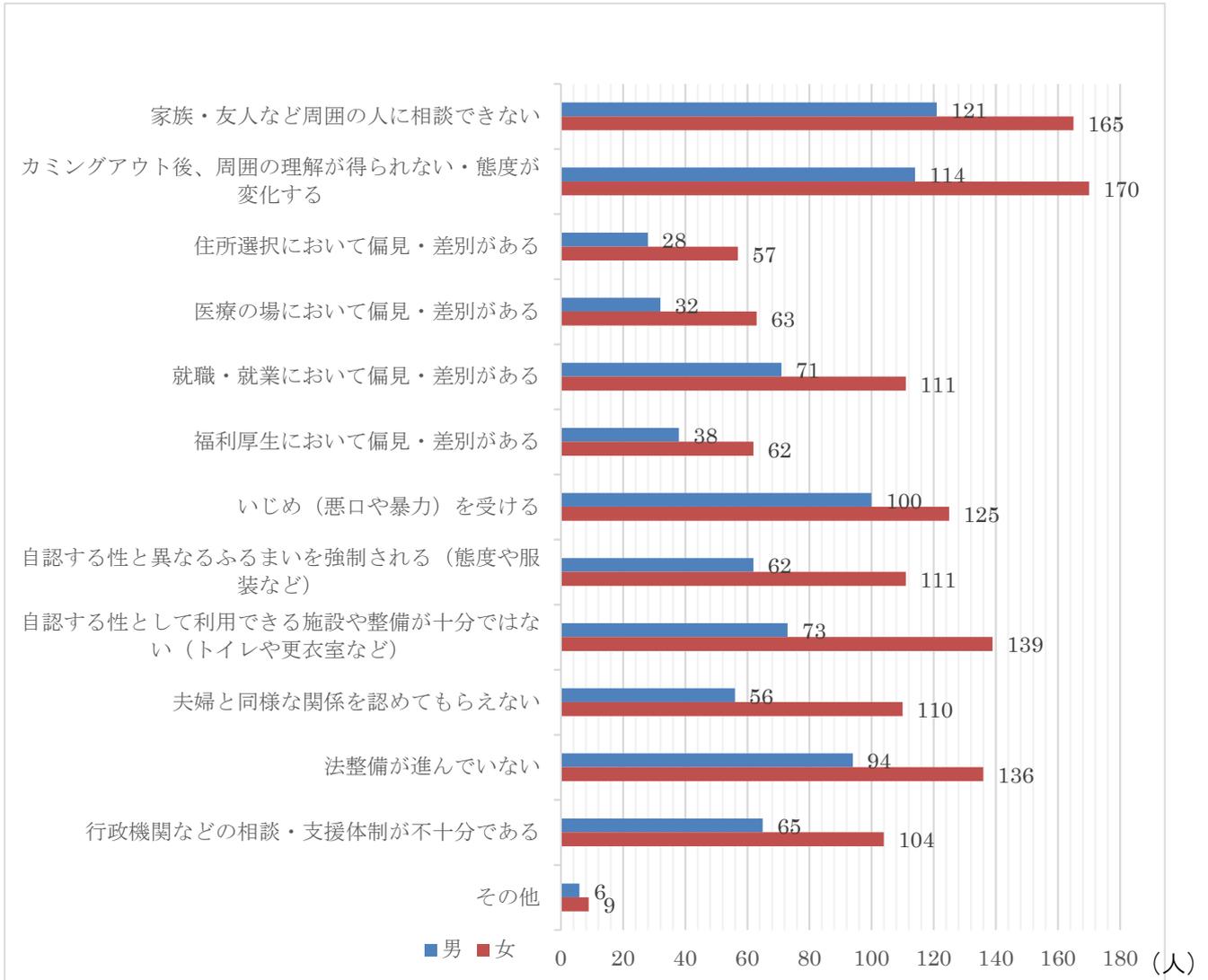


性的マイノリティ（LGBTQやSOGIE）の当事者が困っていることについて

質問の対象：全員（488人）

全体では、「家族・友人など周囲の人に相談できない」（286人）が最も多く、以下、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」（284人）、「いじめ（悪口や暴力）を受ける」（225人）の順であった。

「住所選択において偏見・差別がある」については、男女間において約2倍の差があった。



○性別比較（トップ3）

【男性のトップ3】

1. 「家族・友人など周囲の人に相談できない」 121人
2. 「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」 114人
3. 「いじめ（悪口や暴力）を受ける」 100人

【女性のトップ3】

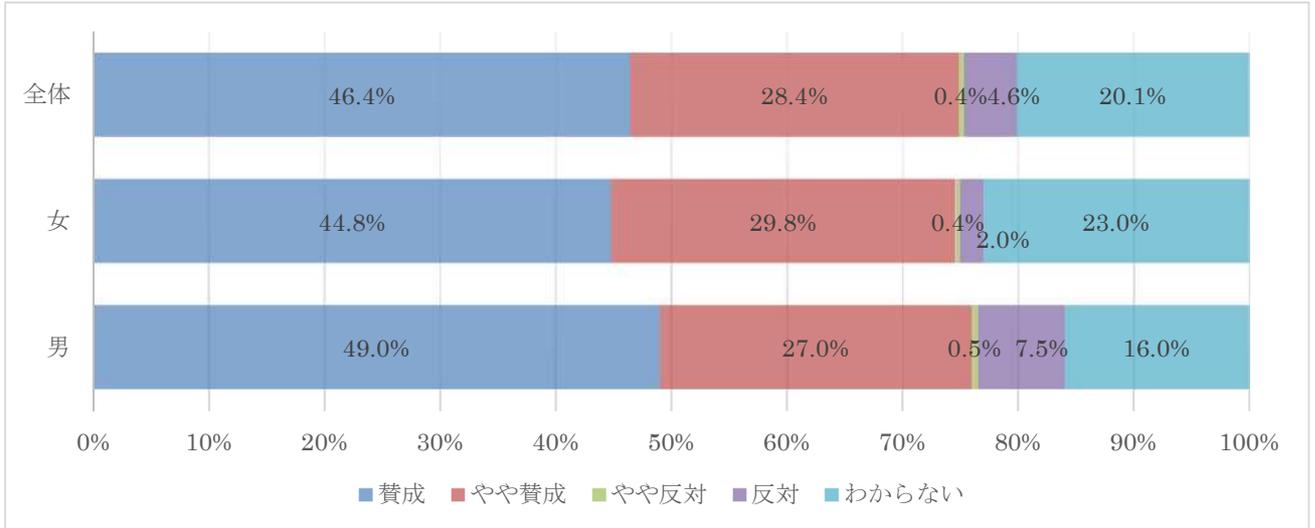
1. 「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」 170人
2. 「家族・友人など周囲の人に相談できない」 165人
3. 「自認する性として利用できる施設や整備が十分ではない（トイレや更衣室など）」 139人

性的マイノリティ（LGBTQやSOGIE）者の困難等を解消するために、
 蕨崎市で次のような取り組みを行うことについて 質問の対象：全員（488人）

【市民への啓発・広報】

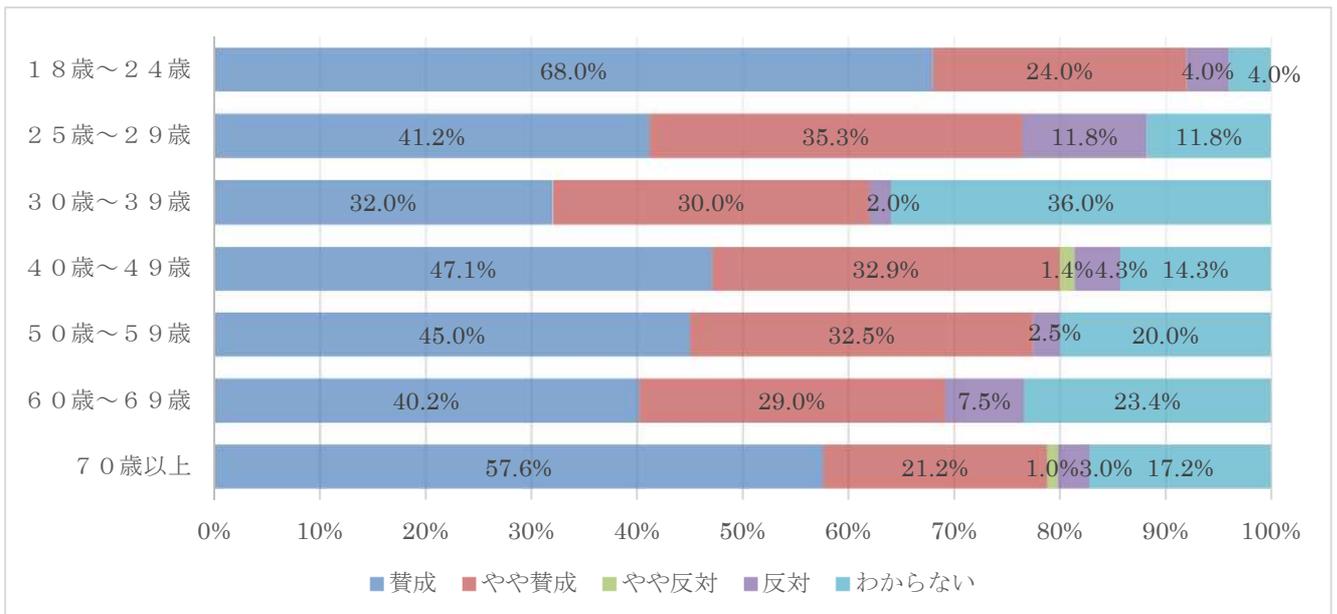
全体では、〈賛成〉（「賛成」と「やや賛成」の合計）74.8%に対し、
 〈反対〉（「やや反対」と「反対」の合計）5.0%と、賛成が69.8ポイント上回った。
 性別では、女性は、〈賛成〉74.6%、〈反対〉2.4%で、賛成が72.2ポイント高かった。
 男性は、〈賛成〉76.0%、〈反対〉8.0%で、賛成が68ポイント高かった。

全体：n=457、女：n=248、男：n=200



○年代別比較

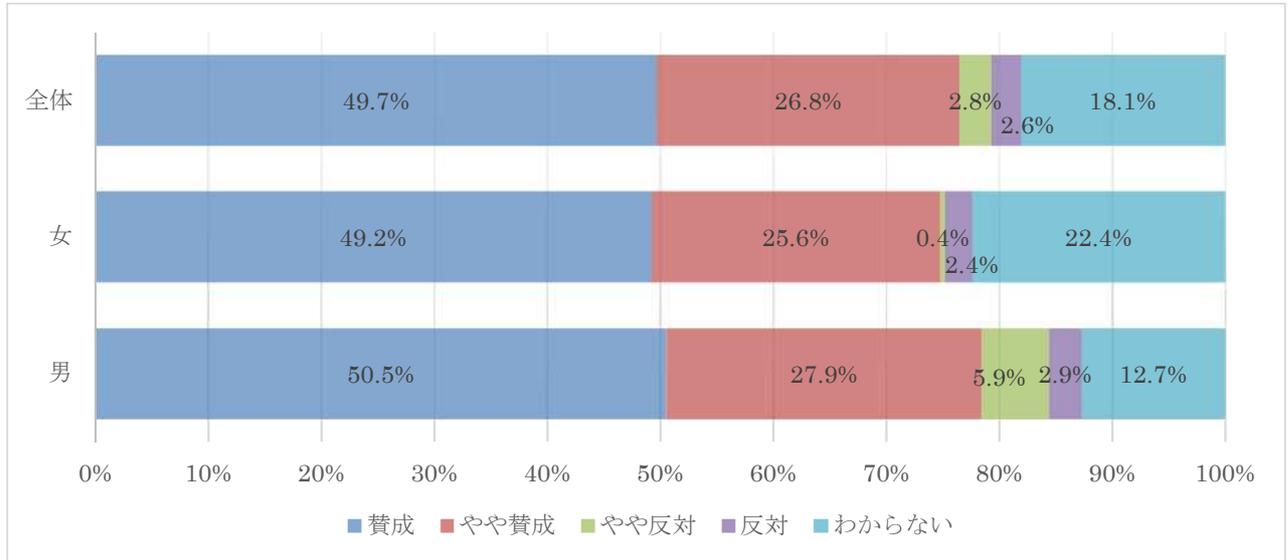
どの年代においても、〈賛成〉が〈反対〉を大幅に上回っている。
 〈賛成〉について、最も低い30代と最も高い18歳～24歳では、30.0ポイントの差があった。



【企業・事業者への啓発】

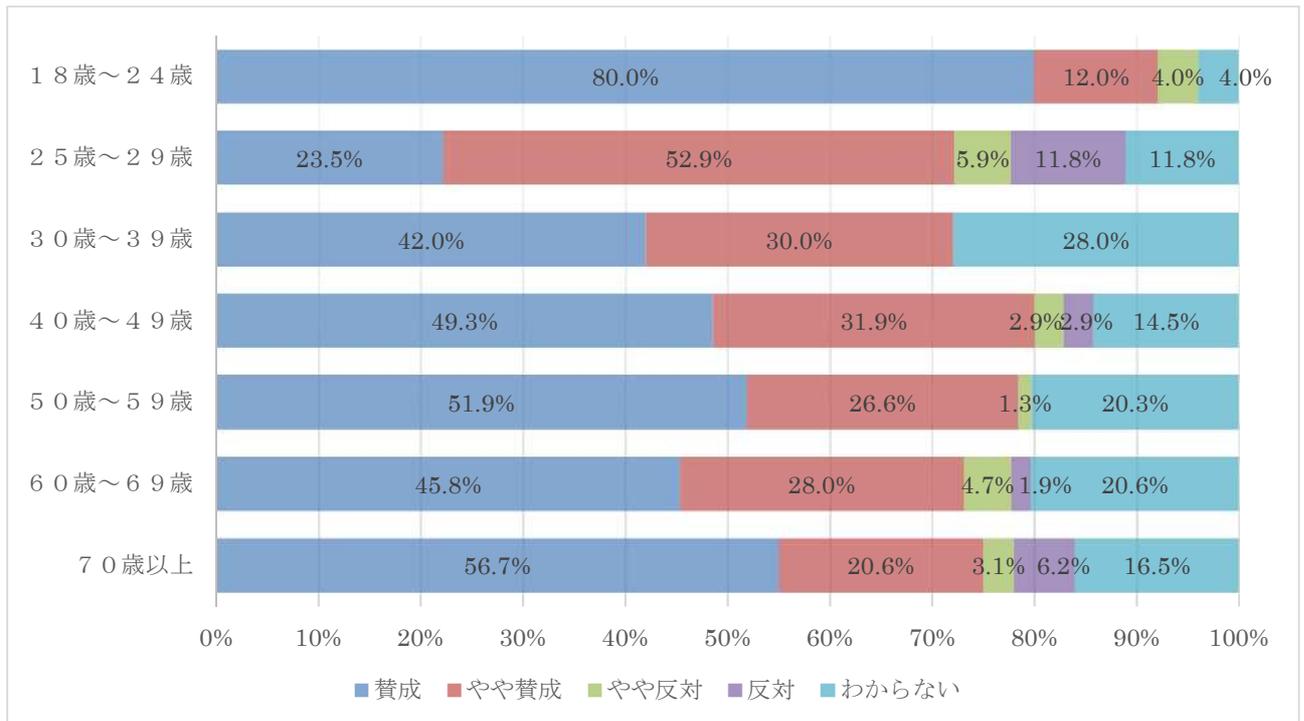
全体では、〈賛成〉（「賛成」と「やや賛成」の合計）76.5%に対し、
 〈反対〉（「やや反対」と「反対」の合計）5.4%と、賛成が71.1ポイント上回った。
 性別では、女性は、〈賛成〉74.8%、〈反対〉2.8%で、賛成が72.0ポイント高かった。
 男性は、〈賛成〉78.4%、〈反対〉8.8%で、賛成が69.6ポイント高かった。

全体：n=459、女：n=246、男：n=204



○年代別比較

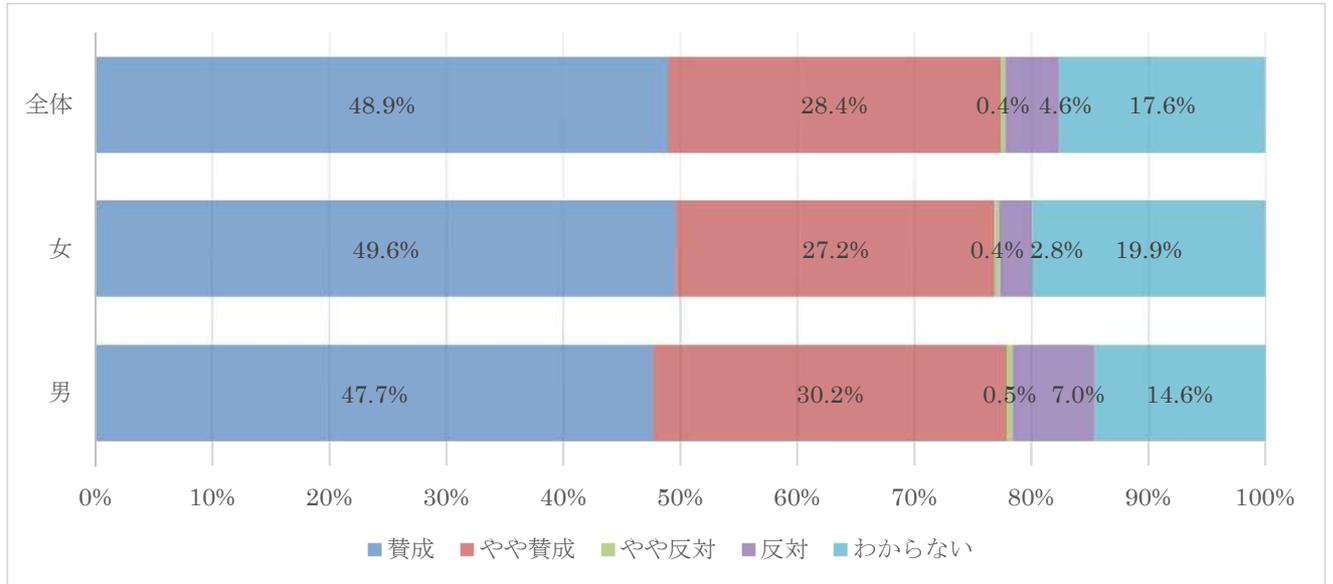
どの年代においても、〈賛成〉が〈反対〉を大幅に上回っている。
 〈賛成〉について、最も低い60代と最も高い18歳～24歳では、18.2ポイントの差があった。



【学校における啓発】

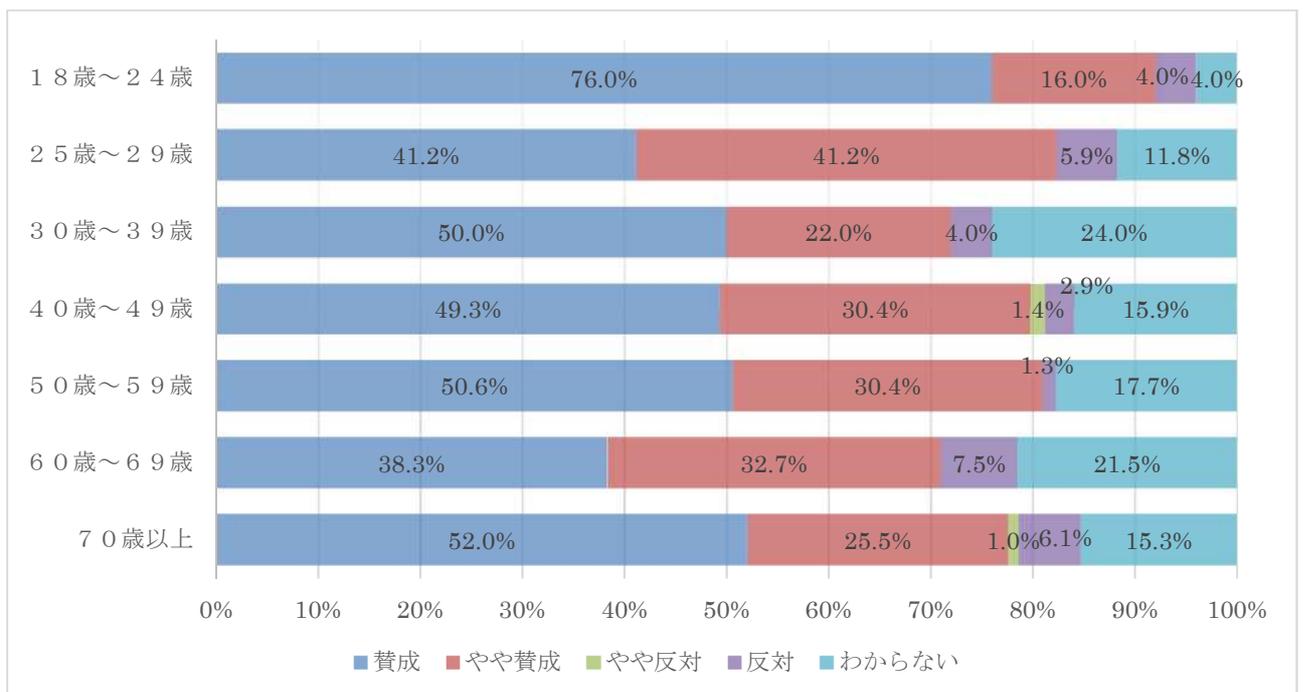
全体では、〈賛成〉（「賛成」と「やや賛成」の合計）77.3%に対し、
 〈反対〉（「やや反対」と「反対」の合計）5.0%と、賛成が72.3ポイント上回った。
 性別では、女性は、〈賛成〉76.8%、〈反対〉3.2%で、賛成が73.6ポイント高かった。
 男性は、〈賛成〉77.9%、〈反対〉7.5%で、賛成が70.4ポイント高かった。

全体：n=454、女：n=246、男：n=199



○年代別比較

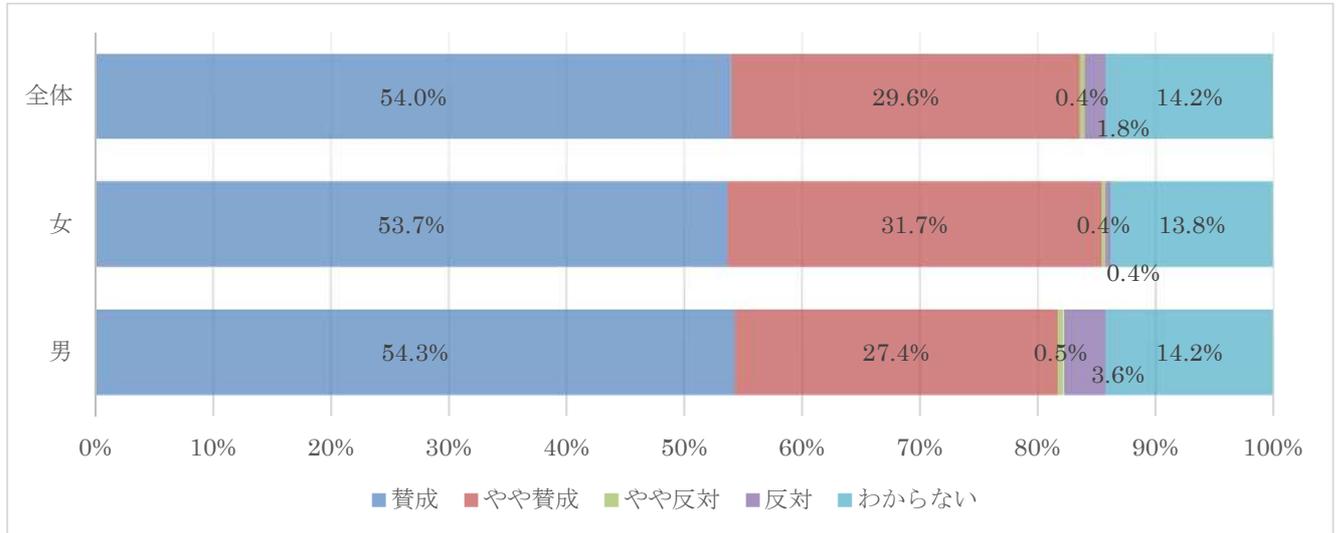
どの年代においても、〈賛成〉が〈反対〉を大幅に上回っている。
 〈賛成〉について、最も低い60代と最も高い18歳～24歳では、21.0ポイントの差があった。



【性自認や性的指向に関わる相談事業】

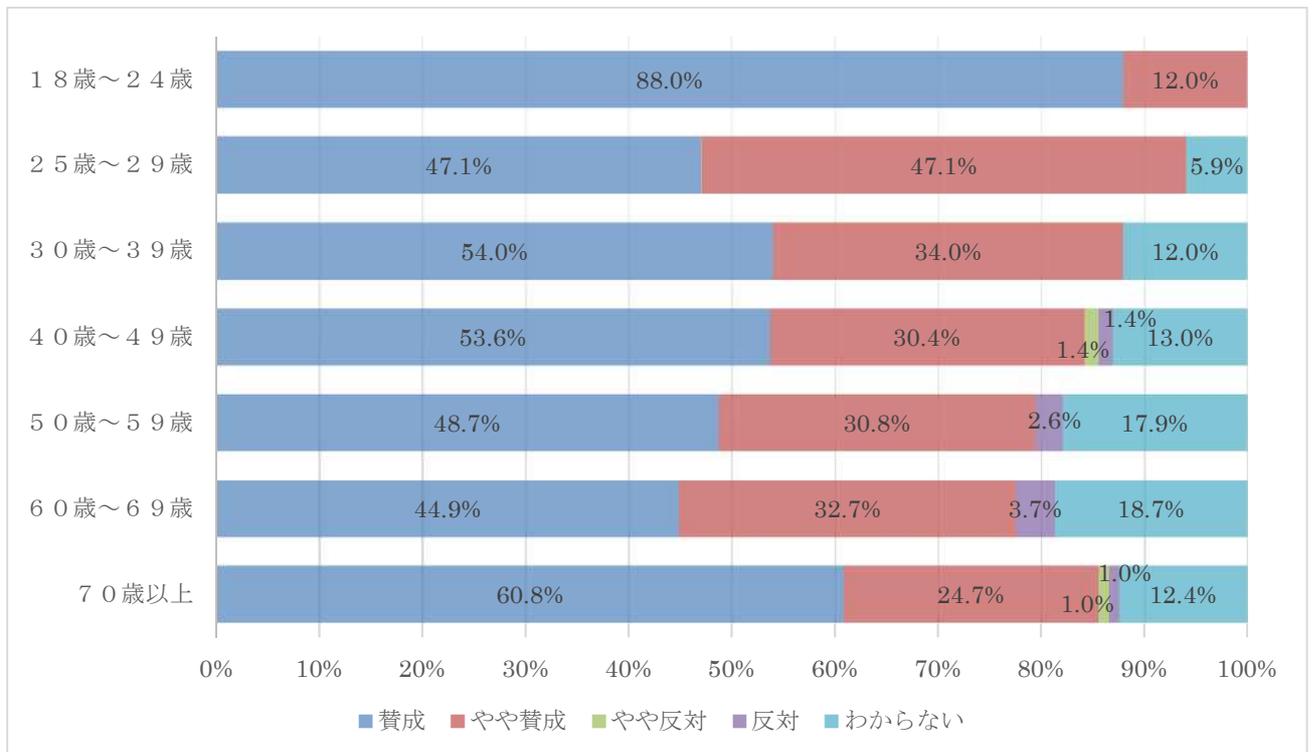
全体では、〈賛成〉（「賛成」と「やや賛成」の合計）83.6%に対し、
 〈反対〉（「やや反対」と「反対」の合計）2.2%と、賛成が81.4ポイント上回った。
 性別では、女性は、〈賛成〉85.4%、〈反対〉0.8%で、賛成が84.6ポイント高かった。
 男性は、〈賛成〉81.7%、〈反対〉4.1%で、賛成が77.6ポイント高かった。

全体：n=452、女：n=246、男：n=197



○年代別比較

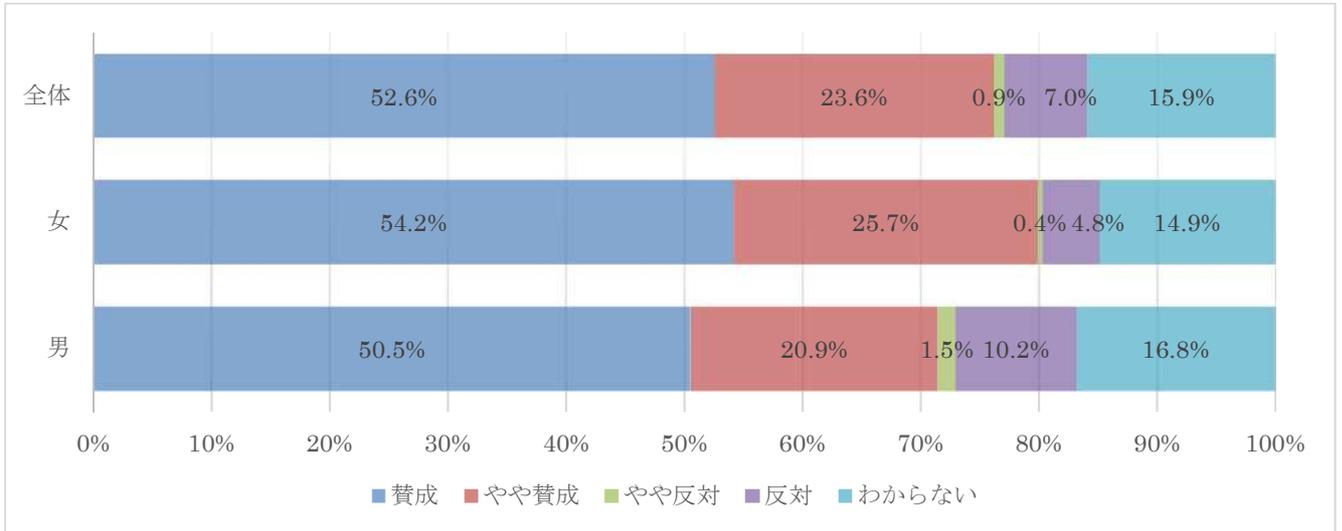
どの年代においても、〈賛成〉が〈反対〉を大幅に上回っている。
 〈賛成〉について、最も低い60代と最も高い18歳～24歳では、22.4ポイントの差があった。



【多目的トイレ等における「どなたでも利用できます」という表示】

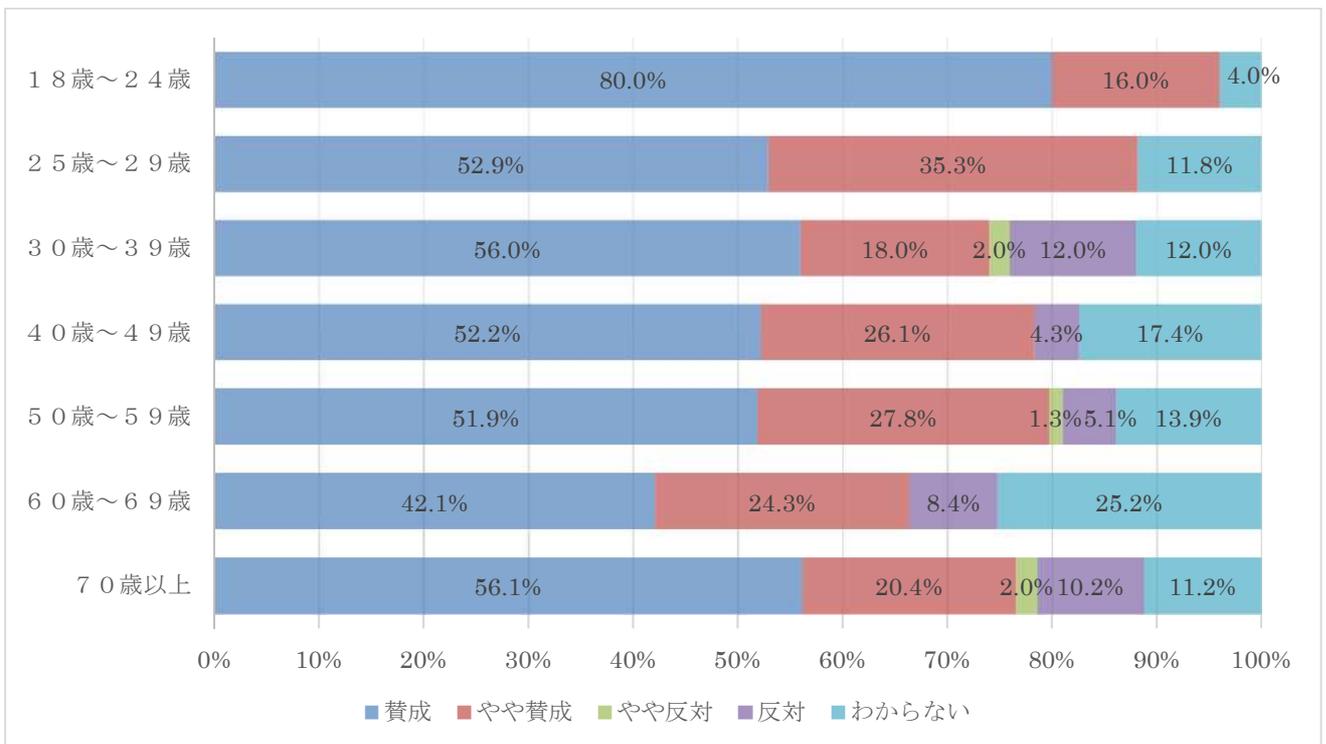
全体では、〈賛成〉（「賛成」と「やや賛成」の合計）76.2%に対し、
 〈反対〉（「やや反対」と「反対」の合計）7.9%と、賛成が68.3ポイント上回った。
 性別では、女性は、〈賛成〉79.9%、〈反対〉5.2%で、賛成が74.7ポイント高かった。
 男性は、〈賛成〉71.4%、〈反対〉11.7%で、賛成が59.7ポイント高かった。

全体：n=454、女：n=249、男：n=196



○年代別比較

どの年代においても、〈賛成〉が〈反対〉を大幅に上回っている。
 〈賛成〉について、最も低い60代と最も高い18歳～24歳では、29.6ポイントの差があった。



パートナーシップ制度について

質問の対象：全員（488人）

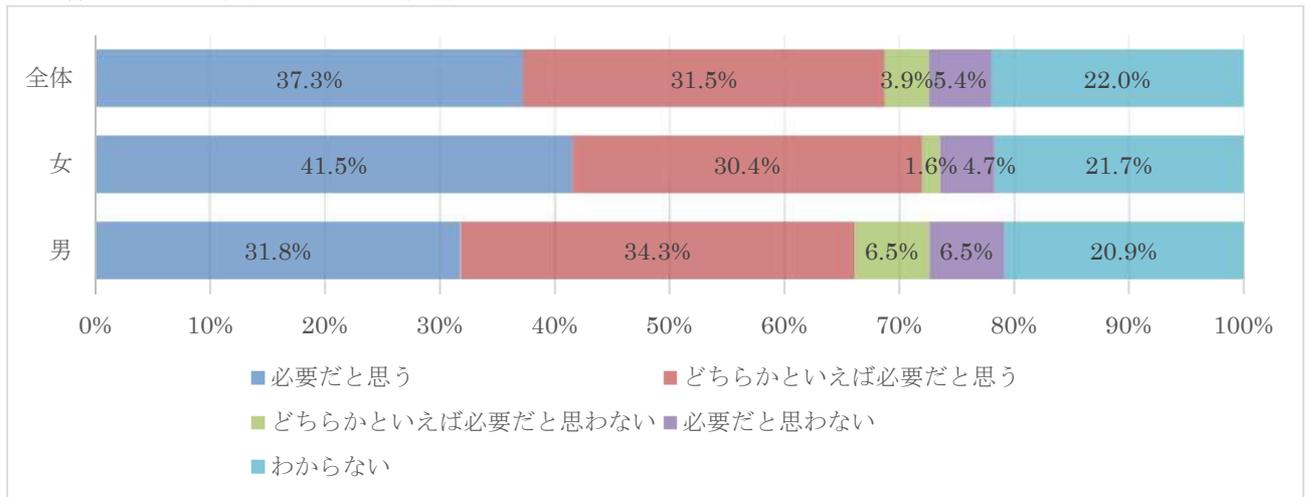
全体では、〈必要だと思う〉（「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計）68.8%に対し、

〈必要だと思わない〉（「どちらかといえば必要だと思わない」と「必要だと思わない」の合計）9.3%と、必要だと思うが59.5ポイント上回った。

性別では、女性は、〈必要だと思う〉71.9%、〈必要だと思わない〉6.3%で、必要だと思うが65.6ポイント高かった。

男性は、〈必要だと思う〉66.1%、〈必要だと思わない〉13.0%で、必要だと思うが53.1ポイント高かった。

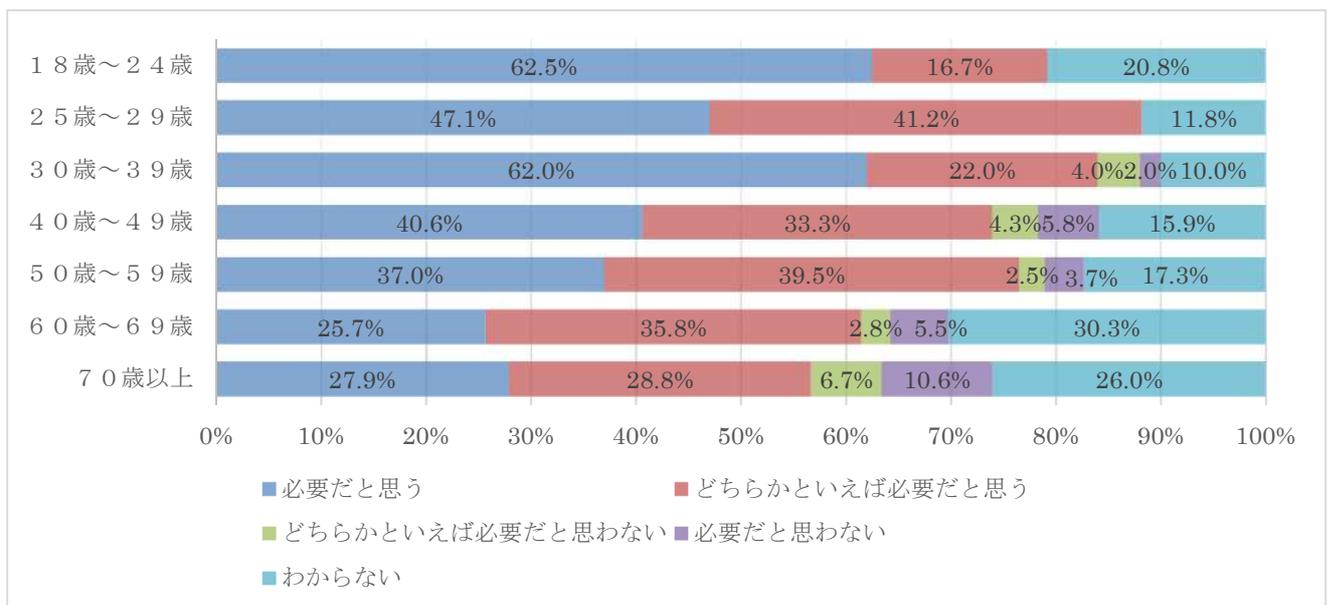
全体：n=464、女：n=253、男：n=201



○年代別比較

どの年代においても、〈必要だと思う〉が〈必要だと思わない〉を大幅に上回っている。

〈必要だと思う〉について、最も低い70歳以上と最も高い25歳～29歳では、31.6ポイントの差があった。



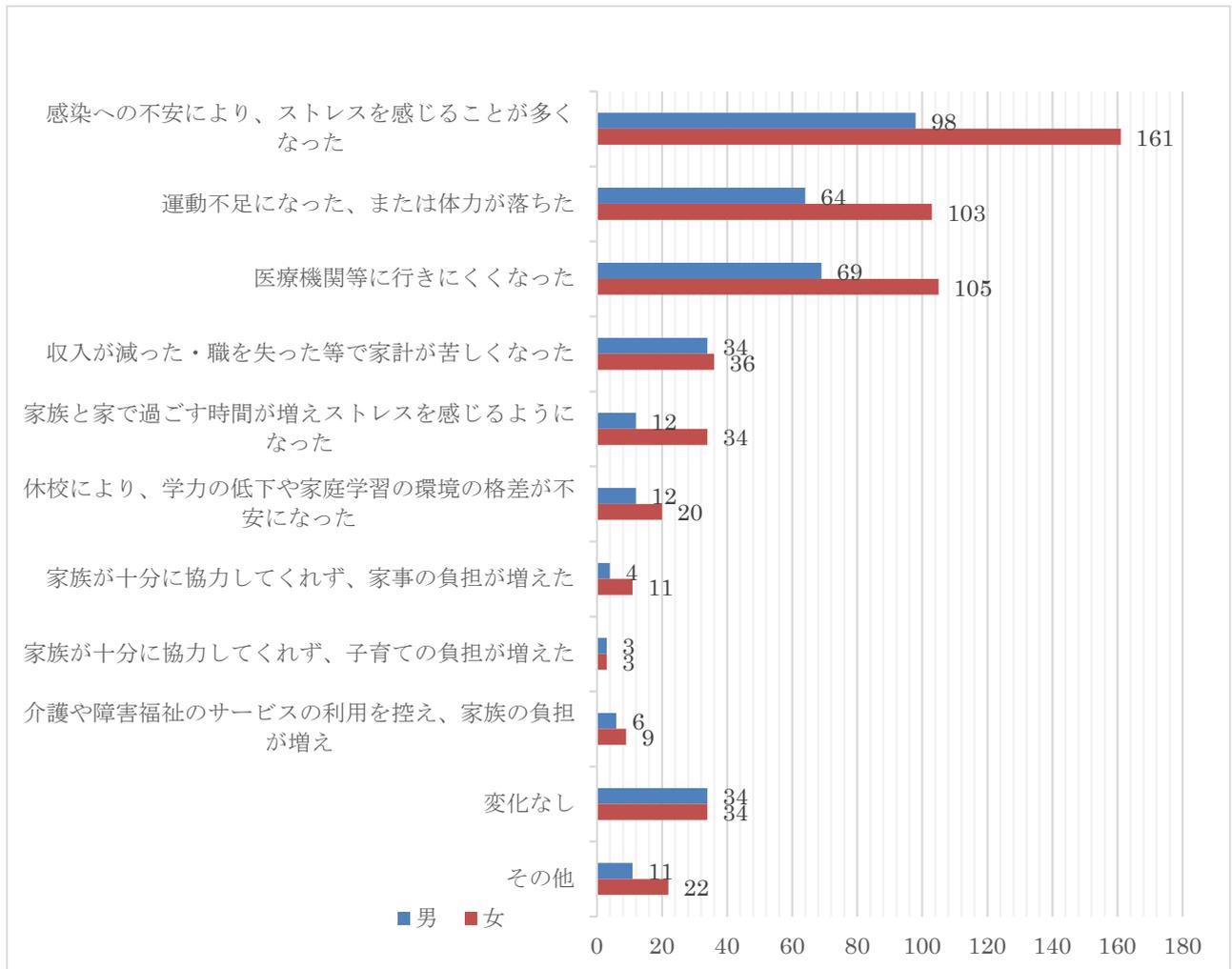
コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化について

質問の対象：全員（488人）

全体では、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」（259人）が最も多く、以下、「医療機関等に行きにくくなった」（174人）、「運動不足になった、または体力が落ちた」（167人）の順であった。

「家族が十分に協力してくれず、家事の負担が増えた」については、男女間において約3.6倍の差があった。

全体的に女性の方が、不安を抱えている人が多く、家庭内での負担も増えている。



【男性のトップ3】

1. 「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」 98人
2. 「医療機関等に行きにくくなった」 69人
3. 「運動不足になった、または体力が落ちた」 64人

【女性のトップ3】

1. 「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」 161人
2. 「医療機関等に行きにくくなった」 105人
3. 「運動不足になった、または体力が落ちた」 103人